79
437

堪察加薩哈嗹

附痌哥斯科沿岸

非賣品

緒言

露國の滿韓を領略するは其南下の漸勢なり、漸勢は露國自らも之を制止するを得す況んや[illegible]を誘發し以て領略を擅にし極めて急劇なる施設を爲すに於てをや今日の戰を招く[illegible]偶然にあらさるなり

我[illegible]進の氣運亦漸勢なり其北海道の開發に次くに樺太堪察加の開發を以てせさる可らさるは實に天の指命人の趨向となす而して樺太堪察加は手を噘ふして露國の略奪に任せ邦人の通漁すら叩りに防拒を事とし既に其漸路を塗塞せるにあらずや滿韓の事なしと雖も彼我の衝突は固より避くへからさるなり、

明治三十一年露政府遼東租借の議あるや大藏大臣ウキッテ極力之に反對し筆舌を盡して其不可を論せし其要に曰く遼東は曩時日人の血を以て得し所而して我か首導の下三國干涉の結果に北返附を強ひ我か保證の言質其痕未た乾かさるに之れか占領を決行するは猛烈なる日人の復讎心を招く而已ならす甚しき淸人の疑懼心を惹起し其施設の困難に次くに干戈を以てせさる可からさるに至らん、日本過等の兵備あるも瘠爾たる貧國其兵を發摧し終局の勝を制する必すしも不可能に非るも行道遼遠、送兵遞糧の難き我國

黒龍會寄贈本

帑を削り兵勇を損する蓋し太た巨大ならむ茲に此の至難に勝ち日本の貧弱は竟に之か培償に堪へさる火を視るより明かなり如かす先つ清人を懐柔し露清銀行を以て其財力を聚め逐次西比利の經營を進め兵力を充實し而して後滿を取り韓を略するにはとベゾブラゾフ、ボベドノフチエフ等の諸權臣此のウキッテの議を取らす俄に滿州の占領を決行せり

韓は實に我か一翼滿州若し露の略する所となれば韓素より危し即ち韓を全ふするは滿を守るにあり露人擅に之を略し刻下我と干戈を交ゆるに至り海陸連に敗れ旅順遼陽の陷落旦夕の間にあり我の勝算天と共に所先憂の士往々にして戰後を講するものあるもの蓋し蹤なり吾徒はウキッテの滿韓經營意見に見て戰勝後の我か之に處する所以の措置如何を究め之を先憂士に質さん

我か露國を伐つは露國を亡さんと欲するものに非す實に是れ東洋平和の保證にして露國の侵略を制壓し我民族發展の餘地を求むるにあり故に我軍の長驅歐露に入らさるを卜想するに難からす即ち戰の勝敗は西比利滿州の野に於て決せむ

滿州は露國の租借地たりと雖も確かに清國の領土たり韓は既に帝國の勢力圏に歸せり と雖も李氏の領土たり殊に慰問使侯爵伊藤博文の韓廷に派遣せし數件は現狀保存の意味

に外ならす況んや我か皇上宣戰の大旨徒らに大陸の爭原に向て領土を侵略するにありて存せされは戰勝後我滿韓に求むべきもの彼の露國の擊に倣ひ領土占有にあるべき歟將た我同胞の移殖に依る農商工乃至鐵道鑛山等諸種の特權にある歟論者或は言はむ領土なる哉帝國亦た大陸に藩圃なかるべからすと

露國の敗明々照々たり吾徒は前年黒鳩將軍の來游に際し之を論せり曰く戰はさるに敗るゝの日本を以て戰を避くるに勝つの露國に當る彼我の成敗察すべし露人の大兵を擁して戰はさるの戰を挑むもの我か廟廊諸公の與みし易きを知れはなり我國民の輿論察すべし我か經濟の情況察すべし我か國力不等の軍備は是れ對露の軍備なり永く之を保續するは我か經濟の礎盤を危ふし敵國の軍備充實を目して不利の戰期を俟つものなり盍そ丞かに兵を北地に進めさると我か廟廊遂に輿論の表に抗する能はす頼に兵火を開き今日の連捷を得るに至れり

曩時彼の主戰の權臣ベゾブラゾフ、ボベドノフチエフ、アレキシフ等の無謀其國を誤しは實に急激なる領土擴張に基因せり乃ち其國力に伴はさる領土擴張と經國の良策に非るのみか若し我が戰後に於て翠に之れに倣ふことあれは亦た如何の結果を見るや圖るへからす之を省みよ戰勝後に於ける我急激なる領土擴張は列國の妬視する所たるは勿論

にして我國力と財力とは竟に亦た之を經營するの餘力を剩さず論者或は言はん巨大な
る償金を得て之か施設を圖る必すしも自國の財力を須いすと這個の論必すしも非なら
ず然れとも露は歐州の强國敗後に於ても自ら讓る所程度あり之をして城下の盟をなさ
しむる素と容易ならや又我開戰の深意茲に在りて存せす必すしも窮殛せんとせば露國
東方の覆轍に陷りウキツテの笑を買いむ而已
乃ち之れを如何せは可ならん乎是れ固より國家重大の問題各自齋しく周密詳愼一毫の
悔を遺さゝるを要す吾徒は今ま之が詳論を噎し其心の願ふ所の概要を陳すれば第一韓
収むへし之を収むるは占領の謂に非す第二滿取らさるへし取らさるは之を失ふの謂に
あらす第三西比蒙古通商通漁の特權取るへし之を我か獨手に占むるは非なり唯我か舊領土權
鑛物の採取權取るも妨けなし然れとも之を我
太堪察加に至りては必す之を復すへし之を復し幷て自他沿海州海岸通漁の權を収むへ
し更に大なる滿西の讓歩を敢てするも必す之を復し之を取るを要す償金の額に至りて
は二に機宜にあり必すしも巨大を期するに及はす
就中吾徒の必す箇の樺太堪察加を復せんと欲する所以の者は同地は實に我同胞北漸の
地にして移すへからさる天資の秘庫なれば之を復して我永遠の資源を策し民生の幸福
を圖る極めて就し易しとなす此の二地を我手に復し多少の施設を了るに至らは其漁獵
収益額壹億圓を収むるは太だ難事にあらす之に自他沿海州海岸漁獵通商の特權を加ふ
に至れは其收利二億を卜算するも過等にあらさるなり加之地歐露を去る數千里空漠無
人の山川原野を隔て容易に其の兵を移すへからす是を以て之れを滿西に比すれは其設
施の難易同日の論に非さる而已ならす其の收利は擾に之に倍蓰し他日彼我衝突の虞亦
太だ薄し論者の言ふか如く露國東洋艦隊の數を限り韓境南滿に屯戍を置き彼の南漸の
衝を拒くとするも之に要する國費の增加は俄に之を滿韓に徵るへからす況んや韓の經
營施設は我か戰勝後の大事にして其費す所と其得る所とは俄に算を得るに至らさるへ
し得失の數利害の算今斯の如し先憂者の講究更に益す周密詳愼なるを禱る
吾徒が茲に斯書を編するものは他なし我か先憂者の視線動もすれは前面の龍驤虎臕を
望み猥りに大陸の占有を皷吹し後へに我舊領域の天庫あるを忘るゝあるを以て諸同人
年來の探見實査に取り內外諸文書の正確なるものに考へ補綴增訂堪察加薩哈嗹二篇を
なし世の先憂者の一考に資せんとす我先憂者冀くは斧に彼れ露國の無謀なる領土擴張
に倣はされ茲に吾徒の管見を逃へ本書編纂の徵志を陳すること爾り

黑龍會主幹　內田良平識

蜀兵の三たび出て、魏を伐つは、境を拓くの謀にあらず
して、其自ら守る所以なり、孔明にして始めて之を爲す、實
に萬軍の爭地は、民人厚生の謀を講ずるの地に非ず、我古
の奥蝦夷は、今の露領堪察加なり、又た北蝦夷の樺太は、今
の露領堪察加なり、地物豐饒にして、天庫未た開けざるの
觀あり、況んや戰血漂杵の處にあらさるなや、幸に之を我
に復するを得は、蜀の險に并するに、遜の宮を以てし、舜の
德に并するに、禹の功を以てするか如けむ、地の利、人の和
是に至りて始めて、萬邦を順使するを得べきなり、

目次

緒言

第一編　堪察加半島

第一章　概要……一
第二章　東海岸……一
第三章　西海岸……十五
第四章　本會員採見紀行（其一）……二十
第五章　本會員採見紀行（其二）……二十六
第六章　質問應答記事……三十三
第七章　本會員採見紀行（其三）……四十一
　ペートルパウロフスク人口及居民。　島内の居民及生活。　彼等の自治。
　彼等の宗教。　彼等の悔毒。　ヤクトとカムチャダールの區別。
　堪察加の覇王。　コオチク會社の組織。　日本漁業家の漁業方法。
　堪察加の沿岸貿易。
　……四十六

沿革。　氣候及風位。　地味及植物。　物產。　道路及都邑。　人種。
人情風俗。　言語。　敎育及宗敎。　衛生。　行政。　軍備。　殖民。
牧畜。　獵業及漁業。　貿易。
第八章　國際的漁業に關する黑龍江沿道總督府國財省支部の意見……九十九
第九章　カマンドルスキー島……百　六
概要。　獵虎と膃肭臍。
第十章　オホツク海沿岸……百十
概要。　鱒漁情況。　大日本水產會員某氏記述鱒通漁航路概況。
第十一章　堪察加オホツク補遺……百二十七
晴雨表及漁期表商業表。　ベートルパウロフスクに於けるパロメートル
平均及比較。　オホツク及堪察加諸川河漁則。　オホツク及堪察加地方
商業。　商品價格表。
第十二章　住民の漁獵……百三十四
住民狀態。　漁業。　獵業。　貂。　狐と木鼠。　オロスソマ。　ゴルノスタイ。
兎。　猪。　鹿。　猿。　熊。　獺。　アザラシ。　モルジユ。　鯨。　海鼠

第二編　薩哈連島……
第一章　通漁概況……百六十七
トシミツト博士薩哈連紅魚保護意見。
第二章　地方區別……百六十七
アレキサンドルスキー郡。　附記ニコラエフスク附近通漁概況。
本會員報吾露領の漁業及輸入品稅率。　ツイモフスキー郡。
コルサコフスキー郡。
第三章　國際的漁業に關する黑龍江沿道總督府國財省支部意見……百八十三
第四章　本會員蹈査實況……二百
位置及地勢。　露西亞政府か薩哈連島に對する各方面の經營。
殖民。　四人。　移民及土人。　行政。　兵備。　敎育。　道路。　運輸交通。　農業。
牧畜。　山林。　獵業。　海產業。　貿易商況。　採炭業。　結論。
第五章　マチロン島……二百十六
地理及氣候。　水族及潮流と漁期。　附堪察加半島及オホツク沿岸地圖。

第一編　勘察加半島

第一章　概要

沿海州の一部に屬し面積凡八萬平方哩其南端ロパツカ岬は我が占守島と六海里を隔て對峙せり西岸は灣曲少なく砂濱相續けり東岸は岬嶼港灣多くして二條の山脈並行し南北の方行に橫れり地質は花崗石斑岩片岩玄武岩粗面岩火山岩を基礎とし火山多し東岸に流出するものは勘察加河にして東西兩山脈間を北流し東折して勘察加岬の南に注げり長さ二百哩其流域土壤肥沃にして住民多しと云ふ二月に於ける寒暖は平均華氏二十一度許七月に於て平均五十三度許六月下旬壹十八時間なるも十二月下旬に至れば僅かに六時間なり西面の地方は夏期の濃霧多期の降雪共に多し之に反して東面の地方は比較的晴快の日多しとなす耕作物は唯勘察加河の下流に於て少許の麥及び馬鈴薯キャベッ葱等を植ゆるに至らざるか蓋し全島天産の豐富は未だ耕耨の端を開くに至らざるか

住民は約八千口と云ふ而して北部に住する三千人はカムチヤダールなり其他ラムートありヤクーツ及ギリヤクは極めて僅少なり夏期

米人露人韓人の出稼あり土人は魚獣の肉及百合根等を食用とす

羽太正養論じて曰く陸奥上北郡より西南四國九州二島に至る凡六百里東北勘察加に至る六百里誠に日本の中央と云ふべし正養又曰く勘察加の地は漠土に加莫斯葛杜加と稱す是素より我が帝國の域内に屬して他の領土にあらざるなりカムサツカ云ふはカムシヤツケと稱する蝦夷語に起れるものにしてカムとは魚肉の義シヤツケとは乾酒の義なり乾酒は所謂漁塲の有樣にして其河をカムシヤツケと稱し遂に地名を總稱するに至るものなり此の地の土人此の大河にて鰡魚を漁しアタッと名附けて乾酒し食料に供すカムサツカの名因て起る所考ふべきなり

アイヌの言語は往々我が古代の言語の一部混同せることあり今に至りても常州奥州の海濱其地名にアイヌ語を殘せるものあり勘察加は實に我が古の奥蝦夷にして其名稱も決して土人の自稱にあらず又た他邦人の附せし名稱にもあらす我が邦人の下だせし假稱の現存せしものなり

勘察加に數種の土人あり猶ほ太た蒙昧にして其の各人の名稱を附せしは極めて近世のことにして地名を附する如きは更に後世のことなり況んや古來我が朝廷は蝦夷の名を以て北方荒遐の地を稱し坂上將軍の北鎭以降は武門の族君臣兄弟抗爭を事とせざれば

浮華淫奢に流れ朝廷は公卿の靡吹笛掻絃の土偶人となり亦た民生萬年の計を立てざりしは蝦夷三島の其の二を失なひし遠因たり

露國が本島を領略せしは十七世紀末にして僅かに三百余年以前なり我が徳川幕府の賢相松平定信が人才松平忠明石川忠房羽太正養等を擧けて函館に奉行所を開き北鎭に任せしは殆んど其百年の後にして後人其業を嗣き志を北方に擴にするもの甚た尠きのみならす當局其人なく維新の始めに至り竟に露人の威壓に屈し我が領土たる北蝦夷の地と共に奥蝦夷の勘察加は不知不識の間に露國の領有に歸し將さに後世をして我が舊藩屬の域たるを知らさらしめんとす嗚呼北地露人の脚を入れてより玆に二百余年なり清領黒龍江北一面の地を奪ひ我が虚に乘して祖宗の領域たる樺太東察加を略し二十七八年戰役に至りて千古の大侮辱を我が君臣の面に加へ遼南一帯の地を還付せしめ北清戰役の後に至り自ら出てゝ其土を取り大に海陸の兵を移して韓境に入り以て我に臨み我をして遂に干戈を抛るの已むを得さるに至らしめ大詔煥發今や王師海を航し其無道を伐ち海陸の捷報叩りに至る其戰期の長短は今俄かに之を卜想し難しと雖も戰局の勝算は天人共に許す所我が北海の舊藩を復する亦甚だ遠からさるを期す當年北鎭の任に當りし松平定信等の諸賢若し靈あらば又應さに地下に一笑すべし

我が古の奥蝦夷地察加半島は實に北門の天庫今の交戰國露西亞の領界する所たり之を復するは皇民の任のみ記憶せよ奥蝦夷は北方に偏すと雖とも其氣候我が千島に勝り土壤亦美なり其海産の富饒のみならず陸産の伏するもの亦得て想像すべし我が四千五百萬の同胞は年々五十四萬の增殖を見剩民內に哭して物資逾よ足らず之れを是れ奈何すべき蝦夷の剩地は古ッアーリの領土に非す正に我が同胞に復すべきの地たり請ふ妄りに露領堪察加の稱を下す勿れ

本年二月本會に二三の實地探見者と新刊の露國文書に基き左の一編を綴り之を五六の有志者に頒てり稍や缺器に失すれとも之を揭けて其の一斑を窺知するの資に供す

堪察加一帶の山脈は嶙峋嶂巃極北の天を劃れり快晴の日海上遙かに之を望めば絶大豪宕なる一幅の畵山水にしてロパッカ岬岸飛嶮亂嶼の頭カタローフ火山の噴火口突如凸起圓錐形をなす半島海端の諸山皆源を此の山脈に發しイーリン火山より支脈東海岸を繞り勢倒るが如し曲處及ひ崩潰の箇處奇觀百出名狀すべからす地理的細識より陵谷變遷の遺跡學者の研究に資すべきもの多し

ペートルパウロスクの上に堪察加山脈に沿へるジュバノーワアヤ火山あり其支脈分離し更にオゼルナーヤ岬の東海岸を繞り以て中部の山脈に合し漸く海岸を相隔たり

林丘多き小原となる堪察加半島の全体は中央一簇の山脈より東西の諸山を發し山巓概ね踏み潰したるが如き形狀にて其間アツチンスカーヤ、コラヤツウカアヤ、ジュバノオマアヤ、クルユチュースカヤ等の嶮絕秀美なる諸火山あり又其山脈中に噴火せさるもの二十六峰今現に烟焰の噴出せるもの十二峰あり近世に於ける火山の爆發は一千八百四十三年クリュチエースカヤ山の爆發一千八百五十五年アワチンスキー山の爆發と云ふ當時の現狀を目擊せる老年の土人(カムチャダール)猶は存在せり兩山の巓は爾來數丈の雪を戴き全く植物を生せず山腹山脚亦坼けて削るが如く溪谷の間に於て落葉松松柏銀松柏樹等多くの尖葉樹を見る山麓稍淺きに至り樺赤楊白楊水楊の諸樹茂生し稀に非常なる大木を見るとあり附近の原野は青草人を沒し地味の甚だ富饒なるを知る溪谷の水漸く流れて若干の小河をなし又た合流し海に近つき一大河をなせり

氣候は寒暖二潮の交換と地質及ひ山脈によりて一種の變化を有せりオホック海の潮流は温帶潮なるも其北部諸川河は八月に至り猶は氷澌を流し爲めに温暖なる潮水を寒冷ならしめ加之山巓の空氣と平地の空氣と甚しき寒暖の差あり去來の海風放まゝに大氣を交換し土壤の温濕は濛々たる蒸霧を釀し眼前咫尺を辨し難からしむ寧ろ言

はん堪察加は其極北に近き割合には寒氣峻酷ならず殊に東海岸南方半面の部分は占守附近よりも温かなり同地方は嚴冬に於て零度以下十二度夏期に於て十度乃至十六度なり晩秋は濃霧空を鎖し陰雨多し十月より十一月(日本暦に比し十二日遅し)に於て外套を用ゐず屋外の歩行に堪ゆべし多期に至れば島内積雪甚た深しと云ふそは多くの河口が春暖に及んで太しく其水量を加ふるに見て證明せらるゝなり四月の末に及び山の側面及ひ低地に於て次第に雪の消ゆるを常とす非常なる西北風あるときは猶は寒氣を感すれども風候順を得れば五月さへも早や暑氣を感するなり東海岸下堪察加河に沿ふてクリユチエスカヤ火山あり地中温度を激するため多期の平均零度以下八度盛夏一ヶ月間は十三度許にして他の五ヶ月間は十一度を越へす故を以て春蒔の麥及燕麥は成熟を得其他の作物は成熟の望みなしロパーツカよりチギリラーガ迄一帯の地は地味氣候稍相似たり

曾て哥薩克兵の屯田せし時代は工業學校宗教學校孤兒院癩病院製鹽所等設置せられ稍や文化の端を啓かんとせしが屯田中止せられしより總ての設備は投棄の姿となれり當時は獸毛の産出多く就て哥薩克の生活を飽剰ならしめしが其哥薩克の生活は自然に土人を移し榮々たる宮廬は木造の家屋に化し衣服履穀等も逐次歐羅品の講入を促し來れり殊に酒茶烟草の如きはカムチヤダールの最も嗜む處にして相競ふて輸入の美味を趁ふの姿となれりペートルパウロスキーに六ケの酒舗を啓くに至れるもは蓋し土人が生活變動の推移を證すべし

爾來カムチヤダールは天然物以外に自個生活の爲めに物資を作出するの方法に向はす一に其地の天然物に依りて一日送りに生存するに過ぎす而して其生活の主要なる麥粉鹽針糸等に至る迄移住人の暴利を貪る儘に毛皮類と交換されつゝあるなり故に現今獸類は著しく減少したりと云へり是れカムチヤダールの極めて拙劣なる獵法は正さに走獸に人間の恐るべきを知らしめたる結果にして稍狩獵の難きに至れるものにしてカムチヤダールの獵獲減少を見て直ちに獸類の減少と認むべからざるもの丶如し黒貂狐黄鼠の種類ロスームマフ(北地の貪獣と稱するもの)アザラシ獺海馬等の饒多なるは現今と雖も實に筆紙に名狀すべからざるなり上記の獸皮は比較的安價に交換され年々諸種の方法により欧州に輸出されつゝあり黒貂は堪察加に於ける唯一の産物にして移住人等が貿易の主要品なり現今其貿易の有様を畧叙すれば土人に對する金錢の交換は極めて寡少にして大体カムチヤダールが衣食に資すべき物品と引換ゆるを常とせるが如し故に其交易は想像も及はざる暴利を貪るを常とせり今其

二三の實況を述へひに三十哥乃至三十五哥の磚茶は一留乃至二留に當て五十五ヲン
ト入の麥粉一袋は五留乃至八留に當てカマンドルスキー島に於て竪網に要する網糸
は一カセ二フント(一フントは我百九匁)に付六十五哥を價するものはペートルパウロ
スキーに於て一留七十五哥に轉賣さるゝを常とす而して蠢愚なるカムチャダールは
自個の獵獲せる獸皮に標價するの知能なく勝手次第なる評價の下に過等なる生活物
資の價額に準して交易をなし極めて晏然なる狀態なり這箇の班に考へ堪察加に於け
る白人種の跋扈を知り得べきなり

他人種の不法なる貿易はカムチャダールをして竟に永久蠢蕃の境遇を脫却せしめさ
るべしカムチャダールが生活は平生非常の高價なる物資によりて厖かに繼續され其
漁獵に依りて獲たる所の貴重なる獸皮は厖少なるパン乃至茶煙草に交換され年中大
半の雪籠は殆んと飢餓の中に送りつゝあり故にカムチャダールの人口は逐次減少の
勢を示せり此の有樣を繼續して二世紀を經過せばカムチャダールの種族は跡を絕つ
に至らんのみ

中央の大山脈より分派せる山脈と山脈との間大なる峽谷あり野草茂生し尤も牧蓄に
適す然れとも白痴に等しきカムチャダールは馴獸を見ると野獸の如く其屠殺し易き
が爲めに放ちゝに之を斃し無意義に牧種を盡すなり故に現今に至るまで牧業の發達
を見す唯僅かに厖少の牛馬と橇犬あるのみ

今堪察加に於ける膃肭臍臘虎貂熊羆等の概略を錄せん

ロパーツカ岬よりリストツウエンナヤ灣に至る東海岸一体千島を控へて臘虎及黑
貂等の栖息極めて多し此地年來露國政府の動物保護地にして八人の哥薩克兵を常
置し臘虎の濫獵を監守せしめ一人に付一年一頭を限り捕獲せしめ以て政府に納入
す可き規定なるも哥薩克兵は常に多數の捕獲をなし秘して政府に納入せず三十五
年或る哥薩克兵は十五頭の捕獲をなし陰匿して一頭をも捕獲し得すとの申告をな
し發覺して嚴罰を受けしが如きに見るも其捕獲の容易なると接息の饒多なるを推
知すべきなり

クロノーツコ湖を中心としてヲユバノーワ河よりチャヲマ岬に至る沿海の地は黑
貂及狐熊羆等の栖息多し此地も亦動物保護地に屬す其クロノーツコ湖を源とせる
川流及ヲユバノーワ河あるため魚族の簇游する極めて多し爲めにクロノーツキ岬
附近は膃肭臍の其の魚族を逐ふて群り來る太だ多し

アフリカ灣は著名なる獵虎の栖息地にして亦動物保護地たり特り獵虎の栖息のみ

ならす其の他獣類亦た多し

ストルボーウイ岬は臘肭臍の保護地たり岬は北方の衝角に位し魚族の饒多なる爲め臘肭臍の食餌を趁ひ來るもの大に衆り容易に散逸せずと云ふ

是より堪察加に於ける魚族の群聚を叙せん抑も半島中央の山脈が分水嶺となり東西の海面に注く數十百條の川河をなし而して其山脈の支脈海岸に走り其支脈と支脈との間は大なる峽谷をなし各大小の川河其間に流れ其川河に添ふて鬱蒼たる森林原野あり以て中央山麓山脚萬古不伐の鬱林に續き崔嵬以て氷海の下に聳ゆるもの是所謂魚附林にして春風漸く回り低地の積雪方さに消へ川河の結氷澌して流れ去り草木一時に發芽しカムチヤダールは滿面の喜色を帶ひて其穹廬を以て遷喬の鶯聲は籬落遠近相應するの候に至れば洋中の魚團相競ふて群集しカムチヤダールをして長き冬の寂しき其の厨味を忘れしむ

春和の將さに萌さんとするや清朗なる日に乘し小高き丘上に立ち瞳を放ちて海上を臨めば先つケーゼーッ(鮭の小さなる類)の小群を見る之に次て海上遙かに金光の湧くが如く漸く廻りて河口に押し寄せ來るを見る是れチフチヤの魚群なりカムチヤダールは其不完全なる漁法を以て一時に多量の漁獲をなし之れを四方に播き散らし遠近

到る處鮮魚に飽くなり此のカムチヤダールの不完全なる漁法は寧ろ熊の漁法に勝る所なしと云ふも誣言にあらざるなりカムチヤダールは未だ十分なる貯藏の道を知らず貯藏の心なきに似たり一時遠近一樣の美味に飽くに至り初漁の愉快に次くに飽厭の情を起し厘かに其筋子の貯藏位に甘心し擲棄して顧みさるに至り數日にして復た其漁收を思ひ出し頻りに第二魚群の聚來を待つに至るカムチヤダールが無邪なる程度概ね是の如し

魚群の淡水河口に聚來するは其川河に散卵するか爲めなりチヤフチヤ(鮭の名稱は露曆五月十日頃より海岸に押し寄せ來るを常とす大魚群の聚來する場合には渺茫たる海面色を變し忽にして港灣の潮面魚群の滿々たるを見るに至る數千百の鴎群は其銳き嘴を以て之を喙み健捷なるアザランは魚群を逐ふて河口に集まり容易に去らす其先を爭ふて上流に赴く魚群は萬億團々相重なり河に溢れ跳躍して砂汀に敗くに至る殊に海上風波高く河口の平沙を洗ふが如き天候あればカムチヤダールと熊狐の類は勞せすして思ひの儘に其腹を飽かしむるなり叙上の如き漁群は分流支流水の續ける限り廣狹長短の差別なく押し詰りて遡るなり此時に至れば小さき分支流は小舟に棹し渡る能はさるに至る

チャフチヤに次て聚來する魚群の大なるものはクラスナヤルウイバ(鮭)なり此の魚群は六月五日頃より河口に押し寄せ來るを常とす其海上より聚來する光景はチャフチヤと大同小異にして其數の多大なるとは寔ろ一層の壯觀たり而して遠く山間の沼地及湖水に滿々たるに至る或る探見家はアバチヤ河に於て一箇の手釣を以て一日三千尾余の漁獲ありしを見又其支流に於て二箇の小艇にて二十サーゼン(一サーゼンは我七尺五寸許)の小網二張を以て暫時の間に一千尾を超ゆる漁獲ありしを見たりと云へり他の魚族少なき地方の者が斯の如き漁收を一見せば殆んと夢裡の別天地たるを疑はんのみ唯た堪察加に於ては這箇の漁收は當然の常事なりチャフチヤと同時に鰊の走り(第一番の聚來を走りと云)來る鰊は噢汀小灣の岸に傍ふて散卵するものにして海上堆かく聚り來り爲めに一望の海面其色を變す又往々河口の塩分薄き處に至り大なる群集をなすことありハイコー(鮭の別種)は六月下旬より七月の始めに及んで來るハイコーは深き河口を撰み上り込むものなり而して遥ちに遠く河源の方向に進み散卵す或る旅行者は遙かなる上流に於て全河を埋むる億兆の大群が相重なり相磨し跳躍して更に山谷溪壑の澤き沼池に上り詰めたるを偉大なる熊羆の類は岸に沿ひ石を以て漁群を撲ち多數の魚を獲て頭のみを食し其魚身を投棄し岸塲到る處無頭魚を洒らせるを見たりと云へり熊の魚頭に飽くと同時にカムチダールも亦其美味に飽き亦棄てゝ魚あるを忘るゝに至るなり堪察加半島幾百千大小の川河は五月十日頃より十月の下旬迄無數の鮭群を以て充滿され小流は徒渉すると能はず大流は棹を移すこと能はすカムチヤダールの食ふが儘に熊羆の飽くが儘に棄てゝ顧みす若し其美味を輸して千里萬里外の膳味に上することゝせば天庫の富其用嚮しからざるべし況んや現今の住民一万二千口を拾倍百倍するも交易宜しきを得ば其生活物資の匱乏を告くることなけむ假りに一萬二千口に拾倍する人口を移住せしむるとせよ五十海里方に對し僅かに一人の割合となるに過きす唯だ箇の可憐なるカムチヤダールのみ他方の人種と生存上の競爭をなす能はず自己の捕獲せる獸皮の歐米市塲に於ける高價なることをも知らすして他の盜賊に勝る貿易の下に猶能く其生命の緒を繋けるに見ても天産の富饒を推知すべきなり土人の脆き刳り舟にて晴朗なる天氣に乘し海岸に沿ひ舵を轉し二十五サーセン乃至三十サーセンの小網を卸しても十分なる魚獲を收め得べし海岸の土人間々漁利の有益なるを感せる處あるも狡猾なる他人種は倍を重ねる暴利を貪らざれば紡績糸を購はしめずカムチヤダールが空拳同樣の獵收に得し高貴なる獸皮も二三留に價する一

張の小網に換へ得る能はず

河は魚群を以て充たされ美麗なる堤防を築くが如く河濱に住せるカムチヤーダルは空拳にして多くの漁收をなすも別に防腐の方法を知らざるため之を外氣に乾燥せしめ他日の食料に充てんと擬するのみ然れども鮭鱒の漁收多き季節は實に霧多き時候なれば鮮魚は容易に乾燥せず十中の八九は腐爛して原頭に投棄し其敗棄の枯乾せるものを貯へ犬の食料に供するのみ

ペートルパウロスキーに二三の小舟あり灣を越へて對岸に渡るを得べしクリユチヤに一舟ありシリユポウチヌイ村附近より以北は全く舟なし故に土人相互の交通さへも自由ならず岬角相望める地方に於て高價なる米國品の交換と他外國人の交換と常に價格の大差あり

殊に紡績糸鹽其他生活に必要の物品は價外の價たるを以てカムチヤダールが鹽魚の製造を欲するも如何ともする能はざるなり或る探見者はカムチヤダールは無造作なる鰊の鹽製さへもなし能はずと云へるも并は稍や酷溝に過ぐるが如し實にカムチヤダールは他人種の無慈悲なる交易に依り一掬の鹽をも魚身に塗る能はずとこそ云ふべけれ是より多くの移殖民を企たて文明的諸種の製造開くるに至らば他人種の大なる福利を收むると共にカムチヤダールも長く生存の幸榮を得るに至らん天府の大利源堪察加は二十世紀に於て我が日本人の手に開發せざるへからざるの別區たらすんばあらず

露國は現今本半島を二郡に分ち南部一面をペートルパウロフスク郡となす北部一面をチギリ郡となし之を區分して其管理をなせるも我が通漁者は航海上の便宜と習慣を以て東海岸西海岸の兩部に分てるが故に今之に倣ひ節を分ちて其情況を記す

第二章　東海岸

東海岸に膃肭臍の保護區二ケ所あり一はストルボウイ岬の左右に跨る地にして其他の海獸も少なからず沿岸を航行すれば多數の海獸岩頭に群聚せるを見る一はクロノーツキー岬の衝角にして岩嶼兀立船舶を近つくへからす膃肭臍の栖息のみならず獺其他の獸亦た多し又獵虎の保護區二ケ所あり一はカムチヤツキ岬の北角にしてストルボーイ岬と相隣せり從來米國人密獵濫獲の結果漸く其栖息を減せしも近時保護禁獵の爲め增加の兆ありと云ふ一はインカニユーシ岬よりロパーツカ岬へ至る間にして我が占守島と斜めに相對せり此の區中三姉妹岩と稱する嶮嶼あり滿潮の時は嶼頭殆んど波中に沒

し干潮に至れば岩嶼亂立船舶を近つけ易からす多數の獵虎此間に栖息せり本區の海頭にマセリヨワ村あり特に兵丁數人を置き密臘を監視せり其露政府の重きを置ける知るべきなり唯た一年一回獵期を定め兵丁監視の下に近村の土人十數人之を獵獲す土人の獵收は一頭に限り以上の獵收は悉く之を露政府に上納せしむ又た黒貂の保護區二ヶ所あり一はジユバーノオにしてクロノーツコエ湖を中に又ジユバーノワ河よりカムチヤツキー灣に至る一面の地なり一はアサーチンスコエにしてロベーツカ岬よりポーロツナヤ村に至るの間なり此の兩區域は嚴重なる禁獵地にして全然獵夫の出入を禁せり故に黒貂の栖息露領中の第一と稱せり

東海岸に於て大船の碇泊し得る港灣四ケ所ありペートルパウロスクを第一としクロノーツキー灣カラガスコイ灣カラギンスキ島の西面の一灣なり其他通漁帆船を容るゝの地は十數ケ所あり

漁場は到る處に多し鮭鱒の各種及ひ鱈を以て最とす然れとも西海岸に比すれば稍々劣れり唯た魚身の大にして漁期の長き(西海岸に比し一ケ月余長しと云ふ)點は通漁者の便利となす所なり

鮭鱒の聚來尤も大なる川河は堪察加河ウキンスキー河カラギンスキー河を以て優となす其他未た通漁者の探見に上らさる漁區亦た多かるべし

ペートルパウロフスクよりウスチカムチヤツカに至る八百五十露里の間郵便通路あり此の間は堪察加半島中に於て尤も人口多き地點なり此地方は黒貂の産出多き爲め露人の移住村落七土人の部落十四あり其生活尤も豊かなりと云ふカムチヤツカ河東北流してカムチヤツカ灣に注きアワチヤ河南流してペートルパウロフスク灣に注く川源と川源との間屢かに六十露里通路の大部は舟に依るを以て夏時の交通甚た便なり是れ此の地方に人口多き原因なるべき乎

カラギンスキー島附近鯨の栖息太た多し殊に白鯨多し年々米國人の密獵甚し曾て或る米國の密獵者は一獵期一千五百頭の捕獲をなし巨利を博せしことありと云ふ其栖息の多大なる想像すべし

茲にペートルパウロフスク郡々廳の穀類、試作表及人口家畜獸皮の統計表を譯出し其概要を知るの資に供す唯其人口家畜獸皮兩年間の統計は情弊多き露國僻阪官吏の手に成れるものなれば脫稅其他の工夫必らす意外の減數を掲けしものたらんか

穀物試作表(一千七百六十五年)

	耕地面積	撒種額	收獲額	
裸麥	三デシャーチナ	二〇、三九布度フント	一四、二四布度フント	
小麥	一デシャーチナ二分ノ一		凍滅	
大麥	二デシャーチナ二分ノ一	四〇、二〇、二分ノ一	一六、三六、	
燕麥	一デシャーチナ二分ノ一	二六、二六、	三二、二〇、	
麻	四分ノ一	五、二〇、	一六、〇七、	
豌豆			凍滅	

（一千七百六十六年）

	耕地面積	撒種額	收獲額	
裸麥			凍滅	
小麥			凍滅	
大麥	三デシャーチナ	四五、二〇布度フント	一八、一六布度フント	
燕麥	一デシャーチナ	一九、二〇、	七、二七、	
麻	四分ノ一	五、二〇、	一、二六、	
豌豆				

備考　二千四百方サージェンを以て一デシャーチナとなす

本表は百參十八年前の試作表に係り露國が我が奥蝦夷の地を略奪し今のペトルパウロフスクの地を經營せし初期に屬せり其試作の結果は太しき不結果に終り其後露人が同地に軍港を設置せんと擬せし當時に至るも猶農作の啓發を見さりしが最近に至り唯厘かの馬齡薯を生し住民の食餌に一味を添へし地方ありと云ふ

ペートルパウロフスク郡戸口家畜獸皮數

	一八九五年	一八九六年
家	七四六	八三六
帳幕	〇	〇
倉庫納屋其他	九〇四	八〇一
男	二、九三四	三、〇二〇
女	二、九三四	二、九一六
馬	六九一	八六〇
牛	一、九九七	二、三六三
駝	〇	一、九四一
鹿		十九

大	計	九、八五五
貂	皮	一、二六五
熊	皮	一、〇九二
狐	皮	六三〇
獺	皮	三六一
狼	皮	八
山	羊	二八七
鹿	皮	五〇六
海	貂 皮	一、六二六
		二十
		一、〇一八
		八九一
		九〇八
		六四六
		二五九
		二五
		二七一
		五一二
		二、六四一

本表によれば千八百九十六年に於て貂の獵獲總計八百九十一頭としあるもコーチク會社の輸出のみにして一千二百五十四枚と發表され居れり況んや同會社が脫稅に巧なるは世間に匿れなき事實なれば其一千二百五十四枚は素より實數に非すして實數は蓋し更に多大なるを知らる好官猾商の相托する亦た本表の貂數あり

第三章　西海岸

西海岸は北海第一の鮭鱒の産地にして近年我が通漁者亦た往々漁場を開けり其鮭鱒の饒多なるは既に各探見者の紀述に盡せは今之を贅せす我通漁者の漁場はロバーツカ岬よりオムゴン岬に至る一千露里の間にして優秀なる地點はキシカ河を第一としキフチク河オロフスコエ河カムバーコフ河クルトゴールフ河オゴルコウィナ河イーチャ河ソボーチノヤ河モロセチナヤ河及ひ其南端に於てオパーラ河オセルナヤ河等となす其他河口と稱すべきものは期節に及へば鮭鱒を以て河身を埋むと雖も地形の異同碇泊所の良否等に依り漁場の優劣を分つものなり通漁者が漁場に至り小屋掛其他の設備をなし魚群の聚來を待つの時日は航海其他の都合に依り多少の異同あれとも漁期に入れは朝起網を卸し二三時間を費やし終日の塩切りをなすに勝ゆる漁獲あれば其滿船に至るは五日乃至七日にして足れり乃ち漁場の良否は其漁收を了るに厖かに二三日の差異を見るに過きず

此地も我が邦人に對し漁場を許可せず又本邦漁夫の使用を禁せり我が通漁者は露人名義下に漁場を得短日子間に漁收を了へ歸航するを常とす漁期中二三回監督官吏の監視あり大底馬を駈りて海岸の漁場を廻れり我通漁者は先つ五六十圓の賄賂を容れ大に欵待して其制壓を避くるを常とす露國の漁業制は是等辟阪官吏の賄賂に死し賄賂の佳味

は竟に北海の佳味を滅盡せしむるに至らん堪察加他日我に復せは深く當路の考察を祈るのみ

西海岸は傾斜甚た緩にして砂濱少なしチギリ河口を除けば船舶の碇泊に足るの港灣なしオムゴン以北は未だ我邦人の探見に上らず土人に就て聞く所によれは鮭鱒の聚來比較的少なしと云ふ土人はヤクート多數を占め居れり

北端ペンヂンスク灣外鯨の栖息太た多し白鯨の群をなして遊泳するもの航路の面を埋むることあり亦た米人の密獵盛なり

鰒はオゼルナヤ乃至ヤーリンの沖合積水二十尋より四十尋の間に群集せり今大日本水産會員某氏の鰒遠洋漁業着手方法一篇を掲け參考となす

鰒遠洋漁業着手方法

鰒遠洋漁業の盛大なる歐米諸國の其組織に摸倣して漁業に着手し充分の漁利を收得せんことは固より吾人の希望する所なれども我が邦鰒の價格販賣等の現況を察すれば未だ俄に巨資を投して歐米漁船漁具漁法等に倣ひ難き事情あり故に先づ我邦漁業者の比較的容易に着手し得らるべき一二の方案を具陳して其の參考に資せんとす蓋し是れ他日の大成を期するの一手段にして亦我が北海無限の鰒漁を開發するの一捷

徑なりと信すれはなり方案とは如何曰く夏期百噸内外の帆船を艤し十數名の船員之に乘組みて簡便なる釣具を携へ勘察加の近海に到り如何に鰒の饒産するかを實驗するにあり而して其釣獲したる鰒は之を塩藏して東京に輸送せば普通一圓に付八尾位の相場なるを以て相當の利益を得べし而して初年の試漁にして効を奏せば次年の計劃は當然之を擴大するの要あるべし其規模を大にするの方法は或は帆船の大なるを用ゆるも可ならん然れとも實際三百噸以上の大船を用ゆるは頗る不便利なるべきを以て予は寧ろ百噸内外の帆船數艘を用ゆるの得策なるを信せんと欲す而も各船單獨の行動を取るは或は不利あらんも其方法宜しきを得は最も利益あるべし即ち最小規模に且つ經濟的に事をなすの一法は百五十噸位の帆船一隻に食塩粮食漁具其他の必要品を搭載し少しく多數の船員を乘せ先發して目的地に至り漁業に從事せしむるに在り而して略々漁獲滿載の時期を豫察し約一ケ月許を後れて又他の一隻を派出す尤も此の次回船にも食塩糧食等を準備すれとも猶り船員は航海に必要なる丈の少人數を以てす斯くて漁場附近豫定の根據地に着して先發船の漁獲を滿載して入港するを待合せ先發船は其剩餘の船員及漁具等を殘して歸航に就き次回は交代して漁業を繼續す而して又一層之に優れる方法は數隻若くは數十隻の帆船を以て漁業船隊を組織

し漁場附近の根據地に倉庫を建設し看守人を置き漁獲滿つるに從ひ即ち此根據地に寄航して漁業を繼續すると同時に別に大なる運搬船を備へ運搬の任に當らしむるに在り而して此等の方法にして果して能く實際に適合し好果を奏するに至らば則ち逐次大に海外向の鰹を試製し販路の擴張を圖り以て漁業の基礎を鞏固にし更に進んで漁船を改良し彼の漁期に應して漁場を更轉し終歲漁業に從事すると歐米諸國の鰹漁に於けるが如く盛大の域に到達せんことを熱望に堪へさるなり今左に收支豫算を掲けて參考に資す

鰹遠洋漁業收支豫算

支出之部

總支出額

一金六千八百拾七圓五拾錢也

內譯

一金壹千五百圓也　〔食鹽五斗入一千五百俵代　但一俵ニ付金一圓
一金貳千五百圓也　〔百五十噸の帆船一隻五ヶ月間借入料　但シ船長附屬
一金參百七拾五圓也　〔船員十五名五ヶ月間食料　但シ一人一ヶ月金五圓
一金七百圓也　〔船員（船長を除く）十四名五ヶ月間給料　但シ一人一ヶ月平均十圓
一金貳百六拾圓也　〔鰹　端艇四隻新調費　但シ附屬品一切を附し一隻分金六十五圓
一金四拾圓也　〔鰹手釣具四十組　但シ一組金一圓
一金拾五圓也　〔製造具　庖刀碇切臺砥石等）一切費
一金四拾圓也　〔木炭百俵代　但シ一俵ニ付金四十錢
（木炭は船員の暖爐用なれば之に代ゆるに石炭を以てし船室にストーブを設備するも可なり）
一金七百拾貳圓五拾錢也　〔員船へ漁獲配當金　但シ賣上手取金の一割
一金參百七拾五圓也　〔鹽鰹六万尾賣捌手數料　但シ百分ノ五
一金三百圓也　〔諸雜費

收入の部

總收入額

一金九千參百參拾參圓五拾錢也

內譯

一金七千五百圓也　〔鹽鰹六万尾（千石）代　但シ圓ニ八尾東京日本橋相場
一金壹千五百圓也　〔帆船一百五十噸に對する遠洋船業政府奬勵金

一金壹百五拾圓也　〔船員十五名に對する同上奬勵金
一金壹百五拾六圓也　〔端艇四隻元價の六割として算す
一金武拾七圓五拾錢也　〔漁具製造具元價五割として算す

差引金武千五百拾六圓也　利益金

備考

總支出額の內帆船借入料及船員給料は半額又漁獲配當金及賣捌手數料は全額漁業終了の上仕拂ふべきものに付漁業仕込金として最初に要する額は金四千百三十圓なるを以て之を前記利益金武千五百十六圓に對比するときは利率六割強に當る

第四章　本會員探見報告抄出（其一）

我邦人堪察加行を企だてたるもの未だ甚だ多からず偶ま之れありるも多くは通漁往還者に屬し一部の海濱に至りて歸航せし位に止まり八萬方里の氷原を蹈破せしと云ふものなし唯だ我同人島田一得が露官に囚遞されて內地各處を過ぎりし外二三の探見者ありしのみ然れども通漁往來諸人の觀察亦各異なる處あれば煩を厭はず抄錄して之を介す

「ペートルパウルスク」の人戸及び居民

人戸僅かに百戸に滿たず堪察加長官之れを統治し行政司法の兩權を有す露國の慣手段として少しく部落を爲すの地には會堂を設置せざるはなし大なる寺院の設置ありて三名の僧侶を置けり全市の住民は官吏僧侶及び醫士を除くの外凡てカムチヤダールにあらざるはなし彼等は純粹なる蒙古人種にして殆んど我が北海道アイヌと全種族のものと信せらる間には米露雜種人の散在するは畢竟彼の地に漂泊し來りたる米國人と露國官人との雜種に祖せるか彼等は能く露語を解し平素の談話にも露語を用ひ居れり

島內の居民及び生活

居民は「カムチヤダール」「ヤクウト」「トングス」「オロチヨン」の四種にして其內大部分を占むるは「カムチヤダール」なり彼等はオコックク海に面する西海岸及び東海岸「ペトルパウルスク」及び下堪察加河附近に住居せり彼等の家屋は粗造なる露國農家の如く丸木を以て組建たるものにしてペーチカと稱する露國固有のストオブをも備付けり彼等は六月より八月下旬に至るの間海岸に出で漁業に從事し八月より十月に至るの間耕耘に

從事し冬期は山野を跋渉して獸獵をなし勇猛なる大熊と角逐することあり左れば彼等は矇昧にして怠惰なるが故に其腹を滿たすを以て足れりとなし毫も貯蓄心を有せずアルコールの醉を買ひ得れば明日家族を養ふ能はざるに至るも敢て關心する處なし故にアルコール一壺一留半を價するなり

彼等の自治

彼等の部落にはスタールシンと稱する村長を置き村民は村長の命令に服從すべきものとせり然れども村內に何事かを生ずる場合には所謂合議政体にて村民一堂に會し事を議し多數決を採るの慣行あるは露國專制政治下に於て不似合の觀あり

彼等の宗教

彼等は皆露國々教なる希臘教を信し三拾戸以上の戸數を有する土地には必らず寺院の設けあり他は冬期居然たる僧侶が犬橇に怒して氷上を涉り巡回布教することとなれり

彼等の梅毒

彼等の中に鼻を壞し足を跛せるもの多し是等は皆梅毒の結果にして彼等の種族中梅毒の傳播甚し

ヤクトとカムチヤダールの區別

兩者の區別を判明ならしむるは非常なる難事にして一見以て識別するを得ず只ヤクトは西海岸の東北に居住するを以て此の地はヤクトの居住なりと知り得る而已其他は判別するを得ざるなり「トングス」「オロチヨン」は辨髮を垂れ殆んと支那服に似たるものを着し居れり其職業はカムチヤダールと差異なし重に東海岸の東北端に居住し冬期は土窟の內に住せり彼等の中露語を解するもの甚だ少なく一村內僅かに一二人に過ぎず性質は允も從順にして極めて奇朴なる風習あり

堪察加の覇王

予が稱して堪察加全島の覇王と云ふは敢て政治上の意味に於て云爾にあらず其實力に於て事實上に覇王たるの權力を有するが故に云爾なり然らば誰をか其覇王たるものとなすや予はコオチク會社其者を指摘せざるを得ず コオチクとは其意味朊朧獸の事にして同會社最初の目的たるや海獸を捕獲するに在りしも鮭鱒等の漁業を開始し猶は沿岸貿易をも營み居れり

コオチク會社の組織

會社は表面露國人の名義なるも其內部は米國人カリソン(神戸在住)が營業なる事露政

府に對しても公然の秘密となり居れり三十三年に於ける同社は自己の所有船白令號(帆船六百噸余)コオチク號(義勇艦隊所屬船二千噸余)愛國丸(大坂大家七平所屬船其他一二の漁船を以て日本漁夫大凡五百名余を送り盛んに漁獵及び毛皮の買收をなし順次滿載して之れを各國の市場に輸せり其價額の總額六七十萬圓に上れりと云ふ而して其毛皮を得るの方法には前年土人の冬籠用物資を前貸し置き翌年夏期に至て獵獲せる毛皮を收聚するなり這箇慣習の下に土人を馴致せしむる露官人幾年の久しきを經し結果にて諸會社が此の露官人を弄するに袖の下の効能を以て四肢の如く自由に動かし得るは他の小漁業家の障碍たること掩ふべからざるにあり現に予が六ヶ處の漁場を得るため露國遠洋航海船長ウイルグールム、カクチンなるものと結托し漁場より歸途ペートルパウルスクに寄港し直ちに漁場出願の手續を爲したるもコオチク會社の漁場未だ確定せざるため頗る時日延滯を來さしめたるを以てカクチンは大に官吏の不法を怒り船長の大禮服を着し長官の官舍を訪ひ之を詰り漸くにして漁場權を得たるに徴するも明なり實に該會社の勢力如是なりしも一千九百年十二發布露國漁業假規則に依て外國漁夫を使用し得ざることゝなりたるを以て更らに方針を一變し遂に鑵詰製造を開始して日本勞働者を使用し居れり

日本漁業家の漁業方法

堪察加半島の漁業たる主として鮭を目的とせり其の魚族の豐富實に驚倒する程なり良氣節に際せば一網容易に六千尾以上を得故に尤も製造に巧なる漁夫を使用せば拾數日にて八百貳拾噸余の帆走船滿載すべし之れが爲め漁業家にして本島に矚目するもの漸く多く昨年の如きは漁船六艘帆走船三十艘余を白令及オコツク海に浮ぶるに至れり本年の如きも亦然り然れども目下困難なる問題は露政府の日本漁業家排斥にあり素より堪察加半島は露國人の名義にして露國漁夫を使用せざる可からざる規定なるも從來コオチク會社は多年日本漁夫を使用し來りたるの結果一千八百九十九年十二月黑龍江總督の發布したる沿海洲漁業假規則に特別の許可あるものは外國漁夫を使用し得との別例あり爲めにコオチク會社ブリンチール、カクチン、ヅブコーフ等の露國人は特別の許可を受け日本漁業家と結托し滿足なる業を營むを得るに至れり予等を始め露國人に至るまで本年も前年度の如くならんと思ひ夫れ夫れ準備をなしたる處豈計らんや俄然本年一月に至り漁業假規則は堪察加半島に於て無効となり日本漁業家の驚愕一方ならす或は浦潮斯德に走せ或は「ハバロフスカ」に趨り運動に運動を重ねたるも竟に其効を奏せず漸く六月上旬に至り斷然露國漁夫を使役し以て業を營

む事に決意し六月中旬に至て函舘港を出帆したり然れども終に漁業時期を失したるが故に充分の効果を奏する能はざりき元來露國政府は專心日本漁業家をして自ら手を下し投網せしめざるの策を講求しつゝある者の如し黒龍江總督自ら曰く今を去る二十年以前の統計を見るに浦潮斯德を距る僅に六十哩「パセット」に於てすら平均七八百石の漁獲ありたり然るに今や該地の如きは魚族皆無に歸せしのみらず西比利亞沿岸の如きも漸次減退を生じ今日は尼古來斯克堪察加と漸進して終に殆んど北極に達せんとする勢あり是れ何の原因より來れる歟露政府に於ては水産上に委しき技師に乏しきが故に由來日本農商務省の調査を以て一の基本となし居れり魚族の欠乏果して日本人亂取の結果にあらずして他に原因を發見するあれば露政府は悦んで再び漁獵を開放すべけれども我が西比利亞内地殖民の增加と駐屯軍隊の增加とは單に牛豚のみを以て滿足すべきに非されば通漁を放棄して魚族を滅乏に歸せしむべからず爾之露政府が日本漁業家を忌む以上は其法他なし所謂國際法の許すに任せ領海外に於て純然たる遠洋漁業を營む乎若しくは別に沿岸貿易を行ふ乎にあり是より沿岸貿易は如何なる方法を以て爲すべきやを記さん

堪察加の沿岸貿易

堪察加の生産は鮭鱒乃至毛皮にあり毛皮は熊、河獺、貂、狐の類尤も多し是を得るは土人の歡心を買ふにあり土人は敢て金錢に重きを置かず嗜好一に酒類にあれども酒類は重稅品なれば之れを輸入する素より容易ならず若し正當手續のものを購はんと欲せば徒らに高價にて土人の力に及ぶべくもあらず然れども强慾なる白人の交易數倍の暴利の下にあれば可憐なるカムチャダール一杯の殘滴を漏したる其術自ら多かるべし左れど公然其手段方法を發表するは少しく憚る點もあれば之れを他日の宴話に讓らん諸君默肯して可なり要するに沿岸貿易に於ては今敢て露人との結托を要せず只に堪察加長官の許可を得七拾五留の貿易稅と魚族を積載輸出するの輸出稅(一噸に付三留拾哥)を支拂ふ外は堪察加半島に於て毛皮魚族を得る方法は默裏にあり存てせむ

第五章　本會員探見紀行（其二）

明治三十四年六月十九日堪察加へ出漁の爲め諸般の準備を整へ予の親友數名及び漁夫百數十名と共に函舘山縣廻送店の所有に係る滊船北州丸總噸數一千噸余に乘込む纜て巴港を解纜し烟波幾百里迅鯨の快進に任せて何時か千島沖に來れば氣候頓に冷かにして迚も函舘の比にあらず乃ち甲板の上に集ひて袖に涼風を含め麥酒を傾けつゝ渺々際

なき大海原を一瞥し爰に肝膽相照せる親友と共に或はナンセン博士の冒險談を論評し又は錢屋五兵衞の偉業を追想し古より今に及び互に志を語りつゝ航海する余等の壯快は亦奈何ばかりぞ千島沖及勘察加の雨海岸は夏期に於て海霧甚しく航海非常の困難を極むと聞きしに出發以來五日目にして國端占守島の沖に至り霧稍薄く船舷左方即ち西北に當りて一帶の陸地を海霧の間より見る海岸を沿ふて北進すること數時正午に至り霧全く晴れ遙かに勘察加第一の良港ペートパウルスキの灣口を認めたり灣口の隔り凡そ五六哩余兩岸は斷崖絶壁其聳立の狀宛も關門を形成するに似て勘察加に於ける海防第一の要衝とは知られぬ右巖の高所には燈臺あり逆卷く波濤は藍を染めつゝ皚然として斷岸を洗ひ眺め最と凄まじく苔蒸せし數個の岩角の巖々として其邊に立てるものあり て福柯として彼岸に伏せるものあり就中最も大なる灣口の大巖にある岩角にして其形恰も達摩の坐像の如し灣口より灣頭に至る里程十九哩あり仝日該港に投錨せしは午后二時頃なりし

ペートルパウルスキ港は戸數凡百余戸人口概ね五六百勘察加半島中の首府にして第一の良港なり當時温度殊の外暖かにして東京四月頃の氣候に均しく灣頭より右顧左眄すれば四山一帶に皚々たる雪を以て包まれ市中にも亦所々雪片の散亂するを見る灣内は非常に深くして殆んど棧橋の必要なく如何なる大艦巨船と雖ども優に岸に沿ふて碇泊するを得余等入港の當時既に滊船バイカル號巡洋艦ヤクーツ號巡邏船ストーロジ號碇泊せるありバイカル號は夏季に於て浦潮斯德當港間に四回の定期航海ありヤクーツ艦の來航せし所以は勘察加の東北海岸ベーリング海の方向に於て近年米國人某砂金を發見し私かに之れを採取し去るに依り其が取締として今回始めて當地に寄港し之れより北地に向て巡回するなりと船長自ら余に對して話せり亦ストーロジ號は密漁取締の爲め年々西比利亞沿岸、黒龍江、サガレン島西北端地方、オコツク、北察加兩海岸其他コマンドルスキ列島等を夏季中巡廻するものなり當港には地方政廳ありて警察、稅關行政軍務等を兼ね長官は名をアシユールコフと云ひ副長官はパウスキーと稱す兩人共体軀極めて肥大一見其威風あるを知るべし重なる建築物は寺院藥劑局シールスキン會社及灣口の附近にある砲臺等なり家屋は丸で木造なれども至て防寒的に構造しあれば我々日本人の爰に越年すること容易なり

ペートルパウルスキ港は北緯五十三度余東經百五十八度余に位し我占守島より百六十浬以北なれども占守島よりは遙かに暖かなりと云ふペートルパウルスキより四顧すれば西南に當りてピルチンスキ火山あり高さ(七千三百七十二尺)又東北に當りてアバチン

スカヤ火山(高未詳)デュルメノバ火山あり高さ(八千八百五十四尺)皆一昨の内に映じ二面に白雪を戴き嵯峨として天空に屹立せり人種はカムチャダール(堪察加土人ヲ云フ)多く露人は少なし土人は一見露人と日本人の間の子の如く毛髪稍黒く眼亦同じ然れども眼凹み顔色淺黒なり体格は日本と大差なく稍大なるが如し性質は露人と大に異にして質朴温良なり該半島人は概て堪察加あるを知つて露國あるを知らざるが如くなれども皆露語を能くず又ペートルパウルスキ及下堪察加に住居せる土人は食物に於て露人と大差なきも山間僻地にある土人は多く禽獣を以て食物に宛て海岸の行通絶てたき所の土人は禽獣及鮭等を常食となし居れり

當市に支那商店三軒あり一は雑貨店一は洗濯業を營む該商店は冬期に於て土人の收獲せる獣皮と自巳の物品とを交換するを以て最大目的となし居れり其他支那人朝鮮人の人夫も見受けぬ灣内は毎年十一月下旬より結氷し翌年五月上旬にあらざれば氷解せず冬期は零度以下三十五度位に下り寒氣極めて峻嚴なる爲め樹木の生長頗る遲々たり故に喬木は甚だ稀なり樹木最も大なるものと云へども四五間に過ぎず夏には夏期短かければ草木の生長ずる期間至て僅かにして花の咲く間もなく秋風直ちに至り花は葉と共に凋落す六七の両月は日最も長く夜は十時半に至らざれば太陽西に沒せず朝は午前二時に至れば東方既に赫々たる旭日昇らんとして明らかなるを見る

當地に拾數年前より米露兩國人の共同會社(シールスキンコンパニー)ありて雑貨店を營み地方特産の熊、羆、貂、狐、馴鹿、獺、其他海上特産の膃肭臍等の毛皮を買集め又物品と交換し居れり該會社は米國より麥粉、茶其他種々土人嗜好に適する物品を輸入し四本檣の大帆船及滊船にて五月頃氷解の季節を謀りカムサツカの兩海岸は云ふに及ばずオコツク海岸コマンドルスキ列島等にて物品と獣皮と交換し船体既に獣皮を以て充つれば直ちに欧米諸國に輸出し又秋季に至れば前記の沿岸を巡廻し各土人に向ふて越年中食物砂糖、茶、麥粉其他樂器としては手風琴等悉く分配して餘す所なし其利益の莫大なる我國の銀行其他の會社へ關係して僅かの配當利益に甘んずる輩の夢想にだも知る能はざる所なり該半島五千人余の土人はシールスキン會社に依りて衣食其他萬般の供給を迎がざるもの一人としてあらず故に土人は該會社を恐れ敬ふこと國王も啻ならざるなり今該會社にして廢業せんと假定せんか五千の土人オコツク沿岸コマンドルスキ列島の土人幾千の者は忽ち衣食を求むるの途を失して饑餓に陷るは火を見るより明かなり故に土人が堪察加あるを知つて露國あるを知らざるも亦宜なりと云ふべし又該會社は近年鮭鱒の有望なるを知つて傍らペートルパウルスキ灣内及堪察加西海岸オゼルナヤ等にて

日本人夫四百人余も使役し盛んに漁業を營み千五百噸内外の滊船を以て函館横濱間に魚類の運送をなし居れり然れども昨年露政府より日本人を使役することを嚴禁されしより以來は副業としての漁業は單に鮭の鑵詰のみを營み居れり其事業の盛大なる資本金幾百万圓なるを知る能はず現に該地のみにても一の商店と巨大なる毛皮買込貯藏庫五棟あり又た事務所もあり實に歐米人の事業の宏大なると着目の敏捷なるには殆んど敬服の外なき也

該港は徃年數千以上の人口を有し可なり繁盛の地たりし由なれども彼のクリミヤ戰爭の時英佛聯合艦隊の襲ふ所となり爾來非常に衰微し當時の政廳は西比利亞黑龍江沿岸なるニコライフスクへ移りたり現今は實に微々たる有樣なり乍併天然の良港なるを以て將來尚は大に有望の地と稱するに足らん港の中央に東南より西北に向つて細長なる數丁の天然の坡堤あり波浪を拒ぐに極めて妙とす實に人工も及ばざる程なり而して其坡堤の端頭に一の紀念碑あり是れ即ち一千八百五十四年英佛艦隊の襲撃せる紀念碑にして千八百八十一年之を建設せし由露文にて書しあれり

港の南面より東端に走りて高さ數十尺長さ十數丁に渉れる一小山あり之れ灣の要衝なり一面に樺樹を以て掩はれ木甚だ大ならずと云へども極北の寒地白雪のみ多くして大

樹殊に稀なるの處一段の風景を添へたり此の樹は其枝葉と云へども伐採するを堅く禁ず蓋しクリミヤ戰爭の當時露國有名なる陸兵と少の戰死者を生せしを以て此の樹林は即ち戰死者の血涙に依つて成育したるものなりとして大に之が繁茂を保護するものなりと其意余等の乘船北州丸か入港投錨の後長官及ドクトル船へ來り人員及船内貨物の檢査をなす終りて彼等を食堂に導き大に麥酒葡萄酒其他珍果を饗應す彼等の船より政廳に歸るや余等數名上陸し官省の手續をなし然る后余は船長と共にミーラスキン獸皮會社へ赴き船長の請に依り種々通譯の勞を採る其時ヤクーツ艦長と仝會社にて邂逅せり乃ち握手の禮をなし互に獻酬しつゝォーツカ(我燒酎に類似)を飲む艦長余に尋ねるに日清戰爭より支那暴徒の事を以てす對話三十分余快然胸中の城府を撤して相語り後別を告げ再び船に歸り仝日諸般の手續を終りたるを以て翌日仝港を拔錨東海岸チャヂミ漁場に向つて進航す

チャジミは北緯五十四度余東經凡百六十度に位す北州丸チャジミに到着したる時海岸に二頭の白熊を見受けぬ稍あつて熊は嵐笛の響音を聞くや緩々山間に向つて遁走せりチャジミ河の河口には常に十數頭の海豹游泳せるを以て引網を投じて之れを引揚げる

際鮭と共に收獲すること屢ばありチヤジミ川の左方一丁ばかり隔てゝ十三個の温泉あり各々温度を異にし最も入湯に適し硫黄質及鹽分を多量に含有す余は該漁場に辛苦經營して莚小屋に起臥すること二十有余日濕氣の爲め激烈なる慢性リウマチス病に襲はるゝ一時は筋骨痛み一舉手一投足の勞も執る能はず天涯萬里の異域に空しく土と化せんかとばかりに憂慮せしも此の温泉のため忽ち全癒せしは實に天祐と云ふべし東海岸は勘察加川及仝川の以北海岸二三ヶ所を除くの外鮭漁地として有望の地少なし然れども西海岸は概して一帶に大漁を極めたりチヤジミ川の西北に當りクロチエフスカヤ火山あり(高さ一萬六千百三十一尺)峨嵬として高く雲間に聳へ夏期に於ても頂上皚々たる殘雪を見る其形恰も富士山に髣髴たり余は五十日あまり砂地の莚小屋に僑居中毎日熊を見受けざることなく之れを見ること恰も郊外にて狗豚に出會するに異らず以て其如何に多きかを窺ふに足る余等即ち無聊を慰めん爲め漁夫十數名を引連れ往々熊狩に出掛けし事もありたり勘察加の熊は人を知らざる故か性極めて柔順山中にて之れと接することあるも人に對して抵抗することなし僅か數十日の滯留中に五頭の大白熊を捕獲せり肉は甚だ美味ならざるも其味豚と異りて淡泊なり只遺憾とすべきは夏期の熊故脫毛して敷物の用をなさゞりし事なりチヤジミ川の三浬南に當りてチヤジミ岬あり斷岩絕壁の外十數個の岩礁散在す寄せ來る大浪岩角に碎け雪花飛散し洶然として渦をなす岩上には無數の海馬吼々吼號しつゝ匍匐するあり又波浪に押されつゝ出沒するあり又朝まだきチヤジミ岬に至れば數十の海馬毎に岩上に睡眠し滿潮なれば沖にて游泳するを見るべし海馬は皮色形狀稍象に似たり大なるは牛の二倍位ありて最も脂肪質を有す口の左右に堅固なる長さ三尺位の牙を有し其質象牙に似て高價なるものなり大なるは一頭百圓內外に價すと云ふ

第六章　質問應答記事

我が同人諸子が堪察加行を企だて紀行報告等の世間に紹介さるゝに及び有志の質問を試むるもの少なからず今其一二を抄出す

質問

問者　富山縣會員　辻常吉

答者　黑龍會調査員

問　堪察加在住の露人或は土人の村落に於て越年せんするには如何なる方法に依らは最も安全にして經濟なるや

答　露國の領土内に住居する者は内外人を問はずパスポルトを所持せざるべからず故に我々外國人と雖も本國政府より下げ渡されたる旅行券の外に露國政府のパスポルトを携帯すれば何れを土地に居住するも差支へなし而して堪察加地方に於て露人或は土人の家に同居せんと欲せば先方に行き其下宿せんとする主の人品を擇ばざるべからず此の地方の住人は獰悪なるものなきにしも非ざれとも概して日本人を歓迎する風あれば危険の虞は万々一もあらざるべし又下宿料は下宿屋の家族と同様なる食物に甘んずれば至て廉価なるものにて如何様にも費用を節する事を得べし

問　堪察加土人の日用品は如何なる種類如何

答　土人の日用品は鍋鍋は三角の口あるものにて手蔓二線の金にて作れるものを好しとす)綿毛布(赤地或は虎の模様あるもの彼等の嗜好に適す)綿テル(矢張り赤地のものを好む)大のナイフ(是れは革鞘入りに作れるを好しとす)針糸類、打紐、炭團麥粉碑茶其他種々あれとも一々記さず又贅澤品は蝦夷錦(是れは西陣にて織製するもの)頸飾に使用するビツセル(ガラス玉)赤青のゴム等を好しとす

問　西比利亞及堪察加に於て日本の貿薬販賣業或は行商を成し得るや

答　外國製の貿薬は一切露國内にて販賣することを禁せらるゝと雖も自家の使用料位は携帯するを得べし尤も人の病に苦しむを見て之れを救ふは惻隠の情に出るものなれば法律も強ち之れを罪せざるべし土人の病は梅毒最も多く次に眼病なり

問　勘察加より輸出する産物は魚類の外悉皆無税なるや輸入品に對しては如何

答　魚類の外獣皮の類は矢張り輸出税を課せらるべし併し輸入品に對しては酒煙草砂糖の外は無税なり

問　堪察加貿易免状とは魚類の賣買のみならず例せば商品獣皮等の交換等をも成し得べきものと信ず如何にや

答　貴問の如し

勘察加の漁業に付質問

北海道會員　蛭子常藏

露領堪察加に於て貿易免状を得るには何處に於てすれば尤も便利なるや

貿易免状を得るには如何なる手續を要するや

貿易免状を得るに要する凡の税金手數料は何程なるや

堪察加半島中何れの地にても貿易することを得るや但しペトロパウロスク灣内の

みに限るやは
堪察加土人と鮭貿買契約をなす事は露人のみに限るや又は外國人にても差支なきや
堪察加漁業に付き外國人三人を教師案内者として使用するを得るさの報は事實なるや
右六條に付明細なる御教示を願度尚堪察加貿易(重もに鮭貿買)俗に云ふ買魚の手續に付尤も便利なる手續あらば併せて御教示を願度候
追而帆走船を川に入る事を得るや是れ亦教示を乞ふ

回答 黒龍會調査員

露領堪察加貿易免狀を得るには規則上管轄官廳に出願せざるべからざるを以て河及的早く日本を出帆しペトパウロフスクに赴き堪察加長官の認可を受くるを便利とす然らざれば浦潮斯徳を經由船便に依り該地に赴き許可を受け帆船の到達を待つも宜し
貿易の免狀を得るには別に六ケ敷手續を不要日本駐劄露國領事の裏書したる旅行券を示し日本臣民なる事を知らしめ沿岸貿易をなさんと欲する旨の願書を長

官に呈出するのみ願書認等は官廳に筆耕者あるを以て之に認めさする方便利なり
貿易稅七十五留印紙代一留六十哥帆走船入港稅十五留鹽鮭輸出稅一噸に付三留十哥等を要す
貿易地は敢て一部分に限られたるに非るが故に許可を得れば沿岸至る所に於て貿易をなし得現に一昨三十三年露國帆走船ナデジダ號の如き沿岸至る所に於て貿易をなせり加之昨三十四年に於て日本人阿部茂惣八の如きも下堪察加河に於て貿易をなしたり
土人との鮭貿買は露國人而已に限らず堪察加長官の認可あれば外國人にても差支なし現に昨年ヤクト號にて林務官ドマシニコフ西海岸アバラに來りたる時村本長三郎と土人等との貿買契約に付き「土人等は何人へも魚を貿渡し得る而已ならず河中に於ても捕魚し得」と彼自ら云へるを現に目擊し且つ聞採れり
堪察加漁業に就き外國教師雇入云々は未だ確說を聞かず篤と取調へたる上確實なる御報道致すべし
貿付を爲すには村長を手に入れ可及的土人の歡心を得るに在り如何となれば一村は凡て合議政体なるを以て鮭貿買契約を爲すにも村内凡て集合して議決し村

長は一般を代表し契約を締結するものなれば此の點に付て余程注意せざる可らず而して村長を同伴しペトロパウロフスクに出契約書を長官に提出し認可を得るを可とす

一度貿易免狀を得れば何れの河中へも入船し得

但第七條の手續は前年度に於て翌年度の手續を了し置く方便利ならん

第七章　本會員探見記事（其三）

是れ本會員鈴木重治が紀行なり重治此行に於て其の精明なる眼識能く自他の形勢如何を知聞し而して自ら指導誘掖の勞を取る近衛公之を多とし再び西北に遣し以て情勢查察の事を以てす於是我が會の調查を兼ねて浦港の獄に投せらる期將さに滿たむとして不幸兵火の開かるゝに會ひ今春露吏の爲に銃殺されしと云ふ吾人は切に此の報道する訛傳にして此の舊友の健存を祈り特に其名を錄すること爾り

沿［illegible］革［illegible］

西歷一千六百八十一年魯國はアルバジン城を中央として黑龍江の下流に至る迄殆んど現時の西比利亞の如く其勢力を擴張せるも未だ堪察加に其勢力を及ぼすに至らざりき然るに一千六百八十九年清國とネルチンスク條約によりてコルピッサア河及スタノヲキ山を以て堺線と定めしより從來西比利亞極東に有したる大地域と大航海とは全く清人の有となるに至れり然れども一旦堤防の破壞したるか如きすべくもあらず其の遠征軍はやかて益東方に進擊し一千六百九十七年（本朝元錄十一年）に至り始めて二人の魯人六十名の哥薩克人と六十人の褐哈吉爾人とを率ゐてアナドイル砦より堪察加半に現はれたりき一人をアトラスといひ他をモロスコと云ふ土人と交戰して之を破り其三村を略し之より兵員を二分し東西に分れて進み堪察加岸に於て會合し上堪察加塞を設建し土人の毛皮稅を徵收せり其後アトラスは部下せりユコフに哥薩克十人を附し以て上堪察加守備に充て自ら露都モスクワに歸り且つ其得たる黑貂皮三千二百枚白狐皮數十枚狐皮九十一及臘虎皮七十七枚獺皮四を齎して帝に獻ず而してセリユコフは哥薩克兵十六人と共に上堪察加に在り久しく援兵の來るを待ちしが更に音信を得ざるを以て一旦アナドイル寨に歸らんと欲し途に土人コリアク族の襲擊に遇ひ其所持せる機毛皮は悉く掠奪せられ而してセリユコフ等悉く

鏖殺せられたり

一千七百年カザック人コベシフは一隊のカザック兵を率ゐて堪堪加半島に出征しコヲチエ市を蹂躙してセリユコフ殺害せしコリヤク人に復讐せんと企てたり而して上堪察加の寨を修め更にボリショイレーチカ村に寨を建設せり砦の大さ四十九丈ボリショーイ河口を溯る十五里の所にありて上の地たりしなり

一千七百〇二年に至り哥薩克人ジノ一ウキ一隊を率ゐてヤコートスク府を發し半島に來りて毛皮税を徴收し遂は堪察加河口に下堪察加寨を建設せり其河口を溯る二里餘砦の大さ方二十八丈周圍に木柵を搆ふ

一千七百七年に至り堪察加土人蜂起してボリショイレイチカの寨を襲ふて之れを陷いる從來土人は他の羈絆を受けたるとなき獨立自由の身なりしに今や哥薩克兵の占領する所となりし其收斂苛酷に堪へず遂に蜂起して哥薩克兵を鏖殺したるなり是より先き魯國政府は哥薩克人アトラスを以て堪察加の哥克薩兵長官に任じ沿道諸村に於て哥薩克兵七十人を召募しヤクートスクに於て更に百名を募集し之に三年分の俸給及糧食を與へ四門の大砲を以て堪察加に出征すべきを命せり然るにアトラス逡巡之を果さず後ヤークトスクに於て更に分遣隊を發しアトラスを以て隊長となし之を堪察加に送れり分遣隊の堪察加に達するや土人は既に兵を起してボリショーイレーチカ寨を毀ち駐在哥薩克兵を鏖殺せり是に於てアトラスは地方駐在の兵と分遣隊とを合せ屢土人を攻撃し翌年に至り漸く之を鎭定するを得たり爾後アトラスは其心大に驕り部下を虐待せしを以て全く衆望を失ひ一千七百十一年部下哥薩克のために暴殺せられぬ一千七百八年露國政府か西比利亞全部を以て一州となすや堪察加も亦其一部となれり實に是れ彼得大帝の時なりき

一千七百三十一年及一千七百四十年堪察加人等露國の暴政に堪へずして回復を企てたるも曾志を得ずして止み終に漸く希臘敎徒となるに至れり

一千七百三十八年露國海軍大尉シュールリチンク及ワリトレ此地を巡視す此兩人は堪察加半島より更に千島群島に向ひて航行し遂には我北海道に迄達せり而して彼は其際始めて薩哈喱島南部に蝦夷人の部落ある事及び此の島は黑龍河口に位置するとを千島土人より聞知し得たりと云ふ

一千七百四十一年露人ベーリングが率たる北氷洋遠征艦隊は亞立西安群島及亞細亞亞米利加の海峽を發見し後ヌドニ島に於て航海歷史中最も悲慘の死を遂げたりき今

其の島を稱して提督と云ひ其海及海峽を稱して白冷と云ふ

一千七百四十年ポリショーイレーチカ塞に事務所を設け司令官を置き半島の諸塞を統轄せしむ此頃より奇利を得んと欲してアホーツク港より堪察加半島に赴く者漸く多し一千七百四十四年には人口實に二万を超ゆるに至れり

一年七百四十五年露人某政府に建白して曰く近年露人の半島に來るもの益々增加し從て粗食欠乏を告ぐ然るにヤクートスク地方より之を送致するは運搬不便を極む如かす黒龍江を回復して其の水利を利せんにはと又以て當時堪察加に入る露人の如何に多かりしかを想ふべし

一千七百六十八年アホーツスク地方の天然痘堪察加半島に傳播して居民の犯さるゝ者頗る多く死者一年實に五千三百六十八人に及べり一千七百六十五年の調査に半島の人口は一萬〇二十六人なりしが此痘疫流行の後は僅かに四千六百五十八人に減少せりと云ふ以て同疫猖獗の狀知推するに足る

一千七百五十四年露國政府は死刑を廢して終身懲役となし之を西比利亞に護送せり而して千七百七十一年に至り堪察加流謫人モノリフなる者徒黨を煽動し六十五名を得て反を謀りポリショーイレイチカ司令官ニノロフを殺し聖彼得號に乘船して逃走

せしも遂に追捕せられたりしが之より后露國政府は罪人を堪察加半島に謫流するを止めたりき

一千七百六十一年始めて亞剌斯加半島を發見し一千七百九十九年に至り露國人は亞米利加人と連合して爰に露米商會を組織し亞剌斯加半島の沿岸及亞立西安群島聖老連奇島等に於て殖民事業及貿易を營みたり

一千七百九十三年軍艦加陀隣號は我漂流民伊勢國の船頭白子幸太夫等の一行を護送し蝦夷に來り且つ國書を呈して通商互市を要求せり幕府即ち石川忠房村上義令等を蝦夷に遣はして其厚意を謝し且つ通商互市は大日本帝國の國禁なりとして之を拒絶したり之より先今より二百年前元祿七年大坂の船の堪察加半島西岸アバラ河口に漂着せし事ありしが之れ日本人が堪察加に至るの始にして幸太夫等は駿河灘にて逆風に遇ひ天明三年七月露國東部アミセスク島に漂着し堪察加に至りてオコックイルックを經て九年の後寛文三年聖都に着し女帝加太隣に謁し後送還せられたるものなり其后又寛政五年十一月陸奥寒風濱の水主佐平津太夫等四人石の卷港を發し航海中逆風に遇ひ寛政六年五月思堵禮島に漂着し航行五十余里ナアツカ港に達し七年四月露の船主客利老に伴はれオコックアホートスクに航せんとし誤て北氷洋に至り蒼皇

艦首を廻し勘察加岬を過き六月オコッ
ック港に達しヤクートスクよりウラルを超へて
露都に入り爰に露政府に護送せられて大西洋より米國を横ぎり布哇より又勘察加に
至り以て長崎に歸りたりき此の護送者は當時の露國特命全權太守レザアノフにして
其軍艦はナデヅメ號なりき斯くて彼等は長崎に到達するや國書及其の贈物を献呈し
以て我に通商互市を乞たりしも亦許されずレザアノフは即ち不滿を懐き去て北海を
測量し我千島の備なきを伺ひ之を掠取せんと欲するの念を起したり五月三十一日彼
れ風雪に遇ひしが辛ふじて寒氣を犯し無事ペートルパウロスク港に達す但長崎を發
せし后四十八日を費せりと云ふレザアノフの勘察加に歸るや友人ホーストフ及ダウ
イトフ（共に海軍士官にして當時露米商會の船長たり）に遇逅し告くるに自ら將として薩哈嗹島を攻略し日本
政府を威し以て修好貿易を開かしめんとの事を以てす二人聞て大に喜び相誓て必ら
す其事を成さんとす茲に於て米人より一船を購求しユノナ號と名つけダウイトフに
授けたり即ち三人各艦長となり翌年出征の準備殆んと整頓して三隻相前後して出帆
せしがレザアノフは約に背きクラスノヤルスク府に至り遂に病死したりき
ホウストフは豪邁果斷の士なり之を聞き喇て曰く羊を驅て圃に入るれば誰か能く其
蔬を食はさるを保せんやと翌日終にユノナ號に駕し薩哈嗹島に向ひ遂に日本漁舍神

社等を焼却し銅板に彫刻したる一標札を建つ書して曰くホーストフ茲に露帝の命を
受けて此島を占領し以て露國の版圖となすと而して止まること數日其のアホシ號の入
港を俟ちしも期に及んで來らざると其氣候の已に後るゝとにより遂にアニワ灣を發
航し歸路に向ひ途中船体を損せしを以て轉して堪察加に至り彼得巴布羅斯克港に於
て之れを修繕せんと欲し十一月八日此港に於てダウイトフに會せり是より先きダウ
イトフはレザアノフの令を奉じ千島を經て薩哈嗹に赴かんとせしに船体を損し一旦
ペートルパウロスクに歸り修繕に從事せるなり於是ホウストフと明年再び我邊境を
侵すの方策を議し一書をペテルブルグ海軍省に遺りて其意見を陳述せり
一千八百七年（我文化四年）五月四日ホーストフ再ひユノナ號に駕し我擇捉に寇し薩哈
嗹に轉し又我流游高の守衛所を焼き二十九日進んで利尻島を犯し我萬春船を焼き諸
物を奪ひ而して一書を松前奉行に遺り和親互市を乞へり日本政府敢て答へすホース
トフ遂に堪察加に歸りペートルパウロスクを根據として暴りに隣國を剽掠せり露國
政府は後ホーストフを懲罰せりと云ふ此の時に當り松前奉行河尻肥後守北邊の守備
薄く露人の剛慢不禮を憤慨し私財を散して精悍の士を招き密に堅牢なる海船を製造
し堪察加に航しペートルパウロスクを攻撃せんとし其新造の船舶已に成るに垂んと

するに當り遽かに其職を罷められ遂に志を果す能はず憤悶病を發して沒するに至れり

一千八百二十一年西比利亞を東西兩部とするや堪察加官制を改革し海軍士官を以て之れを管理せしめたり一千八百四十八年(本朝嘉永元年)八月チウリスキーを以てアホートスク及ペートルパウロスク兩港に貨物を運搬する滊船貝加爾號の船長に任す貝加爾號クロンスタット港を發し翌年アホートスク及ペートルパウロスクに至り荷物を陸揚したる後韃靼海峽を發見せり

一千八百五十年ムラビヨフ將軍の意見に因り堪察加半島に軍務知事を置き露人サウイコを以て其職に任ずサウイコはアホートスク及アユン港に於て軍職を奉せし將官にして至誠忠直學識膽力あり其ペートルパウロスクに赴任するや先づ築港に盡力し繼て地方の農業牧畜を奬勵せんとし農事に通する者を選んで教師となせり

一千八百五十三年九月露西亞は土耳古に向つて宣戰を布告し而して佛帝那破翁三世は燃ゆるが如き野心を以て露西亞の南進を妨遏せんとし英國外務大臣ジョンラッセル及びパーマルストーン等佛と同盟して露と戰ふに至れり此の開戰の報知は翌年三月を以て堪察加主府ペートルパウロスクに達す該港に於ては直ちに防禦の備をなし砲臺の建築食料の貯蓄等に從事し春季に至り氷解を待て漁業をなし魚類を貯藏するを得たり然れども麥粉砂糖茶等は頗る減少し四五月頃に至れば欠乏するに至らんとす然るに五月軍艦俄留薩號入港して露土戰爭の現況を報導し七月一日軍艦喀拉俄港より英佛艦隊の襲撃を受けて入港せしが二艦共に食糧を裝載せさりしを以て麥粉其他の需用を補ふ能はす尋て露米商會の堪察加號入港して食糧を齎せしにより其欠乏を免るを得たり其後俄留薩號は黑龍江に向て發航し阿露拉號よりは水夫四百名を上陸せしむ此際米國の商船又入港し英佛兩國の土耳古を助けて露國と開戰せしことを報せり八月一日運送船入港して歩兵三百工兵若干を送れり其后二三の砲臺を建設し遂に七個の砲臺を完成す八月二十九日英佛聯合艦隊は彼得巴布羅斯克港に來襲せり此の時偶々米國の滊船入航せしが聯合艦隊の來襲を見上陸せずして發航す三十日六隻の敵艦入港し英國水師提督プレイスン之を督して砲臺に迫り砲撃を開始す砲臺も亦之に應して砲撃防戰せしが暫時にして艦隊は砲撃を止め少く退きて投錨せり三十一日聯合艦隊は遠距離にありて處々を測量し時々砲臺に向て發砲したりしも彈丸皆達せさりき然るに午後二時露の運送船は煉瓦を滿載しつゝ敵艦あるをも知らすして入港せしより忽ち敵艦に略奪せられたりき九月一日聯合艦隊は總進撃に決し先づシクナ

ル岬に設置せる第一砲台を撃て之を破り勝に乗してペートロフ山の第四砲台に迫り水兵を上陸せしめ遂に之を攻取せり此砲台は士卒凡そ百名砲八門に過ぎさりき五日聯合艦隊は第二砲台を射撃せり此砲臺はペトロフ山より突出せる長狹なる沙洲にあり極めて重要の位置を占め砲十一門を具へ士卒百二十九名を以て防備に任したり英艦は此の砲臺に向ひ佛艦は第六砲臺に向へり

第三砲臺は地峽に在り士卒五十二名砲五門を以て防禦せり英國の旗艦は彈丸を雨射して之に迫る砲臺又應砲して防戰し遂に檣頭を擊破し英旗を倒し又英兵の艀舟を砲擊して上陸せんとするの兵を沈沒せしめたり然れども魯兵も亦死傷多く殊に砲臺司令官は重傷を負ひ砲臺亦破壞せしを以て守兵を撤して退去せり

第六砲臺は潮畔の沙洲にありて砲六門士卒五十名を以て防禦し佛國の旗艦と防戰せしが胸壁破壞し支ふる能はすして又退去せり之より聯合艦隊は第七砲臺を攻撃せんとし運送船二隻艀舟十六隻に上陸兵を載せて尼古斯克山麓に進行せり

第七砲臺は海岸に位置し上陸兵を防禦する爲めに設置せしものにして砲六門士卒卅二人を備へたり攻兵の灣岸に向ひ進み來るものと交戰し小銃或は霰彈を亂射して之を退けたり聯合兵の死傷する者頗る多く逃て山麓を廻り遂に上陸して尼古里斯克山に上り其北部に集合し分れて二となり一は湖畔に向ひ一は山背に出んとす時に聯合艦隊は五隻の艀舟に上陸兵を載せ來りて尼古里斯克山の兵を助けしめ又露國の軍艦を擊撃せんとし第四砲臺に近つきしが露國砲臺の射撃を受けて退去せり

露國の司令官は敵兵尼古里斯克山に在りて第七砲臺に逼らんとするを以て部下の狙擊兵を集合し之を防禦し同時に露國の軍艦よりも水兵を上陸せしめ山上の敵を攻撃せんとす既にして山上の敵兵は第七砲臺を攻撃し大に露兵を殺傷す露兵の指揮官は自ら狙擊隊を叱咤して防戰最も勉む暫くありて魯國の水兵は山嶺に上り喊聲を發し銃銃を以て敵兵に逼る敵兵は其の不意に驚き且つ其の指揮官を失ひしを以て大に亂れ先を爭ふて逃走し死傷頗る多し是より先英國水師提督布勒斯死したるを以て聯合艦隊は退去に決し八月八日錨を揚げて出港す聯合艦隊の退去するやペートルパウロスクに於ては將來の防禦に盡力せり

一千八百五十五年英佛の聯合艦隊十八隻再び來襲し其十二隻は彼得巴羅布斯克港に向ひしが既に兵備を撤去し一丘をも見ざりしにより艦隊は止むを得ず砲臺及營所を毀ちて悉く之を燒却し終に歸航せり此の戰爭に罹り市街衰頽し方今に至るも尚は與らず戰爭前は人煙五百に過ぎしも目今三百に充たす港內沙洲の延出する所に英佛軍

戰死の墳墓あり其下に戰爭當時の砲彈を集む其碑文に曰く

一千八百五十四年八月廿四日港の攻撃に就て英人及佛人戰死の墓

他の六隻は的喀斯土里灣に赴きしに水喇福の爲めに撃退せられたり

翌年魯國は軍港をペートルパウロスクより「ニコライフスク」に移し一千八百五十六年

政府は沿海洲を置き堪察加半島より黒龍江下流を管轄せしむ此の時に當り支那に髪

賊の亂あり英佛聯合軍の北京攻撃あり魯國は機に乘じ濫りに半島南方に擴張するも

清國は遂に顧るに暇あらざりき

一千八百六十年魯國は浦塩斯徳を占領し後亞拉斯加及西立西安群島を合衆國に譲り

千島と薩哈嗹とを交換して日本と邊境條約を定めたるを以て魯國太平洋の根據地た

るペトロパウロスクは單に土人の毛皮税を徴收すると獵業漁業の取締をなすの外亦

用なきの地となり以て戰略上の勢力を失ひたり

一千八百八十八年ペートルパウロスク府の管内白冷島、銅島、海狸島を分ちて(堪督)府を

建設せり

氣候及風位

人皆謂らく氣候寒烈人の堪ふる處におらずと千島占守の比を以てせば或は然らん然

れども占守より次第に北進し堪察加に近つくに隨つて漸く暖氣を覺ゆ試みに余が三

十三年中航海日誌の一節を示さん

七月七日 正午 氣温四五度 海温四一度 函館を距る七三六哩 占守附近

〃 八日 〃 〃 四八度 〃 四三度 〃 八九九哩

〃 九日 〃 〃 四五度 〃 四四度 〃 一〇四九哩

〃 十日 〃 〃 五〇度 〃 四六度 〃 一一五四哩 アバチャ灣附近

然れども地形上及潮流上の關係によりて堪察加は各地その氣候を異にす即ち南東部

は平均凡三十五度中央部は三十度オホックの北側は二十度乃至二十二度なり南東部

は一月平均十八度乃至十九度にして朝鮮北部と同温度なり而して二月は最寒の時な

れども尚其平均は十五度を示せり七月は最温月にして其平均は五十八度なり之をオ

ホック海に比すれば平和なりといへども十月より五月迄は積雪地に充ち夏期は濃霧

流行す九月に至れば霧も亦大に減少し即ち九月を以て最良氣候となす

(風)夏期六月より八月迄の間北太平洋高氣壓系の北西線に屬するを以て何れの場合

に於けるも偏南風及偏東風流行す四、五、九月は氣壓系の大体に變化を生ずるが故に變

風あり

(西南部) ペートルパウルスク港に於て十一月初旬より五月中旬迄て結氷するを通例とす又時ありては六月上旬に至る迄融氷せざることあり但アバチヤ灣内の泊地に於て長期間氷結することなし

西岸に於ては偏南及偏西風起れば冬霧の天氣を伴ひ來り偏東風起れば好天氣となる

(北部) 北部一月の温度平均〇度ギジンスク灣附近は八月を最温月とし平均五十二度なり而して該地方何れも九月に至れば温度低下すること十度なり

(風) は十月より三月迄をオコツク海の東即ち勘察加の海岸に於て偏西風流行す海岸に於て夏期に吹く處の風は輕輭にして屢々無風を交ふ而して偏南風の吹く時は好天氣となる冬期に吹く偏南風は往々暴風雨を催す

地察加及オコツク海はアリユーシヤン列島に中心を有せる低氣壓系の西緣に屬するを以て何れの場合に於けるも偏北風及偏西風流行す

今ペートルパウルスク地察加西南部に於て五ケ年間施したる觀測の結果を左に示す

月次	晴雨計(平均)	寒暖計(平均)	雨量	時	流行風
一月	二九、五二	一五、三	四、四〇		北
二月	二九、六三	一五、六	四、五〇		北
三月	二九、七七	二四、一	七、六五		北
四月	二九、七七	三三、二	六、九〇		北西
五月	二九、七〇	三九、八	五、〇〇		北西南東
六月	二九、六五	五一、七	三、一四		北西及南
七月	二九、六九	五一、一	二、〇八		北西南東
八月	二九、八一	五六、六	二、五二		北西疑風
九月	二九、八〇	四九、〇	四、八〇		北西
十月	二九、七二	三八、〇	八、四三		北西
十一月	二九、六二	二六、五	六、二三		仝
十二月	二九、五二	一九、七	五、四〇		北東

右觀測中最大温度は八九度四小温度は〇點下十七度九〇雪なきの月は七月及八月のみ十二月二月及三月は最強風あり夏期は風力輕し而して航海期は凡六月一日より十一月廿四日迄でとす一般に偏風あるときは快晴なれども偏東風は霧雨の天候を催す

地味及植物

ペートルパウルスク近傍は地味半黒黄にして耕作に適するも高山切迫急斜面多く平

地甚少し只人民は居住周圍に方五六間の野菜畑を作り總計三百坪に過ぎず大なる畑といふは何處の村落といへども更にあるとなし作物は馬齢薯、羅蔔、白甘藍、蒜、胡芹の類なり就中馬齢薯を以て最よく地味に適すと云ふ余ゴルキ村に至り土人の作れる馬齢薯を食せしに日本産と異ならず明治十七年の調査に據れば一年に産する處二百六十六石此價百斤に付き三ルーブル此内半他村より入るものなり耕作は六月下旬より九月に收むと

其他植物に裸麥、大麥、胡瓜あれども甚稀なり堪察加に於て植物の種類多からず大半樹林をなさず其火山ありて地質砂礫の地は灌木及野草を生ず野草は高さ凡そ四五尺に して夏之を刈取ると三回に及ぶ諸河水域及河中の島嶼にありては落葉松白楊など數種の喬木を産す堪察加河の谷に産する落葉松は殊に大にして造船材料に供するを得べし又山林は木實菌類百合花の植物を産す住民は之を採り以て食料となす

始めて堪察加に耕作を試みしものはレナ河岸よりの移住民なり千七百七十三年全島を管轄せし魯人ベーム は農作に盡力し移民を奨勵して耕作せじめしに穀類成熟し一時其價格に影響するに至れり一千八百二十五年より以後は農業衰頽牧畜は各村に行はるゝも家畜の頭數は多からず捕魚獸獵は頗盛にして人民は此の二業に從事するも

の多し

勘察加河流域は地味膏腴氣候太た酷ならず全島第一の良地なり村落十七有餘河に沿ふて開け櫟水楊白楊落葉松多し今や裸麥、大麥蕎麥馬齢薯白甘藍羅蔔胡瓜を産するに至れり

物産

勘察加は水陸の天産豊饒にして更に無盡の寶藏なり住民僅かに五千此に赴くもの亦寥々として未た其鎖鑰を開きたるものなし

（礦物）礦物は其最も富む處にして銅磁鐵石炭瑪瑙雲母硫黄等を其主なるものとす

石炭はペシチシスク海灣の北岸より產し又メドニ島にも產す銅はメドニ島にあり此の島をコーペル島と稱せしは能く銅を出すを以て名づけたり然れども今は全く放棄して顧る者なし

硫黄は東部山脈何れに至るも產せざるなし金礦は北米亞拉斯加より脈をなして砂金殊に多く其脈即ち北海道に入る現にジエルチ岬一名チヤムシ岬の近傍に於て多量の砂金を發見せり其他礦山は少なからずと雖も未だ深く探險を遂げたる者なし

（魚族）河海至る處魚族あらざるなし

鮭は數種ありて其最も早季なる者は四月五月解氷を期して來るもの之をチヤキチヤと稱す大さ四尺次に來る者をクラシーナと云ふ是れ紅鮭なり次をハイコーと云ふ乃ち秋鮭なり最も後れて來るもの之れをキイジチと稱し九月末最も盛に來る大さ鮭の如く狀鱒に似て水より揚れば鱗離る鱒はガルブーシカといふ通常の鱒にしてハイコーに次て來るものなりオショロコモは形小さくアメマスなり白點ありて美なり鱈の游捿多きは世界比なしと云ふ鰊は鮭の季節に至れば殆んど網を動かす能はざる程網に入る

（獸類）熊狐、白熊、黒狐、牛黒狐、野羊、貂、栗鼠、ロシヨマーヰ、馴鹿、海豹、海馬、臘虎、膃肭臍、鯨等一々枚擧するに遑まあらず又た近海の島嶼にありてはベルコロツフ島一名小カラキンスク島にコリヤク人の來りて黒狐を獵する者あり白狐はコンマンドル白令島にて之を獵す鯨肉及魚卵はコンマンドル群島より輸出すアポートスク海の鯨は其産出世界各國之に及ぶものなし

（鳥類）雁鴨鳴小鳥唐鳥メーグパイ（英國の俗名にして山雞の一種形は小なるものなりは殊に多く其他鳥類も亦勘なからず又白尾の大鷲を見るとあり之等の野鳥は春日港灣の氷解する期に至り南方の諸島より來るものにして五月中旬を最も盛に來る時と

道路及都邑

道路と稱すべきもの別にあるなく只熊の足跡によりて往復するのみ村と村との距離は平均三十里其近きものは六七里遠きは百余里に及ぶされば旅行者は數日の量を齎さゞるべからず而して多くは馬に騎して行くあるも常には舟楫の便による即ち河流又は沼澗により獨木舟に數日の食料及寢具等を載積して棹行す若し中途にして日沒すれば天幕と勞皮とを整て陸上に臥し天明けば又舟を行る冬期は河海氷結するを以て舟楫の便を失ふ所謂雪舟を以て之に代ふ橇は七八頭乃至十一頭の犬をして牽かしむ土人巧みに之を操して氷上を快走す其疾足なる日に優に四十余里を行くされば冬期は反て旅行の好時季なりとす

堵察加の動脈とも稱すべき路道はペートロパウロスクより北西北ボゾショイレーチカの河上より堵察加河の上流に出で此の河岸に沿ふて下堵察加に至る之を中央街道と稱す

下堵察加より堵察加川を溯り北流してウキンスク灣邊に出て岸に沿ひカラギンスク

を經てセチラルオコペレッス港に出るもの之れを東北街道と云ふ[illegible]
北方ペンジンスク地方より海岸に沿ひ南方ヤヒナ村に至る西岸一帶の通路あり之を
西岸街道とす[illegible]
ボリショイレイチガ河口より遡りてペートルパウロスクに至る之をキシ河街道と
稱す[illegible]
主府をペートルパウロスクと云ふ北緯五十三度東經百五十八度四十四分九秒に位じアバチヤ灣內ペートル港頭に在りアバチヤ灣は入口一里に足らず灣に入りて四方十浬あり北側にセグナル半島突出して一小灣をなす其半島は南北に直列して西方の風を防ぎ且つ騷亂ある毎に砲臺に備ふと云ふ其中部にある彈藥庫は樹林中に隱れ容易に窺知するを得ず半島は高さ百五十尺に過ぎず山腹に樺楊の類繁茂す地質はツラエフと名くる岩石にして南に東廿五度に傾き山面黑土七八寸に滿たずペートル港は即ち此の灣內にあり港內に亦長狹なる砂洲の突出するありて二區に分たる水の深さは概ね七八尋岸は深く棧橋を用ゐずして軍艦巨船を橫付にし四五間の板橋を架して陸上に達するを得べし實に灣中の灣とも云ふべく四圍皆山岳を以てし毫も風浪の患なし初め露西亞の此の地を征服するや全島中五ケ所に小さき城砦を設けて統治せり實

に是れ今を去ること二百年前なりアバチヤは即ち其一なりしが地形の便利なるより後玆に移してペートルパウロスクを建つ今の首府なるもの即ち是なり昔時は露領北部の一都會をなせし者なりしを一千八百五十四年クリミヤの役英佛聯合軍の砲擊に遇ひ全市悉く燒失せしが翌年露國は港を黑龍江口に移せり其後露は烏蘇里地方を占領し又アラスカを合衆國に讓與せしを以て此の地は戰略上及貿易の勢力を失墜せり
港內は十月初旬薄氷を結び下旬氷結し堅氷の曠野となる住民概ね橇に駕して往來す春二月下旬に至りて漸く解氷し四月より十月まで船舶の出入自由なり市街今や漸く五十戶三百人を有するに至れり（明治十七年の調査に依れば戶數五十三倉庫三十四人口三百廿七人內男百五十五女百七十二而して土人は男女合計十六人外國寄留人廿人職工は大工、靴師、鍛冶師合十二人）[illegible]
市民は露人及土人との雜種多く長官あり副長官あり學校病院あり然れども唯名に過ぎず殊に病院の如きは年中開きたることなく一醫師の自宅に治療を爲すものあるのみ寺院は稍壯麗となすに足るものあり商店は三軒あり其內一は支那人一は露人一はシリスキン會社の有也夏季に至れば朝鮮人の勞働者の來るもの年々數十人に及ぶ石炭は常に幾分か貯藏所に現存す而して石炭庫はシャニクッ之角の北側の港に面して立つ年一回露國に陸路郵便あり每年二回橫濱を發して桒港に至る小瀧船獵皮貿易の爲め

に寄港するの外は軍艦の偶然に來るに過ぎざりしが昨年日本漁船の此地に來るもの拾數隻に至れり此港に上陸すれば小童集り來りて錢を乞ふ余初めは乞食の多きを怪みしが後露人に問ふて其乞食に非ざるを知れり是れ曾て米人の錢を與へし習慣今に殘れるものなりと云ふ[illegible]

中央街道沿道の村落[illegible]其の詳細なる事は未だ知るに由なし今沿道の順路によりて概略を列記せんに[illegible]

[illegible]上堪察加 これ露國の曾て設けたる五砦の一にして糧倉武庫を置たる所たり地は堪察加上流の河畔にあり現今十八戸あり[illegible]

[illegible]カマケ[illegible] 戸數十[illegible]戸[illegible]
[illegible]クリユチエフスカイ 同 百[illegible]戸[illegible]
[illegible]クリーテ[illegible] 同 十[illegible]八戸[illegible]
[illegible]ナシユキー[illegible] 同 十[illegible]九戸[illegible]
[illegible]ゴジレフスキー[illegible] 同 十[illegible]五戸[illegible]
[illegible]トロパーチエーク 同 二十戸[illegible]
[illegible]シチアピン[illegible] 同 十[illegible]戸[illegible]

[illegible]マーシユチ[illegible] 同[illegible]二十[illegible]戸[illegible]
[illegible]チルガアンク 同 十[illegible]戸[illegible]
[illegible]ミリコウヌ[illegible] 同 百五十戸
[illegible]ウエルフニ[illegible] 同 十[illegible]五[illegible]戸[illegible]
[illegible]シニロマー[illegible] 同 二十[illegible]戸[illegible]
[illegible]ボシチエナ[illegible] 同 八[illegible]戸[illegible]
[illegible]ヘークチンナ 同 十戸
ヨローフカ 同 十五戸

下堪察加 この村に牛五十頭馬五六頭犬百頭余戸數二十三四、商店二戸而して日人一名越年四年に及べるものあり土人の種類は數種ありと雖多くは西洋婦人の如く赤髪綠眼にして性質温順篤實也寺院あり教育は家庭に於てす樹木は楊、トド、松、樺、ハンの木等繁茂すこれも五砦の一にして後ベーリングは海軍倉庫を置くこゝぞ彼の千七百二十八年七月二十日第一發見航海に用ゐたる船舶の造船所なりしなり[illegible]

東北街道沿道の村落 海岸未測量の處多く其詳なることを知るべからず今ウキンスキ灣の沿岸に連なるものを擧ぐれば左の如し

ロウキンスク
クワリウリシスキ
イバシキンスク
トラジキンスク
カラギンスク

デゲル街道
デゲルは是又五砦の一にして
帆船數里を溯るとを得べし能く獣皮を産す毎年八月一隻の商船此地に來り食品を
以て物品交易をなす此村殊に牛肉類及牛乳の産出饒多にして品質佳良なり又馬齢
著は能く其地に適す

西岸街道
北方にパトカゲルフイ村あり南西チゲルに至る其間詳ならずパトカケル村は北緯

ツカ河畔にあり
クワリウル河口にあり
パシカラ河畔にトラキンスクの西方にあり岸を距ること約六里
カラギンスクの南西トランキンスク角の北方河畔にあり海岸を去る約八里
カラスク灣頭カラガ河口にあり獣皮貿易船の碇泊する所なり

デゲル河口の上流凡三十里の西岸にあり高潮に際し

六十度十分の邊に當る

シルクヒア
ガブラン
クワリンスノ
モロセツチノエ
イツチヤ

クルタゴール
コンパコパ
ポロフスキ
クイクチク
イドカ
ゴルイキナ
ヤヒナ

同名の河畔にあり
同名の河口にあり
同名の河の南岸にあり
モロセツチ火山の南東同名の河の北岸にあり
同河の上流十數里の河畔にあり河口小流船を入るゝに足る
同名の河畔にあり
同名の河上三里にあり戸數十六戸
ギツチ河畔にあり
同名の河上十三里にあり
同名の河畔に在り
ゴレイキ河の上流五里左岸にあり戸數九戸
ヤヒナ河の上流二里溯畔に立つ戸數八戸二人の歸化米人あり

ボリショーイレイチカ　戸数十五同名の河口より上流十五里にあり西海岸より首府に至る要衝にして五砦の一なり嘗時城砦の大さ四十九丈四方頗る繁盛を極めたりしが今は衰頽せり村の近傍草叢に蔽はれて一日本人の遺跡を存す一老僧の語る處に據れば往昔日本人此の地に來りて商店を開く時に露國の太守暴虐なりしかば島民の斃ふ所となりて遁れて此の日本人の商店に據る日本人又禍を恐れて共に去て其行く處を知らずと云ふ

ボリショーイレイチカより十五里の所にあり戸數二十

アバチヤ　戸數七戸住民百二十人あり

ナチエトク　戸數七戸アバチヤを距る約十里にあり

コヲトク　戸數十五戸ナチエトクを去る六里

スタリロストロク　戸數三十戸コヲトクを去る四里半

セイグラス　戸數十戸スタリロストロクを去る七里

アブチヤ　戸數二十戸スタリロストロクを去る七八里ペートルへは三里也千七百四十年我元文元年露國砦塞を設けし五

要の一なりアブッカ河口にあり今や繁盛をペートルパ

ウロスクに奪はれ昔日の俤なし

人種

現今五千の住民は白哲人土人雜種の三種族より成る白哲人は多く是れ露人にして官吏若くは商人となりて首府に住するもの土人は北緯五十七度五十八分ウカ河を境界として二種族に分る河北に住するものをコリアク種族と云ひ河南に住するものをカムチヤダールと稱す

堪察加土人は又一にイデルメン人と稱しコリアク人は又一にコンチアロと云ふ此の人種はチクチス及コリアク人とは全く別種なるも亞細亞人に屬せりカムチヤタール白哲人に比して軀幹矮小黑き頭髮と圓き容貌を有し鼻梁は扁平に眼は小くして凹み顴骨秀づ皮膚黃褐にしてコリアク人は其骨格蒙古種の純粹なるものには非ず頭蓋は扁平にして顏面は圓形に色は肉桂色を帶び細き眼隆き鼻廣き口突出せる頰骨粗々たる髮髯黑色の頭髮を有す而して男は髮を刈り女子は之を辨し已に嫁するものは面部に文するものあり言語は喉音及齒音多く且つ數派に分れ居るも更に北方なるチエクチス族と相同し該族は世

々放牧を業とし馴鹿の群を所有す風俗は今や較々壞亂の傾向を有するも尙は多くは美質にして且敵愾心に富み常にカザック兵と勇戰を試む彼等の戰に臨むや必らず死を決し若敵兵有力にして敵し難きを知るや先づ妻子を斬つて而して後奮然敵陣に突撃し又一歩を退かず其悉く斃れて後に非ざれば止むことなし

堪察加土人は堪察伽の大部を占むるも今や漸く露國化し凡て希臘教を奉じ露の移民と結婚するに至れり故に其民種混淆純粹土人の原種は殆んど消滅せりといふも可ならんペートルパウロスクは露人多し夏期は朝鮮人の勞働者數十人常に來るヤヒ村には二人の米人の歸化せるあり土人を娶りて各一家を齊ふ又下堪察加村には一人の日本人あり越年既に數歳に亘ると云ふ

人情風俗

風俗は首府と村落と自ら多少の差異ありペートルパウロスクには露人多きが爲め比較的露國風に生活するも各村落に至りては尙未だ土人の舊風を脫却せず人情堪察加人は一般に謙讓の美風を有し長老を尊び幼弱を憐み性温和且つ清廉にして克く勞力に堪へ他の侮辱を蒙るも深く念頭に留めず窮困に陷り虐待を受くるも忍耐して容易に不滿の色を現すなし

嘗て露人未だ此の地に入らざる頃は彼等は全く獨立自由にして他の掣肘を受けざりしも一度露人の征服する所と成りてより昔日の自由は忽ち他の專權に暴壓せられ困苦の末は終に一千七百三十一年及四十年に於て露人に對し反抗せざるを得ざるに至れり而かも爾來は反抗の心茲に全く消滅し露國官吏を見る例令小吏に過ぎざるも尙且之を敬すること神の如きを見る

堪察加人は最も舊慣を重んじ父祖の教は之れを容易に改むるなし而して其温和なる性質は自ら音樂を弄し能く舞踏をなすなど彼コリアク人の勇敢なる氣象に比して頗る異れり樂器はバラライクと稱するものありて我三味線の撥の如く大さ凡そ三尺木造にして糸を張れり其他バイオリン、手風琴の輸入品を有するあり歌曲の音調は一般に亡國の音にして哀悼の情を表し歌ふ所のものは磯行獸獵漁業愛情勤勉等の事に係る但し唄は始め海鳥の聲に擬せしものと思はるゝふしあり舞踏は巧みに食獸の飛躍に模し或は馴鹿の如く或は狐狸の如く其狀實に奇々怪々又其の游泳するの狀宛として海豹に似たるあり

堪察加土人の迷心は他の土人と異なるなく非獸獵の際の如き勉めて其獸名を云はず若し之れを云ふあれば捕獲する能はざるか或は不幸に遭遇するの恐れありと信ず

コリアク人土着種族の重要なる職業は漁獵にあり陸には野鹿山羊及熊等を捕へ漁に魚をあさる其漁船はパイダラと稱し樹幹を刳り海狸皮を以て外面を包む船体輕くして進むこと甚疾し

コリアク人は尤も馴鹿を重んじ之れが飼養の多寡を以て貧富を定め其富めるものは一族にして二十万以上を有すあり從て牧畜の業も亦彼等の主要なりしが近時チウクチャ人と爭鬪の末終に敗績して馴鹿を失ひしより游牧の業を廢するの已むなきに至れり

家居の種族はベヲンスク灣の邊りに住居せるも是亦馴鹿を失ふて落魄せる遊民の子孫にして漁業の外爲すの業なし之れに依て外國の航海者及露商と貿易することあり

コリアク人は一般に謙遜を尊び賓客を厚遇し信義あり同情ある種族なるも今や風俗一般に頽廢して外人殊に露商等より感染せる詐僞竊盜の惡風あり但此の種族は未だ政府の何物たるを解せず法令の爲めに拘束せらるゝを知らず其馴鹿十二頭を有するものは既に一家の主公として自營に安んじ家數六七戸相集つて小團結をなし毎戸權利を平等たらしめ內に家產の富有なる者を擧げて長老となし以て游牧地の撰定又は移住の時期等を諮問す而かも是等游牧のコリアク人は西比利種族中最も親愛慈惠の心を有し妻孥を待つに厚く家畜を飼育すると又丁寧なりとす

コリアク人の住地はチウクチャ人及堪察加人の住地に接近し商業上の關係淺からざるを以て其習慣等も亦大に是等種族と類似するものあり且巫術はコリアク人の長所にして最も奇怪の伎を演するを見る

堪察加人の衣服は夏期男子は更紗又は綿チルの襯衣ヅボンを穿ち勞働の際は上着を用ゐず頭上には露西亞風俗より來る海軍帽子を戴き足には馴鹿若くは熊皮にて造れる長靴を穿つ女子は更紗又は綿チルの露婦人風の服を着し且つ更紗の風呂敷樣の布片もて面部を蔽ふ

冬期は男女共馴鹿の胎兒又は犬皮にて製る外套を用ゐ而して固哩雅克族は鹿皮を以て衣服を製するに甚だ巧妙にオリートル族は海馬骨を以て煙管等の細工をなすに長ず堪察加人の食物は肉食にして且つ多量の脂肪を取る馴鹿熊牛鴨及魚肉を大食し鮭鱒は之を生食するものあり而して麵麭を常に用る飲料には磚茶及紅茶牛乳を共用し土人の最も嗜好するものとして酒精あり殊に强度にして殆んど舌を爛らすが如きを尊ぶ又米を貴重し牛乳を以て之を炊くことあり但堪察加人の米とも稱するものは百合根にして日本產のものよりも小に形千島百合に似たり又馬鈴薯を食す

冬期の食料として（最も初期に來る鮭の一種にして大さ四尺余）の肉を塩漬とし或は海豹の脂肪を
汐漬として樽中に蓄ふ又鮭鱒の類は之を割干にし冬期の食料に充て其頭と骨は犬に
與ふ
今試に余が嘗て饗應を受けたる當時の事實を列記し以て彼等が生活狀態の一例を示
さんか先づ朝起含嗽を終れば黄銅鑵の沸湯に磚茶を煎し黒麺麭及洋菓を出し之を喫
し去れば次で酒精に少量の水を混和せるものを舐め同時に熊肉馴鹿肉鮭鱒の羹炙せ
るものを出す是等は凡て加味なくして單に食塩を付するのみ次でフレップ苔の實蓐等
をすゝむかくて導かれて他家に到れば更に饗應する前の如く其の既に飽食の故を以
て辭するも容易に肯せず辛ふじて家に歸れば又茶と牛乳とを出し食に飽きたるを告
ればたゞちに牛乳を以て米を炊き百合馬鈴薯等を供す出でゝ又他に行けばこゝにて
も饗應する前の如く到る處の家々渾て如此既にして夕景家に歸れば更に夕食を出し
後又茶と牛乳とを喫して初めて寢所に入る冬期短日の際には終日是れ飲食の爲めに
時間を消費され殆んど業營の餘暇あらず暴飲暴食の弊も此處に至つて極まれりと云
ふべし人文の進まざる又偶然にあらず
住居は一般河畔若くは沼畔に依て村落をなす家屋は狹少にして低く落葉松樺或は海

岸の寄木を以て角材として疊み上げ苺を挿入して外氣の流通を防き屋根は圓材を並
べ覆ふに野草を以てし窓は二重に硝子を張るものあるも熊の膓の乾燥せるものを縫
合して障子の代用とするが多し其質半透明にして強堅無比なり出入の戸緣には毛皮
を貼付して室内濕氣の散逸を防ぎ敷板は斧もて削りたる板を以てし室内殆んど三分
の一は土と石もて疊み上けたる巨大の火爐の爲めに占有せらる若し終日此の火爐に
燃火すれば爾後三日間は克く室内の温度を保つと云ふ如斯構造の室内は自ら鬱然と
して不快の念あり時に健康を害すること少なからず又箱は多く椅子に代用せられ其
中に土人の財産を藏す臥するには寢臺あるも戸障子に鎖鑰を設くることなし
コリヤク人中土着のものは或は住家を構へ或は穴居するものあり而して住家は木材
にて作り鹿皮を以て之を覆ふ

言語

今や土人の語は殆んど滅亡し僅かに古老に依りて聞くを得るのみ即ち全土到る所露
語と化し會々英語を解するものあり但コリヤク人は露語を能くするもの稀なると
共にカラギンスタ島民も亦今尚露語に通ずるなし
數十年前までは其言語により土人を三分するを得たりき即ち其一種に屬するもの

は堪察加川の谷地に住して古代の露語を用ゐる第二種に屬するボリショーイエイチカ人は一に千島カムチヤダールと稱し半島南部に居住して露語又は堪察加語を操りベンチ堪察加土人は半島西北岸に住して純粹の堪察加語を用ゐ又北部に住する者は更にコリアーク語を混せざりき遂次彼等種族の減滅に從ひ土語は愈滅亡を速にする也發音の風を云へば堪察加土人は喉音多くコリアノク人は齒音に喉音を交ゆ

教育及宗教

今は主府ペートルパウロスクに一小學校あり余の見たる時は敎師二名生徒廿余名を有し學課は地理歷史、耶蘇歷史、綴字、習字等を課しつゝありき此の學校は市民の共立に屬し貧富の等差に依りて月謝に多寡を付したり生徒の品行は高尙にあらずと雖能く禮儀を知れるが如し又村落に至りては渾て家庭敎育に屬じ多少の文字を解するものは擧けて村の書記となるなり但姓名を認め得る者は今や少壯者中に多數なりと云ふ露國の露化政策に伴隨する例の希臘敎は此の半島の經營にも盛に利用せられたるなり如何に荒寥の僻村に至るも尙寺院は獨り他の倭小不潔の民家中に屹立じて比較的壯麗の態度を保ちつゝあり而して露人布敎の熱心なると土人歸依の深厚なる我が本願寺等の及ぶ所にあらず

一千七百四十年露國大敎院はイヲアサフを其長として一團の傳導師を此の半島に派遣せしがそれよりイヲアサフの半島敎化に從事すること前後七年茲に敎務院に報告して今や堪察加土人は洗禮を受けしを以て別に歸化の必用を認めずと云へり當時イヲアサフの建設したる宗敎學校には土人の子弟二百人を養成したるなりき後ち彼のムラヒョフと並稱せられて露國の東方侵略上最も功勞ある僧正イシノーケンチーは千八百二十三年以來命を亞立西安群島に受けつゝ堪察加土人敎化の上に注意したりしが今や習俗、言語、皆露化するに至れるもの彼等の力亦與つて大なりと爲すべし

哥薩克兵も亦宗敎擴張には偉大なる助力者也彼等は半面暴威を振ひ掠奪を擅にし殺伐豐氣最も甚しと雖半面には忠實熱心なる露敎の傳導者たりし也彼の連りに進んでエニセイスク及ヤクーツトスク等を征服し勢に乘じて堪察加半島に入るや土人部落の要地を撰擇して砦柵を築き寺院を建立し僧官を招聘し自ら土人の娘を娶りて之に洗禮を施し國語を授け風俗を傳へ以て全く露國化するに努めたり故に土人は哥薩克兵の爲めに滅亡せられしもの少なからざると共に一面には爲めに露化されしものも又甚だ尠々にあらざるなり然り彼等が諸砦の寺院は土人露化の中心點たりしに依り露國政府は篤く寺院を保護し土地を付與して無產の徒を奬勵し今や全土を擧げて露化

せしむるに至れるなり

土人往時の宗教式は今日既に大略廢せられ彼の魚鼈鳥獸を嗾使するを防かんために犬を神前に供して神意を慰むるが如きことなく其他數多の古式は遂に變して演劇と化したるものなり

今や土人の信仰は甚た篤く日曜日には必らず休業して聖像の前に禮拜祈禱するを怠らず毎家一室隅には眞鍮製の聖像を置き賓客あれば之を像下に請し客も亦先づ之を拜し而して後主客挨拶するを常とす

コリアーク人は蕃滿教を奉じ狼を以て惡神の使僕として之を尊敬すると殊に篤く從て其式日には狼皮を以て欠くべからざるの祭具とせり殊に最も奇怪なる風習は病者の將に死せんとするに當りてや或は自殺し若くは人をして自己を刺殺せしむることありとす死体は火葬に付し喪服は白衣を用ゆ又祭日に用ゆる女服は緣に獺皮或は黃鼠皮を縫ひ付け玻璃の小珠を付着して之を飾る

衛生

堪察加に遊ふものは或は鼻なきもの或は眼の白濁せるもの或は脚の不具なるもの等の如何に多きかに驚くべし是皆梅毒病者也然り半島の梅毒は今や全土に蔓延して猛烈を極め爲めに土人の年々減少する一大原因となりつゝあり而かも統治者は平然として之を放任せるが如く衛生上の設備一として見るべきなし但主府には病院建設せられ居るも終年開院することなく二人の醫師の僅かに患者の診察に應するあるも藥局も應接室も寢室も共に之を兼ぬると云ふの有樣なり又村落にてはボリショーイレチカに醫師ありと雖も拙劣前者に同しきを以て人の信用して治を受くるもの殆んと稀なりと云ふ

明治三十二年中の事なりきコルギの一青年の梅毒患者を伴ひ來り兩館に於て櫻井軍醫の治療を受けしめしに藥効神の如くにして直に全治するを得たりき梅毒の外土人には呼吸器病に罹るもの多じ是一は住居の不潔不備に因するならん

コリアーク人は長壽者多し但だ眼疾の多きは其穴屋中黃烟の常に刺戟する所となるに因る又時に痲疹其他の流行病あり爲めに或倏斃死するもの少なからず

行政

堪察加の行政組織を說くに當りては先づ西比利の行政を述べざるべからず西比利は新造の邦國にして其の行政歐羅巴露西亞と異るものあり上に總督を置き軍民の兩政を統轄せしめ權限最高大也又施政の便宜に依り省州に分ち其下之を各府に分つ其省

州の名稱を異にする所以は省は制度整頓し州は人文未だ開けず而して行政の法少し
く異る者あるを以てなり省州の長官を知事とす概ね軍民兩政を統轄す各府に府長あ
りて數十村を管理す

堪察加の首府ペートルパウロスクは沿海黑龍江總督管區沿海洲に屬する府なり土人
の部落には蠻野會議なるものあり土人最上の管理部にして種族の酋長及議員來集し
て種族に關する重大の事件を會議す知事の管轄に屬せり

ペートルパウロスク府長は佐官之を兼任す即ち一千八百八十八年警察長を改めて府
長となし警察長補を府長補に改めたるなり

此年提督府を置き白令島銅島海狸島を包括し府長を白冷島に置き府長補を銅島に置
けり而して其府長のため住宅を建築し或は修繕に要する費額及此の住宅を建設する
間の附與すべき官宅料等は沿海黑龍江地方の地方稅を以て支辨せり

堪察加駐在哥薩克兵の司令官に附與する俸給及手當額は規則を一定する迄國庫より
毎年八百三十四留を附與せり

租稅は國稅地方稅の二種に區分し國稅を直稅及間稅の二種に分つ第一直稅に屬する
ものは人頭稅官祿稅府市不動產稅官有地不動產稅森林稅營業稅とす第二間稅は酒精

燒酎葡萄酒麥酒煙草等に課する印紙稅酒類商煙草商より徵收する營業免許稅證券印
紙稅登記寄留券及旅券稅商業に關する帳簿稅新に任官し及び昇級の課稅酒類煙草許
認の證券印紙に關する罰金及科料等あり

人類稅は府市の外各村に住する平民の男子に賦課するものとす但し府市の住民と雖
も不動產なきものは其の負擔を免る能はず皆て人頭稅は一留二十九哥なりしが一千
八百六十七年一留七十九哥に增加せり其負擔は一千八百五十八年の調查に係る各村
の人口に照し通算し各村毎歲の稅額を決定せしに依り爾后人口の增減により各村民
の負擔を異にし重きものは三留より輕きものは一留七十哥に至る

土人は人頭稅なし毛皮稅を以て之に充つ毛皮稅は帝室の收入に屬す初めは毛皮を以
て之を納めしが現今は金納に改めたり納期は一年一回とし地方官より其日と時日と
を土人に指示す土人中希臘敎に化せしものは數年間毛皮稅を免するの制なり

不動產稅は府市に住する人民の不動產に賦課するものとす營業稅は製造場商人職工
に賦課するものにして五等に區別す稅額は爾來數々改められたりと雖も漸を增加するを
見る今曾て一等商人の納めたるものを調查するに一名一歲中の納額は總計四百七十
八留五十哥にして內商賈の免稅として三百六十八留五十哥商店を開く免稅十留酒商

免稅として七十留煙草を商ふ免稅十留商事に關して土人を雇入るゝ者一名に付二十留なりと云ふ煙草及燒酎に類する物品は人民健康を害し貧澤品たるを以て重稅を課す則燒酎の一種「ジエン」酒一函を陸揚する時は八留を納めしめ煙草は其函の大小輕重を論せず一個三哥を納めしめたり然れとも以上は明治十七年の調査にして今は大に增加を來せり

官有地不動產稅は官有地に耕作する農夫の負担するものにして帝室の所得に屬す山林稅は輓近の設くる所にして樹木を伐採する者より徵收し地方稅は市府及各村其法を異にし人口の多寡に因て其額を增減するものにして各一定ならず

一千八百八十八年五月黑龍江沿道の總督は露領太平洋沿岸に於て漁海業を營む外國船に對し特別稅則を規定せり入港稅は現今ペートルパウロスクにて噸數に依りて徵收す

軍備

初め露國は半島に五砦を設けたり一を上部堪察加と云ひ五砦の中央にして最も古く倉廩武庫を置きし所なり二を下堪察加と云ひ其砦の廣さ方廿八丈周圍に木柵を構ふ三をボリショーイレイチカと呼び砦の廣さ方四十九丈オコツク通商の船舶先つ此所に集まるを以て頗る繁昌せし所なり四をアバチャと稱へ一千七百四十年(文久元年初めて成る五をチギリとなへ最后に於ける所なり一千七百四十四年ボリショーイレイチカに事務所を置き司令官を設けて五砦を統轄せしが後アバチャ砦をペートルパウロスクに遷し諸砦を統轄せしむ現今に至りても尙首府として半島を統治せり府長あり(名なオシヨロコフと云ふ)毎年冬に至れば犬橇を驅て全島を一週巡し各村の情況を視察す則ちペートルパウロスクより下堪察加に至りチギリに出で西岸街道を南下しヤヒナよりキシ河街道を經て首府に歸る國際上の事は凡て長官の權限にあらさるを以て昨年密獵船の如きは浦汐に回航して判決せり現時此の地は屯田の制にして其哥薩克兵も銃獵漁業を爲し土人と異なるなく事あるの日は直に徵收せらるる

第十七世紀の末に當り露西亞ガアホートスク地方及堪察加半島を略取するや東洋北部に航海を與すの必要を生じ一千七百十六年アホートスクを以て海港となし海運の便を計れり一千八百二十二年アホートスクに鎭守府を設けしも一千八百四十九年之を廢して更にペートルパウロスクに移せり一千八百五十四年魯國は土英佛と會戰し英佛の艦隊ペートルパウロスクを襲ふや魯軍斃て之を退く翌年ペートルパウロスクを以て南の海港を廢し軍港をニコライフスクに移す先是露國はペートルパウロスクを以て南

進の根據地となし數ば我が邊境に寇し或は千島を剽略し或は薩哈璉を燒却し進んで利尻に寇し我政府を威赫して通商互市を乞べり

露國が烏蘇里地方を占領するやニコライスクの軍港を浦汐斯德に移し鎭守府を置き露國東洋艦隊根據地となせり

殖民

十七世紀の末露人はペートルパウロスクの管內堪察加半島に移住し堪察加河チギリ河ボリショイレイチカ河の下流に殖民せり其后勤那水域の人民を移してボリショイレイチカ村及下堪察加村クリウチ村等を設置せりボリショイレイチカ下堪察加デクリ等の住民は哥薩克兵の子孫にしてペートルパウロスク港の住民は官船に乘り來航せし水兵の子孫多しボリショイレイチカ下堪察加チギリの各村は現今土人の毛皮稅徵收場となし哥薩克兵を駐屯せしむ

五州の寶庫とも稱すべき堪察加半島も夫の天產の封鎖せられて外に甚だ顯れざるは思ふに其理由なくばあらず即ち人煙の稀少なる事交通の便未だ開けざると調查の充分ならざるとは其重なる原因なりといふべし故に須らく土人保護の道を講じ移民を奬勵して大に人口を增殖せしむべきなり

而して漸次土人の滅却し去るは生存競爭上自然の顯象なるべしと雖も亦其原因なきを得ざるなり

初め露國が此地を占領するや妄りに土人を虐殺し加ふるに苛稅を收斂して恒產を失せしめ遂に窮迫の極細民となり子孫の繁殖に影響せしめしと實に其一因也又惡疫流行は年々人口を減殺し殆んど停止するする所を知らざるものあり試に見よ千七百四十四年には二万人なりしも千八百五十年には僅かに一万千九百五十一人となり天然痘流行の后は實に四千六百五十八人に減少せり尙天然痘の外梅毒の蔓延せるあり之亦土人滅却の一大因をなすなり

然ちは如何にして土人繁殖の方法を講ずべきや其巨細の方法に至りては大に攻究すべき問題なりと云へども左に揭ける數項は實に其主要なる者に屬すと云ふべし

衛生の道を講ぜしむる事

土人資產の發達を計る事

智識を開發せしむる事

土人の權利を保護する事

商人の不正を禁遏する事

若夫れ移民の奨勵に至りては須らく實地精細の調査を要し交通の便を開くと尤も急務なりとす

露國政府は勘察加の發達を計る爲め政府の保護を與ふべき方法に關し從來此の地方の事情を熟知する者の意見は概ね一徹に出つ其の重なる問題は第一人口繁殖を計るに在り第二此の地方の氣候如何を詳知するにありとは多年此の地方に在勤せし陸軍中尉カシコフ及僧官グロモフの報知に據るに勘察加半島の風土氣候は決して移住民の健康を害するの處なし然るに同地方の住民は土人及び寄留露人を合せて七千七百十六人に過ぎず到底地方の産業を發達せしむると能はず依て露國内地の人民を移し以て地方發達の重要を養ふの方法を決行するを急務となすと

牧畜

狗牛馬馴鹿等にして犬は土人の欠くべからざる家畜にして冬期は氷雪の上七八頭乃至十一頭に橇を引かしむ冬期間の交通は全く之に依る其の体格被毛吠音皆狼の如しと而して日本犬に似たり夏は河畔沼邊に繫ぎ鮭鱒の干物を與ふ强健にして能く饑渴に堪ゆ四十八時間荷物を搭載せる橇を引き他に一物をも食せず疾く馳するは屢見る所なり荷橇は十一頭の犬にて一日通常六十吉米乃至八十吉米を行くを常とす其重量十一布度余にして倘敢者一人を加ふ冬季河川氷結霧深く荒風の時勘察加人は僅かに之れによりて交通するを得るなり

住民多く牛酪を嗜むが故に村落毎に三四頭の牛を飼ふ馬は夏期旅行に必要なるを以て毎村飼はざるなし然れども其數多からず

勘察加高原は良好なる牧場となるべく河潮は各地に散在し天然の灌漑に富めり又廣大なる草原多きを以て牧畜の業を興さんとするものは容易に目的を達するを得べし

露人グロモフ其他歐羅巴人の說に依るに勘察加に於て多數の人夫を使役し得るに於ては夏期に能く冬季の家畜飼養に要する秣を準備することを得べきが故に牧畜の興否は主として人夫の多寡に依るのみと

牛馬はヤグイトスク産なれども勘察加の蒿秣多きは自然之を良化せしめたるが如しコリアク人は馴鹿を飼養すること甚多し其の數二十万頭に達せり多季は牧草多き所を選みて游牧し夏季は蚊蚋を避くるがため其群を率ひて移轉す

獵業及漁業

土人は皆獵業を以て天賦の業務となす此れを以て衣服の財源となし他の生業を營まんとするものなし二百年來露國は土人に對し毛皮稅を徵收すると苛酷なりしを以て

獸類を減せるも多し西比利人は獸皮の價格を定むるに毛皮を以て單位とす其價格は八留より十留其の白斑あるは西比利にて六十留夫れにて外套を製すれば八十枚を要し五千留を要す婦人衣は之に倍すと云ふ毛の最も貴きは黒狐とす一枚價三百留なりしと云ふ

堪察加半島は海陸獸類共に太た多し就中海獺の獵は最も盛大なり半島海岸到る所海豚海獅海狸等を産せざるはなし四季共に其海岸を去らず土人春秋の兩期海馬及海狸を獵する甚多し鯨は銛を以て之を獵す蓋鯨の銛を受くる時は塩分傷所を刺撃し之が爲め苦痛を發して後必らず死し波濤のために海岸に掀揚せらるゝを待ちて之を拾ふ蓋しオコツク海の鯨は世界各海中之に及ぶものなし一千八百八十一年露國政府は蘆哈連島東海岸オホートスク堪察加半島島蘇里地方の沿岸並に其屬島に於て外國船の貿易並に漁業に從事するものゝ爲めに左の規則を布達せり

第一條　露國のアホートスク及沿海洲の沿岸其他所屬諸島並に其海灣に於て貿易及漁獵を營まんと欲する外國船は西比利地方總督の許可又は免狀を受くるに非れば其業を營むことを許さず

第二條　特許又は免狀を請はんと欲する外國船は必らず浦汐斯徳の官廳に出願すべし

第三條　ペトロパウロスク港は堪察加半島の一港たりと雖も同港地方官に於ては一切之等の特許又は免狀を付與せざるものとす

第四條　提督島幷に羅都辨島の沿岸に於て外國船は漁獵及貿易をすることを許さず

第五條　西比利地方總督の特許若くは免狀を受領せずして露國所屬の海岸に於て貿易幷に漁獵等に關する現行の規則に違犯するものは其船及船荷共一切を沒收すべし此の規則は一千八百八十二年より實施するものとす

第六條　露國軍艦及商船は此の規則を實行せしむるの權を有す

但商船は兵員を載せ且つ特別の指揮ある時に限り其の權を有するものとす

密獵船は年來沿海州の北太平洋を徘徊して海獸類を濫殺するを以て近來著しく海獸の減少を來すに至れり彼のアウコツト半島に於ける土人等の常業とする海馬獵の如きは近海に其游泳する影を見さるを以て目下は皆北氷洋に於てせざるを得さるに至れり又喀拉金諸島の近海は從來海馬の巢窟なりしも近來は一夏季中に於て僅かに十頭乃至拾五頭を獵獲するに過ぎず然も北氷洋に於ける鯨は尚頗る有望なり而して毎年外國鯨獵船の獵獲する價格は無慮三千二百五十万留より寡からずと云ふ

露人デヂモフは太平洋に於ける鯨獵を盛ならしむる目的を以て企業し後來頗る望を屬すべき結果を得たりデジモフは一千八百九十一年十二月捕鯨船に搭し浦汐斯德港を發し翌年の三月に至り四ケ月間に獵獲せし鯨數は二十七頭にして鯨脂一万二千普鯨鬚五噸を得たり

沿海州の東部アホータ海に於て捕鯨を營むものあり漁獲は頗る多く一千八百八十八年桑港に廻送せし鯨魚は十万三千尾なりと云ふ

海豹は從來濫りに獵獲せしにより目今已に竭盡の有樣なり海馬も年々減少し目今朱克察人等の獵獲する海馬は北氷洋に於てするのみにて其牙骨皮革はアナドイル灣に持ち來り之を火酒類と交換せり

白令海の獸類は植物に比すれば其種類甚多し殊に鯨鯢の如きは各所之を見さること なし晩近米の鯨獵船は毎年來航するもの四百隻の多きに至り到る所猥りに獵獲せしを以て鯨鯢大に減少し近來屢かに獵船の航通する能はざる處に捿息するを見る海狸は數種あり其肉は食料となし其皮は土人の用ゆる小舟の外部を被覆す魚族も亦數種あり其味最も美なり

白令海の諸島に於て臆虎、黒貂、赤狐、白狐、海貓、獺多し毎歳外來の漁夫之を捕ふること甚多し蓋し此の獸類を產せざれば白令海の諸島は人跡を絶つに至るべしオホーツク海は海草の生育甚多くして五十三種あり而して其內十三種はオホーツク海の特產にして其近海に於ては全く產出せず其余は太平洋及北氷洋に產する海草と同種なり

オコック海の貝類は種類極めて多く已に發見せしもの七十種其二十四種は特產にして爾余の十五種は白冷海產に屬し三十一種は北氷產に屬す此の外海虫貝類に等しきもの二十一種あり

貂の獵法は銃丸を用ゆるの外十一月より翌年三月迄の間に雪上網を張り狗に驅逐せしめ以て捕獲すと云ふ

貿易

西比利の貿易は十七世紀の末に至り歐羅巴露西亞クルスク省商人セレホヲなるもの米人と連合して一社を創立せり名けて露米商會と云ふ爾來一千八百六十年に至るまで此の商會によりて行はれしもの多し此商會の存立せし間はアホータスク府より勘察加灣に至る東部の海岸に於て露國商人と土人との貿易尤盛なりき當時此の地方の貿易は露米商會の專業たりしを以て其利從て大也土產重艘毛皮にて貨幣を以て講求

し域は物品と交換し商會所有の船舶を以てペトルブルグに運搬せり然るに一千八百五年に至り露米商會は其業を廢止せしより歐洲人之に交りてアホツスク海岸の貿易に從事し殊に近來英米兩國捕鯨船の專領する所となれり英米の鯨獵船は獨り鯨獵のみを以て甘んぜず密かに沿岸の土人と儘かに火酒又は雜貨を以て良好なる織毛皮と交換し遂に上陸して木材を伐採し之を輸出する等露國に與ふる損害尠少ならざるを以て露國は遂に千八百八十一年漁獵規則を發布したるを以て終に其跡を絶つに至れり其后露西亞はヤクートスク府を以て中心とし勘察加半島に物品を送り織毛皮を貿易せり而して此の貿易は水路に依らずして冬季積雪を待ち橇の運用に依れり其日數四ケ月を費しへと云ふ

現下勘察加貿易狀態は彼地にシールスキン會社毛皮會社なるものあり魯米人の協商にして魯國政府の保護に依り全島の貿易を獨斷せり土人の日用食物一切を供給し之に交ゆるに獸皮を以てせしむ初め政府は土人保護の爲に補助せしが會社は勉めて巳れの利を計り社員も亦巳に利を求む土下交々利を征りて以て土人其苛虐に苦しむ然れども此の會社に依るの外道なきを以て止むを得ず若し由本人の其部落に至る者あれば切に其狀を訴え曰く諸君明年も來るや否や來らば日用品何々を持ち來らんことを希ふ交換品は毛皮何々を貯へ置かん會社に遣るは吾等の欲せざる所なりと今彼の地の物價を擧ぐれば左の如し

品目	勘察加買入價格	日本賣上價格	差引利益
熊皮	四、四〇〇	二〇、四〇〇	一六、四〇〇
貂皮	一〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇
獺皮	一、七五〇	一五、〇〇〇	一三、二五〇
狐皮	二、五〇〇	七、〇〇〇	四、五〇〇
ロシヨマーギ皮	二、四〇	八、〇〇〇	五、六〇〇
馴鹿皮	三〇〇	一、二〇〇	九〇〇
犬皮	二〇〇	一、〇〇〇	八〇〇

備考

勘察加買入價格となせるは大凡の標準を示せるものにして即ち交易すべき原品の價格を示せるなり例へば麥粉二俵を以て熊皮一枚と交へ洋服一組と外套一枚とを以て貂皮一枚と交へ酒精五瓶を以て獺皮一枚と交ふる等の如し而して其麥粉二俵の原價は四圓洋服一組外套一枚は十圓と見て前掲買入標準價を得たるなり

日勘物價對照表

品目	日本價格	堪察加價格
麥粉 一袋	二、〇〇〇	五、〇〇〇
黑麥粉 一布度	一、三〇〇	二、五〇〇
白米 一布度	一、四八〇	四、〇〇〇
ザラメ砂糖 一布度	五、五〇〇	一二、〇〇〇
磚茶 一枚	三〇〇	五〇〇
紅茶 一斤	二〇〇	一、二〇〇
葉煙草 一斤	一五〇	六〇〇
刻煙草 一斤	一、六〇〇	二、〇〇〇
酒精 一瓶	三五〇	三、〇〇〇
燐寸 一ダース	〇三〇	三六〇
魯西亞更紗 一ヤール	一三〇	二〇〇
綿チル地 一アルシン	一〇〇	三〇〇
ブマゼー 一アルシン	二五〇	四〇〇

綿毛布 一枚 一、二〇〇 三、〇〇〇

本毛布 一枚 二、五〇〇 五、〇〇〇

洋服古 一ツ組 五、〇〇〇 一六、〇〇〇

外套 一枚 五、〇〇〇 一〇、〇〇〇

綿チル襯衣 一枚 六〇〇 二、〇〇〇

ズボン下 一個 一、六〇〇 一、七〇〇

帽子 一個 一、〇〇〇 一、八〇〇

ペートルパウロスクは魯國軍艦の一年一二回巡航するのみ

第八章 國際的漁業に關する黑龍江沿道總督府國財支部の意見

黑龍江沿道總督府國財省支部が薩哈嗹島漁業と共に堪察加に關する國際的交涉意見は下記の如し讀者幸に注意を拂はれて可なり

北部諸郡の僻遠荒莫たる地方に至りては當支部現在の資力にては上來購求せる南部方面よりも更に困難なる問題たり如何となれば漁業上の監督は沿海州南部薩哈嗹島

黒龍江下流に於てすら其監督に要する資力に乏しきが爲め監督の比較的行屆くべき地方且交付すべき漁場の自然的情態上漁業者の側より甚しき犯則をなし易からざる地方に限り許可して而して漁業を制限するの有樣なれはなり此の如く現今漁業を開放したる地方に於ても其漁業たる監督に充分の資力を有し且漁業經營の地方的情態を知悉したる場合に許可するが如き程度を去ること遙かに遠し前述する所は主として我が沿岸中他地方全部特に勘察加に關し適用するを得べし勘察加の注意を惹くに至れり

勘察加漁業發達の歷史は相當なる漁業監督の如何に欠くべからざるかを証明するを得べし

漁業は商業の目的を兼て千八百九十六年初めて露國臘肭臍膃虎獵會社の請願に依り許可されたり斯る鞏固なる企業者の着手せる事業は我が地方に稗益を與ふへきを豫想し行政廳は同會社の新企業に極めて同情を表したり同會社の着手したる事業は迅速なる發達をなせしかは其後之に倣ひて他の企業者起れり然るに歲月を經るに從ひ勘察加漁場は期待したる稗益を來すに適せざる地位に在り相當の監督法を規定するとなく漁業を許可せん乎動もすれは其漁業は密獵的性質を帶ふるに至るへきと明瞭

となれり

漁業の爲め堪察加沿岸を開放したる後二年を經るや既に魚類は河口にある漁場に於て遮斷せられ河の上流にある住民の唯一食糧を奪ふの恐ありと地方住民より苦情を唱ふるに至れり又一方に於てはペトロパウロフスク州廳は沿岸に來る密獵帆船取締の爲め軍艦を派遣するは之れが焦眉の急務たると及ひ漁業者並に漁場の監督を規定するの必要なることを上申せり斯る苦情上申の由て來る所以は即ち密獵者が絕へず河口に網を立て剩さへ全く河口を遮斷し爲めに散在のため魚類の河流に遡上するとを妨遏するにより近き將來に於て魚類を滅盡するの恐れればなり

帆船ストーロシ號にて堪察加に派遣されたる當支部付漁業監督官彼地漁業の情態に關する材料を蒐集したるが此の材料たる全く密獵的性質を帶ふる前顯記述を證明するものなり帆船ストーロシ號の巡航の結果齎せる報告に依れば殆んと各漁場に於て漁業を正則に行ひたるものなく河口を全く閉塞したるもの間々ありたりと言へり

此の如く何れの地に漁業を許されんとするも相當なる監督法の設定は緊要なる條件なり若し監督法なく之を許さんか我が天物を暴殄し爲めに地方住民は致命的影響を蒙るに依り地方行政廳の重大なる責任に歸すべし

然れとも若し漁業を許可するには其監督法を設定するの責務ありとすれば則ち監督を缺きたる地方に於て漁業を禁止するも亦我が魚類富源の保全を担保することなく又致命的密獵より地方住民を救済することなかるべし

漁業の爲め東北沿岸に來航する密獵帆船は監督の缺如によりて危險の皆無を利用し河口に來り魚類を滿載するまで密獵帆船は逐年增加の勢なり

魚獲し彼の地に滯留するなり

我か魚類富源の保全及ひ地方住民の運命の爲め致命的なる密獵を發達せしむる結果其物に論及するは蛇し贅言なるべし若し此の害を防遏せざらんか近き未來に於て勘察加諸河及ひ我が東北沿岸諸河の魚類を絶無に至らしむるの恐あり水産業を監督する黒龍江沿道國財省支部の指揮の下に漁業保護の爲め今まで一隻の滊船ストロジ號あるのみ故に行政廳は我が沿岸巡撿の爲め數隻の船舶交付に關し稟請したること曾に一再ならさるなり吾人の有する報導によれは此の稟請は頃日認可せられ農務省は既に巡洋艦二隻及ひ小蒸氣船二隻の注文を取計らひたりと云ふ漁業沿岸監視設定の問題に至りては今尚未定に屬す

北部方面に於ける漁業の情態此の如くなるに近來其荒寞たる沿岸に於て漁場租借を

得んとし企業者の請願絶へさるに至れり

漁業上の關係に於て未だ探究を經す且つ監督を欠如せる地方に於て漁場租借就中長期租借の請願を認許することは地方政廳の側より言はゝ國有財産に對し相當なる措置といふを得さるや明けし何となれは漁場に關する報告に憑らずして漁場に相當する租借料を定め營業上に適當なる條件を設くること能はざれはなり然りと雖も露國漁業は漸く我が地方に於て發達の端緒を開きたる際僅かに租借を願出たる地方の不知案内なると監督の欠知との理由に基き企業者に漁場の交付を拒絶するは望ましからぬことにして此の拒絶により地方漁業の發達に順捗を來すを欲せさるなり

之により北部諸郡に於て租借の爲め一定の漁區を劃することなく千九百三年沿海州沿岸白令海及ひ北氷洋に於て勘察加岬(堪察加半島の東岸にある)より北方に向ひたる方面並にオコック海西北岸に沿ひポドカギール河口(勘察加半島にある)よりアヤン港に至る間に於て露國臣民は露國の國旗を掲け露國勞働夫を使用し露國の國旗を掲け露國船員の操縦する船舶を以て漁撈及ひ海獸獵を行ふことを許されたり

次に眼を沿海州及薩哈璉島に行はるゝ漁業の規模に轉し漁業より徴收する國庫の收入及ひ我が沿岸より最も主要なる外國市場たる日本に輸出する海産物により此の規

模の大小如何を定めんとせば千九百年乃至千九百二年の最近三ケ年間の漁業より收得したる國庫平均歳入額三十五萬留なるに千八百九十七年乃至千八百九十九年の三ケ年間には平均歳入額一萬五千留なるのみ即ち短少なる年月間に歳入は十六割三分昇騰千八百九十九年乃至千九百一年の三ケ年間に日本市場に輸出したる魚類生産物は平均一ケ年間二百二十萬布度にして價格二百六十萬留弱なるを以て知るべし前記の材料は現今我が極東諸海の漁業の最も感動すべき程度に達したることを示ず又是まで殆んど全漁獲物は單純にして賤價の生産物に製造され其一奇は地方市場の需用に供され大部は日本に輸出せられたることを忘るべからず然れども西比利亞鐵道に依り定期貨物運輸の確立と共に品質の點に於て漁業の發達に害惡を來したる日本市場の絶對的價値は自然に墜落せざるを得ず黒龍江沿道魚類の爲め多樣にして高價なる魚類生産物を需用すべき歐州市場開始せらるべし而して黒龍江沿道諸水に於ける諸種魚類富源の宏大なること食料として魚類の品質上等なること漁業設備の比較的輕易なることと及び西比利亞並に歐州市場に輸出の爲め當地方魚類の製造をなすことを希望する企業者の存在することと皆市場開始を助成するものなり

然れとも魚類生産物販賣上現今の情態に於ては地方魚類富源を生産的に利用すること未た少し薩哈嗹島に於て漁獲ずる鰊五百萬布度中僅かに其四千布度余は鹽漬とし

て地方市場に販賣せられ殘余の鰊は日本稻田肥料用締粕に製造せられ彼の地に於ては其價格一布度に付約一留三十哥にして締粕一布度には生鰊約五布度を要するにより生魚一布度は二十五哥に當る又當地方紅魚(鮭鱒ニヤルカ等)も僅かにニコライエフスク方面に於て黒龍江沿道の需用として稍多量に樽漬にするのみ然も其販賣價格は遙かに其優秀なる美味と相稱はず總て殘余の紅魚は良好なる市場を缺如するにより極めて賤價にて日本に販賣せらる

之により當地方の魚類を西比利亞及ひ歐洲市場に販賣するに至らんか數倍高貴なる價格を有すべければ地方漁業を繁榮ならしむると常に異なるものわらん又地方一般經濟界の發展に貢献ずる大なるものわらん

現今尚ほ西比利亞及び歐洲市場に我魚類の著しき輸出なき所以は地方企業者が此等市場に供給するの條件を知悉せざると運賃の高貴なるとに因由するなり然れとも是れ唯輸出の端緒を開くを要するのみ試驗一たび好成績を奏せんが陸續多數の後繼者を奮起せじむるや疑を容れざるなり

故に初期に於ては可成魚類及び鹽の運送に要する賃銀を低廉ならじむるを要す當地

方に於ては塩の價甚た貴くして一布度六十哥より下るとなし然るに例之アストラハン漁場に於ては僅かに八九哥なるのみ

此の如く黒龍江沿道の漁業を發達せしめんか爲には魚類及塩の運賃を可成低廉ならしめ貨物送出人に可成便宜を與ふるは極上々重要なる問題なり且つ當初に於ては鐵道は此等の貨物より收入を得んとに努力せさる方宜しからん何となれば將來輸出の發達と共に數百万布度の魚類を輸送するに至らんか斯業經營の爲め初期に要したる全費用を償ふて餘りあるに至るべければなり

第九章　カマンドルスキー島

概要

カマンドルスキー列島はベーリング海口の一島にして堪察加岬より九十七海里を距て北緯五十四度三十三分より五十五度二十二分東經百六十五度四十分より百六十八度九分の間にあり一千八百九十五年の調査に住民六百七十人と稱せり始め本島は一定の住民無く一千八百二十六年より順次移住者を生し獸産の豊富なる爲め竟に現今の惰況に至れりと云ふ本島は北海第一の寶庫と稱すべき海獸群聚の處にして腽肭臍臙虎の棲息

北海諸島其の比を見るの地なし現今臙虎は本島の屬島たるメーズニー島に棲息多しと云ふ米人の垂涎日既に久しく其密獵者等か濫獵の結果は大に北海獸種の增殖を妨けしのみならず地方によりては殆んと其栖息を見さるに至らしめしかは露國政府はベーリング列島に對し特に嚴重なる保護を加へむ爲め武裝せる監督者を置くに至れり本保護下にある本島にしても猶年々多量獸皮を産しスイルスキン會社の利益は實に驚くべき高格に上ると云ふ島の西面灣頭同會社の獸皮倉庫あり又解氷を待ち軍艦の保護回航あり今春以來我と兵端を開き保護軍艦の回航もなく獸皮積取りの船舶も至らす住民の食糧は何人の手に給せしや高貴なる毛皮は誰か手に歸せしや前面の盜を防き後門の賊儘ま入るに任せ利のある所白人の行く所飛報天涯より來る米國人某は船舶を艤して北海に入り之に次き英國政府は露政府の協諧を經て其艦隊に警察權を附し之れが監視をなすとゝなれりと嗚呼吾徒の號呼北海の飛瀾と亦た空しく之を狂視せられ事遂に此に至る惜む可き哉吾人同儕の調査に係る刻下出獵捕獲し得べしと見込むべき大數と前年露國保護の下に於て捕獲せしと稱する發表數を錄せんに

臙虎	壹百枚	前年捕獲數	
臙肭臍	參萬五千枚	仝上	

臘虎　貳百枚　濫獵とならさる限り捕獲し得へき數

膃肭臍　拾壹萬枚　仝上

此の前年捕獲數はスイルスキン會社か脫稅の爲め極て小數の申告を成せしを以て今其實數を得難けれ共極めて扣目に見るも三倍以上に上るへく而して我戰時に於ける出獵は露官の制壓に屈從するに及はされは其濫獵とならさる限りに於て裕に前年申告數に五六倍を獲收するを得へし今之を前年捕獲數に取り獵虎を一枚七百圓（最下級の價額に準す）膃肭臍を一枚二十五圓とすれば九十四万五千圓に當る之に狐獺等の產出價額を加ふれば同島の產出毛皮價額百万圓以上に上る人口六百餘の邊島を以てして是の如きの生產力を有する誰れか其の富大に驚かさらむや況んや其實收は之に幾倍せるに於てをやスイルスキン會社か暴利を收むるもの亦吾人の夢想以上にあり

本島は歐洲の無木帶に似て樹木少なく秃々たる海上の一嶠たり處々楊樺の類あれとも五六尺を出です又た島中蔬菜なし土人好んで百合根を食す春夏の交石南花百合花一時に開く八ヶ月の長き間た堅氷に封せられ俄に春色を迎へ尋で船舶の來航を迎ふ其の住民の喜色想ふへし

海上魚族の多きは島中獸族の多き所以にして亦た之を適度に漁收せは獸族の保護に妨けなし現今の情態は露政府保護の下に於て一のスイルスキン會社の其の利益を獨占する而已故に多額なる土人の獵收も極めて少額の代價を與へられ不完全なる生活の下に邊島を蝸守せる有樣也

臘虎と膃肭臍

獵虎は勘察加半島の東海岸ロパツカ岬より北へインカニユシ三姉妹岩の邊に集合し又アフリカ岬の附近或はメードウヌイ島西海岸ガワリロウスキ岬よりボブロウイの間海馬岸の邊に集合せり

膃肭臍は同しく東海岸クロノツキの絕壁及ひストルボイ岬の邊又カマンドウスキの西海岸パピボドウヨムよりコラベーリヌイ灣に至るベーリング島の一部を集合地となせり

兩獸は一定の海水溫度に游泳し冬は溫度を追ふて日本海に出で夏に至り再びベーリング海に歸來す其棲所は海草內にして海岸に上り畑に入る事ありと雖も人烟を恐れて直ちに去るなり然れとも陸上に在りて獵夫に會する時は直立して之に向ふ事有りストルボイ岬のクロノツキに於ては現時濫獵を禁し姉妹岩にて臘虎の獵を許すと雖も

カサック兵之を監視して獵夫一人に一頭を與へ他は之を奪收して政府の收入となす本島に在りては兩獏の殖蕃を計る爲め生後一ケ年未滿の者の捕獲を禁し島の周圍五哩外ならずんば發砲を許さず陸上網を用ふる如きも嚴禁し土人亦常に之を監視す曾て千島より移轉せる八十三人のアレウッ人等は堪察加アサチンスキ灣に居住し一千八百八十八年二十二頭の獵虎を捕獲し千五百圓に賣却したるか當時彼等の談を聞くに獵虎の群集三百餘なりしも小舟の用意なく爲めに僅かに二十二頭を得たるのみと又千八百九十二年にはペトロパウロフスク郡長か六人の獵夫に試獵を許せしに獵夫はベーリング海にて十三頭を捕獲し一頭を納稅とし他の十二頭を浦汐斯德に送り異例の價格を以て之れを賣却せりと云ふ遠く遡りて禁制以前即ち千八百二十一二年の兩年に於て米露合同會社は獵虎及び膃肭臍の捕獲高二万五千四百十六頭なりしと云ふ以て其如何に有益の事業なるかを知るに足らすや

第十章　オホツク海沿岸

概要

間宮海峽を出て薩哈連のエリサベス岬を左にしウリバンスキー灣より沿海洲の海岸を渉りペンジンスク灣堪察加西海岸の終局)に至るの間にオコツク政廳ギジガ政廳あり兩政廳共に浦汐在留沿海洲軍務知事の管下にあり

本地方は本邦人の通漁者極て少く爲めに未た充分に探見の報導を得す元來廣漠なる土地なれば散々伍々我が探見の同人あるも一隅を以て三隅を知るの感なきにあらず先づウリバンスキー灣附近即ちウードスキー郡區沿海の概況を述べむ

此の沿海はシャンタルスキー列島を前にし地形東北に面し氣候も比較的酷烈ならさるも魚族の群聚割合に少なしと云ふ所謂其少しと云ふものは薩哈連西北の各地に比し又堪察加岸に比して少なしと云ふ義にして假令ば其の通漁の多勞多故なるに比し漁收容易ならすと云ふの意なり兩三年以前より二三の漁業者同地方通漁に從事せしも露官吏制壓の結果と叙上の事情により失敗に歸し他に漁場を轉せり水陸の鳥獸は可なりに多し然れとも皆土人の不發達なる狩獵を以て多少の毛皮の輸出あるのみウードウスキー灣より東北に向ひオホツクに至る一帶の沿岸諸河の河口大底部落ありて漸く遞驛の狀に近けり而して其の海岸線は灣曲少なく三四の港灣ありと雖も良港灣と稱すべきものなし此地方は未た本邦人の探見を企だて周密なる調査を遂けたるを聞かす

オホツクは本沿岸中第一の港灣にして四五千噸の大船を容るべし戸數七八十戸政廳あり十餘人のコザク兵を置けり而して其左右沿岸百里許近年順次本邦人の通漁するものあり沿海の魚族は鰊鮭鱒共に多く盆す後來の見込あり殊に本海岸の鮭鱒は第一等の品質にして其形極めて大なり

オホツク河以北に於てウルギヤ河イニヤ河シルカブ河共に鮭鱒の聚上多し曾通漁者の屬望する所なり

鱈の棲息は最も多く米人通漁者時々來る土人はツングス多くして馴鹿の半遊牧を業とせり而して其の多數は七八口の一家にして四五千頭を伺ひ最も少きものと雖も二百頭三百頭を下らず水草を逐ふて移轉せさるも漁期を迎ふれば馴鹿を逐ふて河口に出て秋期に至れば又內陸に向ふ者あり

獸皮の產出稍多し亦た土人の狩獵に產す羆熊狐貂の毛皮其質堪察加產に類似せり

南方海上遙にセントヂヨナ島あり此の政廳の管下にして獸類保護區なり有名なる膃肭臍の栖息處なり唯膃肭臍の栖息多き而已ならず獺其他の獸族も海中の魚族も太た多し亦た未た本邦人通漁者の探見に上らさる上に露政府堅く之を禁錮せり

タウイ河はオコツク沿岸第一の大河にしてコバ河と合流してタウイスカヤ灣に注げり灣內凋大にして魚族極めて多し近年或る通漁者試漁せりと云ふ本灣にはタウイ河以外ナヤ河アルマン河オウ河等數條の河水注流し一見魚族聚來の形勢をなせり本沿岸中に於て尤も吾人の屬目ずる所なりチヤムスカイヤ灣中ラウロイヤ河注流せり亦た魚族群集の所たり河口ロヤムスク驛邑あり二三十戸魚族亦た夥からず昨三十六年阿部茂穆八通漁を試みしか鮭鱒良美深く他日の屬望を囑けりと云ふ

是より以北堪察加西岸に對する海岸よりタイゴノヅス岬よりペンジンスク灣に至るの間川河甚た多く魚族の聚來亦た極めて多きも未た通漁者探見の實を擧けす

タイゴノヅスの西奥にギジーギンスク驛邑あり戸數六千許り政廳を置けり土人はヨヤク種多し漁獵游荒の民にて甚た蒙昧なり獸族の栖息太た多し駸々たる通漁の開發は必らず此地の天產を擧けて文明人の欲望を充さしむるに至る亦た數年を出さるべし凡そオホツク沿岸は方向により小差ありと雖も十月上旬結氷し四月中旬解氷するを例とす天候は春秋雨季多く濃霧に封せらる郵便物は冬季結氷の際は堪察加のペトロパウロウスクより橫斷して西海岸のボリシエレツキに出て西海岸に沿ふてチギルを過ぎペンジンスクに至り海岸に沿ひ西行して

ヤムスクを過ぎオホツクに至る此の間道路と稱すべきものなく山河の氷雪を利し群犬轡索を騙り晝夜兼行逓驛して一ケ月餘を費す地勢の險夷に依り行程時に差違あり と雖も氷上の犬橇能く十二時間四十里(日本里數)を走る行程の遼遠遞傳の苦辛察すべし オホツクより直北する二條の道路あり是れ西比利亞内地に至るの道路にして馬車を通ずべし郵便物亦本道によりてイルクーツクに至る鮮氷期中は郵便船ありペートルパウロスクより堪察加を廻りチギルギジーギンスクヤムスクオホツクに至り直に浦汐に歸航す殊に七月八月の交は別にベーリング海中のアナデールに行き舵を廻してカマンドルスキー島に寄せウーラスチカムチャツカに至りペートルパウロスクより期定の港灣を廻りてオホツクに至り浦汐に歸航す二ケ月有餘の解氷中辛して三回の消息を通するを常とす

今露人クスカリコウスキーの露日外交事歴中の一節を抄出して參考に資す

一千八百四十六年アヤン港開放せられて同港と「ヤクーツスク」との連絡相通し露氷商會の事業尤も盛大を極めたる時に於てすら同商會の太平洋に泛へたる船舶僅かに九後にして内濱船二隻なる事是なり商會の収入九十九万七千四百八十三留支出八十七万三千四百三十五留にして獨占事業の純益十二萬四千四十八留に達したりと雖も此時や英人か已に支那樞要の諸港に歐洲船舶の出入する便利を開きたる時なり又た茲に露國の文書に就き其住民の戸口生活物資産出額家畜數獸皮産出數等の諸表を譯出す然れども露國官吏の手に成れるものなれば素より逸數脫算を多きを免れざるべし唯た是れ一部の片影參照に資する而已

住民戸口表

種目	一八九一年	一八九二年	一八九三年	一八九四年	一八九五年
家屋	二三八	二八四	一二六	一六九	二三七
帳幕	九八	五〇五	八四九	六九二	七〇八
倉庫納家其他	二九二	二六二	二六二	三九九	三四四
男	一、三五六	二、五七二	二、一八一	二、二四二	
女	一、二五九	二、四五一	二、一三三	二、一三三	
合計	二、六一五	五、〇二二	四、三〇四	四、三六五	
出産	一二八	一二八	一四四	一二九	
死亡	四二	一〇〇	六六	九九	

生死増減　増二五　増五四

純婚姻　三一　二〇

住民生活物資産出額累年比較表

品目	一八九二年	一八九三年	一八九四年	一八九五年	備考
鮮魚	二三、九八〇瓲	三七四、五二〇瓲	二七三、〇八〇瓲	二九六、五五〇	
鹽魚	二一、六二〇	七五、九五〇	一八、三七〇	五八、九九五	五一、六四〇
干魚	一〇〇、〇七〇	三三、一五〇	二三〇、四二〇	二七九、三一二	一七三、七〇〇
コスチエイ	二〇七、四六〇	二八四、四二〇	一七、二五〇	一九九、一〇〇	二九〇、一四〇
アルギーズ	九五、六七〇	二一〇、六七〇	七五、三一〇	一三六、六一〇	二一〇、〇六〇
コチエマーズ	五七、六四〇	一二六、四二〇	四二、一二〇	一三四、〇五〇	七九、五五七
馬齢蓄積	一〇瓲	一八瓲	一六〇瓲	一七〇瓲	二二〇瓲
馬齢蓄収獲	二、八一六	一、四七六	二三七三	一、八八七	二、四二八

家蓄斃及獣皮産出斃累年比較表

	一八九一年	一八九二年	一八九三年	一八九四年	一八九五年
馬	一九二	二六〇	二六七	二七二	二九四
有角畜	二三七	三二〇	四七七	五六二	

橇引用犬　一、九八一　四、一八五　四、三九四　八四、七四四

馴鹿　六〇、七三〇　七四、三九四　六七、五二二　五五、六六九

栗鼠　四三、五八三　三五、一九七　四四、四五〇　五三、八六八

狐　三四七　三九七　八五三　三六一

熊　一〇〇　八九　一三九〇　二〇三

狼　五一八　一九　九　三七

貂類　六九　一〇四　六六　五一九

獺　一〇　三一　四七　一七九

野羊鹿　六三六　二、二〇五　二、五三五　二、五八八　三、二九八

海豹　二、〇三一　一、九九六　一、七四七　一、七〇二　二、二二三

鱈漁情況

本篇は大日本水産會員某氏の實査に成れるものにして當海に於ける鱈の栖息如何と其の漁法如何を窺知すべし

予は本年(卅六年六月)中旬便を得て千島の北端占守島に着し九月中旬迄彼地に滯在して漁業の試驗に從事せしか第一鰹の豊産なるに驚けり

鰹を釣るには延繩は却て面倒にして唯二本釣鈎を有する手釣最も適せり試みに漁場に至り釣具を投せんか鎭錘の海底に達するや直に魚の手答あり同時に大抵二尾ヅヽ釣り上るを得而して魚の擾るに從ひ間斷なき事恰も魚の荷役をなすと同樣の感あり大抵幅六尺の漁船に三四人乘組み二三時間にして四五百尾を釣獲滿船す魚群特に濃厚なる時は始めに釣上けたる魚を逐ふて上層に來集し水面下四五尋の所にて盛に釣獲あり甚しきは鎭鉛の魚体に衝突するを覺ふる事有り或時米國製鰹擬餌鈎を試みたるに魚体の何の部分を問はず引懸得て甚妙なりし釣餌の如きも殆んど撰む所なく多くは鰹の友餌を用ひたり或時鰯に澤庵漬漬等を用ひて荷能く釣獲ありしは滑稽なりし元來鰹は深海魚なりと信せしか彼地の鰹は二三尋の淺所より七八十尋の深所に至るまで唯一面に撒布せり但淺所の魚は深所の魚に比して体小なるの差あるのみ而して漁場として適當なるは水深十四五尋以上三十尋までにして其以上に魚を釣るに時間と勞力とを要するの不利あり或時鰹の棲息を探る爲め一本釣を試ろみ其の見込なきを知りたる後延繩を試みたりしか枝糸間距離僅に二尋にして而かも其の三分の一は空釣ながりし以て魚群の夥しきを知るべし漁業の季節は六月初旬より八月下旬までを可とす此の期間は寒氣薄く海上平隱なれはなり九月に入れは天候一變し海上極めて危險なれば宜しく八月中にて切上げ歸航せさるべからす今參考の爲め本年六月中旬以降八月下旬に至る天候を概括して表示せん

	六月十六日以降	七月	八月
天	一〇日	〇日	〇日
〃	二	六	三
〃	〇	二	〇
〃	二	四	〇
〃	一	五	一四
〃	三	五	九
〃	二	四	四
〃	二	〇	〇
〃	一	〇	〇
〃	〇	一	〇
候	〇	四	一
計	一五	三一	三十

氣溫	最高	五七度	六三度
	最低	三七	四二
	平均	四五	五〇
水溫	最高	五一	五七
	最低	三九	四一
	平均	四一	四七
漁業に從事し得らるゝ日數		一〇日	一三日

天候略符（晴）ハ（曇）ク（霧）ギ（雨）ア（雪）ユ

註假令ばハクと書せるは一日中に晴と曇とあるを云ふ他も之に同じ

抑オホツク海の鱒の無盡藏なることは畧世人の察知せる所にして而かも從來之を顧みるもの無く一に夫れ程遙遠ならさるにあらすと雖も帆船にて二三週間を費せば達するを得べし又六月後の航海の危險ならさることは日本より鮭漁の爲め勘察加方面に向ふ帆船の數五十隻に近きも一も途中難遭せしを聞かさるにても明らかならすやオホツク海の鱒遠洋漁業何か故に開發の時機甚遲きや魚群のある所白鴎之れに隨ひ利のある所白人を見ると果然勘察加ギジガ河沖に於て二隻の米國帆船の繫りて鱒釣に從事せるも

のあり其の帆船の大さは三百五十噸計りにして四五十名の乘組員を有し六月中旬此に來着し八月中旬までに各十八万尾の鱒を釣獲滿載して歸去したり而して彼等漁業組織の完備せるとは實に驚くべきものあり漁撈製造凡て分業と成り居れり乃ち二十名の漁者は二十隻のドーリー船に分乘し各見込の漁場に至り鱒を釣して歸航すれば本船にては製造者各々其の業を分擔し先つ一人は魚を傍の魚槽より取出して切臺に上け頭部及腹部に切目を入れて渡せば次に立つもの頸骨を折り頭を捻切りつゝ臟腑と共に海中に投棄す次者之を腹開きとなし脊骨は肛門の下二三節に渡り斜に切り尾部のみ骨を殘して上部を切り去り傍の水槽に投入す又此處を少しく距れて廣き一臺の卓あり前記水槽の魚を釣して此上に移せば卓に向へる六七名の少年は毛に毛糸製の手套を着け對立して腹部の黑膜を抓去り次の水槽に投す次者亦た小庖丁を以て頸部の血塊等を丁寧に除去し次の水槽に投入す最後に水切臺に移して水を切り樋を辷らし艙内に落下せしむ以上の仕事は船の甲板上右舷左舷の二隊に分れてなさるゝものにて其の仕事の間斷なく交互連續し且つ其手業の敏快なる事曲藝を見るか如し又艙内に至ては二人魚を排列しスコップを以て食鹽を撒布し魚を堆積鹽藏す斯の如く製法完全し且其食鹽も極めて佳良なるを以て製造されたる鱒の肉色は恰も雪の如し（鱒は釣上くるや否や頸動脈を切り

て血抜をなす)彼等の業に就くや規律備はり毫も傍観傍語することなく業務に一心不亂なり喫煙の如きも一定の時間に卷煙草に火を点したるを各人の口に啣させ廻るものありて喫煙と雖も手を休むる事なく午前四時より午后八時迄其業に從事す其の終業の後合羽を脫き棄つる時は豈驚かさるを得んや彼等の製法は予も聊か實驗し其の難きにあらさるを知れとも今日彼國に輸出せんとするには表面上たりとも是非彼の國の技術者を雇聘して製造したる者にあらされば彼等は一切取引を諾せすと云ふ而して上述の如く製造されたる鰒一尾の價格は大凡我邦の四十五錢に當ると云ふ以て彼等の收得する利益の大なるを推知すへき也飜て我邦在來の製法に從ひ內國向きの鹽鰒即ち新鰒を製せんとせんか第一巨大の頭部を存するを以て船の容積と食鹽を費す事大なるの不利あるのみならす價格低廉販路狹隘の憂あり販路及價格の點は此の業に至大の關係を有するを以て大に考究を要す可きなり

鰒は歐米人の貴重する魚類なりオホツク海は無限の鰒を蕃殖す彼國人已に之を知りて來漁し巨利を博す猶今後一大增加を來さん事火を睹るより明かなり嗚呼オホツク海其の航海危險ならす航路又日子を要すること少なし我邦漁業者何ぞ彼等の大擧して來らさるに先ちオホツク海の鰒漁を開發せさるや鰒業は實に他の漁業の如く著しき豊凶の憂なく最確實の事業なるにあらずや今やオホツク海は實に我漁業者の鍵に由て開發せられんことを待望しつゝあるなり記して事業家の注意を促す

大日本水產會員某氏記述鰒通漁航路概況

オホーツク海(特にカムサツカ沿海)の鰒の饒多なるは實驗家の唱導する所にして余輩は漁業家か縦々此業に從事し同海に出漁する彼の米國の鰒漁船をして恰も先年本邦の東海より北海道千島近傍に密獵を事とせし米國乃至諸外國の膃肭臍其他の獸獵船を本邦の獵業者か之と競爭し今日に至り遂に其の足跡を絶つに至らしめしと同しくオホーツク海鰒漁業に於ても強く彼と競爭し彼等をして同海に來漁の跡を絶つに至らしめん事を希望する者なりし併せて其出漁の有利を證し其我が同胞がオホーツク海へ出漁する船舶の航路に付き一言すへし

遠洋漁船は其漁場に往復する日數の可成短からんを要す故に潮流等を利用すると肝要なり而して世人か知る如く本邦東海中は北東に流過する黑流あり往航には之を利用し航進する時は漁場に早く到着することを得へし然るに船長によりては此黑流中を航行する時は陸地を距ること遠く爲めに其位置に疑惑を抱き可成陸地を見失はさる樣航行するを以て南西に向ふ親潮の爲めに比較的日數を要す故に其の航路は必す此黑潮の

流域内に航行する事肝要なり而して此の暖流の流域は年によりて少しく異る事あるべきも其の幅廣く大体に於ては大差なしとす此の流域は渺たる海洋中なるを以て精密に知るを得ず只實驗せし航跡の經緯度を示さば以て其概要を知るを得ん余は六月一日東京灣を抜錨し堪察加の南端ロパッカ岬に至る迄十五日五時間を費せしに過ぎず此航海中は風向適良の日少くして無風の爲め漂流せし事三日又強風の爲め徒らに跼蹐せしこと一日少許其他は概して風力強からず之を平均すれば風力四强無論航海上に使用するビューフオルトスケールに依る位なりしに拘はらず僅々の日數にて占守島へ到着せりの爲め左に航走せし經緯を擧げん若しスクーナー形の少しく輕快なる者を用ふる時は尚速かに到着するを得べし今參考

六月二日	北緯	三四度三〇分	東經	一四〇度〇〇分	
仝 三日	同	三四、五〇	同	一四〇、五〇	
仝 四日	同	三五、二三	同	一四二、二〇	
同 五日	同	三六、二五	同	一四三、二五	
同 六日	同	三八、〇〇	同	一四五、四八	
同 七日	同	三九、三〇	同	一四七、三〇	
同 八日	同	四〇、四五	同	一四八、一一	
同 九日	同	四一、五六	同	一五〇、〇〇	
同 十日	同	四二、二五	同	一五〇、四二	
同 十一日	同	四二、四四	同	一五一、一四	
同 十二日	同	四四、一一	同	一五二、三二	
同 十三日	同	四五、五三	同	一五四、四四	
同 十四日	同	四八、〇二	同	一五五、〇二	
同 十五日	同	四八、五五	同	一五五、四五	

右の經緯度は其日正午の位置にして之を圖上に聯ぬる時は一直線ならず實際は北東の航路を採り進むべき者か其側天を迂回するの狀を呈すべし之れ帆船の航路は風向に依て左右せらるゝを以て右曲右折せる者にして以て如何ともする能はさるものなり然れども少許の迂回は其起程地より着達地迄の距離遠きものにありては其影響實に微少にして此北東の航路の如きは左曲右折するも其針路に及ぼす差は半點を過ぐる事稀なるべし前記の經緯度上を進航するに當ては米國水路部發行の「パイロットチャート」及「シーラースポックットブック」を參照し務めて潮流の域内を航行せんことを圖れり其の航

行中時には一晝夜四五十哩北東乃至北東微東の潮流に流され大に航進を助けられたり又報郊義會船長中川氏も北海に航するに同しく潮流を利用して航行し名つけて新航路の發見と稱するに至れり而して之を右の航路中の經緯度と對照する時は能く符合せりと云ふ潮流は其幅を測量せずと雖とも大抵百哩以上なりと云ふ右は東京より出帆する船舶に適する爲め擧けたり若し函館より北海に航する船舶の航路を定めんには函館を出てゝ汐首岬より直針路正東若くは正東より少しく南に偏する位即ち東二分の一南に航走する事二百哩乃至二百四五十哩にして此處より北東に變針して航進し北緯四十六度東經百五十五度の邊よりロパツカ岬に向ふて航進せば最良の航路ならん(東京附近より出帆するもの北東に向ひ航進し北緯四十六度東經百五十五度の邊に至り同一航路を採る)以上は往航の航路を示したり復航は前と反對に南西の針路を採り千島群島を距る二十哩余の處を航行し本邦附近に至りても可成陸地と遠からすして航進する事適當なるべし之れ南西に向ふ潮流の通過する時は速力を助くる事勿論也北海道の北西海を經てオホック海に進む航路に就ては余輩實驗せし事一回のみにして幾學非才擧けて云ふ事能はず敢て識者の教を請んとする者也北海に航する船長諸氏之を實驗せられん事を懇望するものなり

第十一章 堪察加オホック補遺

晴雨表及漁期表商業表

堪察加とオホックとは地勢上相離るべからざる關係を有し露國の統治も亦た隨て之れを一括せる事項少なからす故に其類別し難きものを纂めて補遺一章を揭く

晴雨の漁業に對する關係は極て適切なるものなれば之を漁期表の前に揭げて參照に便ならしむ

ペトルパウロスキーに於けるバロメートル平均及比較

		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
一八九六年	平均	740,0	752,8	749,0	750,1	750,6	751,0	751,7	751,9	740,8	741,6	739,9	740,1
	最昇	766,8		775,9	468,3	771,5	771,0	766,3	768,1	770,6	768,6	766,9	770,5
	最降	745,0		748,4	743,2	745,2	748,2	748,7	745,7	757,0	741,4	740,8	740,2
一八九七年	平均	738,9	740,6	742,2	737,2	748,7	748,1	737,4	738,7	751,0	737,2	730,2	725,4
	最昇	746,6	748,7	750,5	745,5	761,6	755,3	745,2	753,5	765,4	750,8	743,9	739,9

最降	728,8	732,6	731,5	731,4	735,4	735,3	725,2	729,2	740,5	730,8	722,4	717,9

オホックに於けるバロメートル平均及比較

一八九六年	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
平均	758,0		763,4	757,7	760,6	758,5	757,4	750,6	764,1	758,5	756,0	757,3
最昇	766,8		775,9	763,3	771,5	771,0	766,3	768,1	770,6	768,6	766,9	770,5
最降	745,0		748,4	743,2	745,2	748,2	718,7	745,7	757,0	741,4	740,8	740,2

一八九七年	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
平均			767,5	764,2	759,7	761,3	760,3	756,1		762,8	754,5	
最昇			778,6	771,8	769,6	764,8	767,1	764,4		770,7	767,0	
最降			754,4	746,0	745,3	753,0	752,3	748,5		753,9	743,8	

オホツク及堪察加諸川河漁期

河名 魚名	鱈	鰈	鰊	ウイキー	魚	チアウイチア(鮭ノ一種)	クラスナーヤ(鮭ノ類)	鱒	ハイコー(鮭ノ類)	ゴリーツア(小魚)	セムガ(鮭類)	ミキジア(鮭ノ類)	キーナリチ(鮭ノ類)	クンドザア(鮭ノ類)
ウダー	五月十五日	仝十二日	仝二十日	仝九日			七月一日							
ウークタイヤ及アルダーン	五月二十日	仝廿五日						六月十五日	仝十八日			六月廿日		
プホタ及クワトイ	四月廿日	仝十五日	六月一日	仝一日			六月十四日	仝八日	仝六日	七月二日		七月五日	七月六日	
イーニヤ			六月五日	仝五日			六月十三日	七月十三日	仝八日	仝十五日		七月一日		
ヤーナ(タウイスク村落)		四月廿日		六月七日				六月九日	仝一日	七月廿日	稀			七月廿二日
コーラ			五月一日				六月三十日	仝十五日	仝十五日	八月一日		八月一日		八月三日
ヤーマ	五月廿五日	仝廿五日				稀	七月十日	六月廿五日	仝二日	七月廿五日	八月廿日			六月廿七日
タフトヤーム		四月十日					七月十日	六月七日	六月五日					
ギジガ			六月十日											
ペンジーナ	四月二日	仝二十日					六月三十日	仝十五日	四月六日	七月十五日				
レスノオフカヤ	一月一十日	五月十五日		六月一日			七月一日	六月卅日	仝廿九日	九月五日			八月二十日	仝二十日
パラナイ	一月廿五日			五月二十日		五月十五日	六月二日		七月一日	八月二十日				八月一日
テギーク	一月二十日	五月十五日		六月一日	五月十五日	五月十四日	六月二日	七月廿二日	六月二十日	七月廿五日	九月二日		八月廿三日	七月十五日

ペロガローフカヤ	[illegible]	[illegible]		[illegible]	五月二十日	仝廿二日	六月二十日	七月十五日	六月十日	八月卅日	[illegible]		八月廿五日	仝二十日
クルトゴーロワア	[illegible]	[illegible]		五月十五日		五月[illegible]日	六月五日	七月廿五日	六月二十日	七月十五日	八月廿五日		八月六日	七月廿七日
サポチチナヤ	[illegible]	[illegible]		五月十五日		五月十日	六月廿九日	七月十五日	五月十五日	七月廿五日	八月卅日		八月二十日	七月二十日
オプクウコイナ	[illegible]	[illegible]		五月二十日	仝十五日	仝九日	七月一日	仝二十日	六月七日	七月十日	九月一日		七月五日	七月廿五日
ウオローフスカヤ	七月二十日	五月十五日	[illegible]	五月二十日		五月九日	六月一日	仝二十日	仝十五日	七月十二日	八月廿九日		八月一日	仝三日
キフチニイ	三月十日	[illegible]	[illegible]	五月十五日		五月六日	六月五日	仝十八日	仝二日	七月廿五日			七月廿七日	
ボクシアヤ	三月十五日	四月十日				五月十五日	仝十日	六月廿九日	仝二十日	七月二十日	[illegible]		八月十五日	仝五日
ヤウイナ		五月二日	[illegible]				五月二十日	七月一日	六月二十日	七月廿五日		[illegible]	八月一日	七月廿八日
パラトワシカ及アウアチヤ		四月十五日	五月十日	[illegible]		五月八日	六月十日	七月十五日	六月廿九日	七月十九日	[illegible]	八月十五日	八月十日	八月二十日
カムチヤツカ		五月十日	六月一日	五月十三日		五月十日	仝十五日	六月廿二日	仝十五日	七月十日		[illegible]	六月二十日	八月十五日
ドランガ	四月二十日	五月廿日	五月十五日	[illegible]			六月十七日	仝廿九日	仝廿五日	八月二十日		[illegible]	六月廿五日	
キーチガ	三月二十日	五月十一日		五月三十日		五月廿五日	六月一日	仝卅日	仝二十日	八月十日	仝五日	[illegible]	八月一日	
キラガ	四月廿五日	六月一日	五月十日	[illegible]		[illegible]	六月十七日	仝二十日	仝廿五日	八月十五日	仝三日		六月廿五日	

當該地方の商業素より未だ互市の盛大を見ず然れども海濱の土人漸く輸入物資を迎へ物品によりては殆んど缺くべからざるの情態なり加之のみならず各商品の毛皮魚類を得る唯一の手段なれば其額數の如何に拘はらず通航者の考究を要すべき點となす刻下日露戰爭の結果堪察加に於ける物資の輸入絕無の姿なれば住民の生活に大打擊を與へたるや疑ふ可らず聞く所によれば薩哈嗹の邊境に於てすら現に飢餓に近づけると況んや堪察加オホツクに於てをや今左に商業商品二表を譯出し輸入物資の一斑を窺はしむ

オホツク及堪察加地方商業

	一千八百九十四年	一千八百九十五年	一千八百九十六年	一千八百九十七年
チウミイカン([illegible])輸入貨物	[illegible]	八三〇留	四、七二四留	三、八〇八留
アーヤン(コチイク會社)仝	[illegible]	七、二二二	九、七三八	一四、三三六
得茶輸入金額	一五二、三三〇留	一二七、五〇〇	一〇五、三七七	
オホツク(ウベヒ商社)仝	一六、〇四二	一七、五〇八	二、七八二	[illegible]
同(ヲビ商社)仝	七、四〇六	六、四六八	五、二四一	[illegible]

黒龍江沿海商會 全	九、七三八			
コチイク會社 全				一、八六二
磚茶輸入金額 全	二四一、三三三	三〇、五九二	六八、三三六	
オーラ(黒龍江沿海商會)全	六六、〇一八	三六、五九四		
同(コチイク會社)全				一、二五三
ギジガ(ウベプル商會)全	六、五五七	二、六九一	二二、三七五	
同(エヌブル商社)全	一六、二八九	一六、七六七	二二、六二七	
同(黒龍江沿海商會)全	三八、〇八二	二七、三五一	三五、〇五七	
同(コシーギン商會)全	一〇、九三七	一一、六五八	一七、二〇七	
同(コチイク會社)				三〇、六七二
チイキーク(黒龍江沿海商會)全	三〇、八〇七	一三、四六三		
同(コチイク會社)全			一二、六九四	一〇、九五三
ペトルパーロフスク(コチイク會社)全	一四五、九一六	九八、七六〇	一〇八、九二七	
同(エルーフ商店)全	一〇、五〇〇	一二、〇〇〇	一四、五〇〇	
此地ニ輸入シ使用シタル貨物ノ全金額	三五八、二九二	二四五、三〇三	二四二、八七二	
ヤクートスクに送りたる茶	二九三、六四三	一四八、〇九八	一七三、七一七	
三年間の平均對照			二八二、二五六	

商品價格表

品目	オホツク	ギジーガ	ペトルパーロフスク	ターキル	アーヤン
	留 哥	留	留 哥	留	留 哥
黒パン粉壹布度(布度ハ我四貫三百六十五匁)	二五〇	三〇〇	二〇〇	三〇〇	
小麥粉三等品壹袋五十五フレト入	四、五〇	七、〇〇	三、六〇	七留乃至八留	八、〇〇
磚茶	五〇哥乃至七〇哥	八〇哥乃至一留	六〇哥乃至八〇哥	一、二〇	一、五〇
葉煙草壹フレト(一フントハ百〇九匁强)	四〇	八〇哥乃至一留	五〇	一、二〇	一、五〇
砂糖壹フント	四〇	五〇哥乃至八〇哥	三〇	五〇	八〇哥乃至一留
蠟燭壹フント	四〇	五〇乃至八〇哥	五〇	八〇	一、〇〇
石油壹壜		五〇	三五	五〇	五〇
手造密壹フント	一、一〇	一、五〇	一、二〇	一、五〇	一、五〇
小皿付茶呑茶碗壹個	五〇	八〇	五〇	一、〇〇	八〇
ブリキ製茶呑茶碗壹個	六〇	一、〇〇	八〇	一、〇〇	一、二〇
米國製斧	三留乃至四留	五、〇〇	四、〇〇	五留乃至七留	六留乃至七留

更紗(並物)壹アルシーン	二〇番乃至四〇番	
綾金布 仝	四〇番乃至五〇番	
下等薄羅紗 仝	二留乃至一五〇番	
マッチ壹包(拾ヶ入)	二〇	
種々なる玻璃珠壹フント	一、〇〇	
細用紡績糸壹フント	一、〇〇	
犬用鎖	一、〇〇	
黒乾パン壹フント	四〇	
バタ壹フント	一、〇〇	

第十二章 住民の漁獵

住民情態

此境の住民は其生活頗る卑下にして人文の發展未だ見るに足らず然ども北邊亦北邊の物自らにして備はれり彼等は此天與の恩惠に生存して敢て天地を狹ましとなさず特に利のある處に人は集る殖民の以て漸く盛ならむとするもの所以なくして可ならんや

三五番乃至五五番	二五〇番乃至四〇〇番	
八〇番乃至一留	四〇〇番乃至七〇〇番	
四留乃至五留	三、〇〇	二五
五〇	一、〇〇	二留乃至一〇〇番
一、五〇	一、二〇	一留乃至一五〇番
一、二〇	八〇	一留乃至一五〇番
一、五〇	一、〇〇	一留乃至一五〇番

四〇番乃至六〇番	四〇番乃至七〇番	
八〇番乃至一二五番	九〇	五留乃至六留
五、〇〇	四五	二〇
二留乃至一五〇番	一留乃至一〇〇番	
一留乃至一五〇番	一、二〇	
一留乃至一五〇番	一、五〇	
一、二〇	一五〇乃至二留	

オホツク堪察加は荒寒寂寞の地なり其住民は戰を嫌ふ者遊牧を欲する者獵獵を希望する者漁業を念願せる者等にして凡て亞細亞人種ならざるはなし而して彼等は從順なり從順にして集團を喜べる彼等は箇々相寄りて二團一團各所に適當の生活場を得て以て自ら安せり

ツングス人は多く鹿の牧畜をなし其飼料採集に利便の地を卜して住めり青苔深き沿地は彼等の好苑圃なり樹林繁茂の山邊は彼等の好公園なり彼等は牧畜と獸獵に於て天性兒也ヤクート人は馬群鹿群を伴ひツングス人の後を追ふて叙上の場所に在りカムチヤダール堪察加土人の稱呼魚獵を海中に逸して之を河中に索め藥草採集の事も亦近年に至りて之れを知りたるに似たり

今彼等の業務及生活狀態に就いて概言せむ彼等の業務は漁なり獵なり彼等が漁獵に從事せるは其貧富に拘はらざるを見る貧窮なるツングス人は勿論一万二万の牧畜を有するコリヤク人と雖も之れに從事せり富裕なる土人は主に冬期の食料にせむと欲して漁業をなせり之れを以て貧窮者が之れに從事せざるもの無き所以のもの推して知る可き也然り貧困なる住民が漁業の期節に會したる時の其の熱心は實に想像外に在り一般に彼等の漁業は其生活上に於ける常食と補食物の二種に分たる即ちコリヤク人は補食と

なしツングス人及び家畜としての犬狗類は之れを常食となせるに由るなり

漁業

思ひ見よ漠々たる海面白雪解氷の消し去りて機逸す可からずとなし小舟を浮べて滿盛の氣に唱はるゝ歌さへ節は面白く直に彼等の春なるが如し

彼等の欲する魚族は彼等の出づる頃既に先ちて陸地沿岸に同じく春を樂しむとして到る曰く鱈曰く鰷此等は結氷の厚薄と地理學上の位置とによりて四月二十日頃より五月十日頃までに必らず現はれ來るを見る也

堪察加沿岸は一般にオホツク海北隅沿岸よりも魚類の來集期の早きを見る例之バラナ附近の如き一月中旬に鱈を見る也而して土人に之をタモにて取る也

オラ及ヤムスクに於ける鰷漁は五月中旬に開始す此時海岸の淺瀨には鰷も又來りて餌と運命を共にする也

或る場所に在りては多大なる鰊魚の群集を見る事あり例之アルマニ、オラ其他に於けるが如し一体彼等は日用食物の數のみを限りて補魚をなす之れに從事するには馬毛製の網の如きタモの如き鐵製の鍵の如きは彼等が最便の漁具として使用なす也此の氣節には到處松葉烟もをなして盛常に燃ゑ鍋中魚滿ちて煮ゑて直に食となり彼等の皷腹は毎

に飢餓を覺ゑざる也働いて食い食いて眠り醒めて而して又働く彼等は眞に食慾の動物なり睡眠の動物なり勞働の動物なり單純なる彼等は之れ以上を希望せざるに似たり豈又太古民ならずや

鱈獵の後にマリマ、ゴレツ(秋鮭)クンドウジャ(石班魚一名雨鱒)ツリク、ハリウス(鱒の一種)ミキジア等の魚漁は到處河口に流下し來り飛動轉して海中に入るあり是れ此の魚族が多期河中氷下に籠りて餌食に乏しく爲めに寒氣と飢渇に追ひられて新春を期待喝望せしに出る事而して此等の魚族は其行動を同ふし其習慣を均くし其性質を異にせざるの實情ありゴレツは三月二十日頃ヘリウス、ツレクと共に流下し始め四月上旬クンドウジャも亦降下し來りゴレツ、ハリウス、ツレク等を追ふて五月下旬河口に至るまで此等の漁族は其河口に游泳なせり此時に於て土民は之れを初春第一着の漁獲として從事す也此地に於ては每年四月二十日マリマ、ゴレツの漁獲に從事し之れに使用する漁具は馬毛製の網なりとす該網は土人自ら編製し或は之れが實驗に熟せるツングス人に作らしむ五月下旬には河の上流よりクンドウジャ降下し又海よりは鰊の淡水を求めて來たるありて於是六月上旬には海河の魚族相跳激して到處の河口に充滿し甚しきに至ては幾群の魚族水面に跳涌し一大堤防の狀を呈し其壯觀云ふ可らず此際オホツク河に於ては鰊魚

よりもクンドウジヤの群集の多大なるを見るウ[illegible]下河口在りては鰊魚の群集深く河上に溯りて五露里七露里にあるあり又たオラ及ギジガ近海に至りては鰊魚の如き常に灣内にのみ游泳する有り而して堪察加半島西海岸に於ては殆むど鰊魚の群集を見す去れど之に反してコリユ、(香魚)ウイカの夥多なる群集を見る事あり此等の魚族は此時巨浪に襲はれて河岸一帶に打ち上げられ爲に魚堤の奇觀を呈するありウリヤ、ボリシエレーチカ、ギリ、パラナの諸河に於ては此の奇觀を目觀する事屢々也然るに土人は夏期の魚獲を豫期して彼の奇觀を願みず稀れにマリマを取りて頭部及腹部を除却し之れを甘鹽にして蓄積し時に酸類を加へて歐人の口に適せざるものを美食となし以て滿足せるに似たり蓋し彼等は鰊魚を嫌ひ石班魚を忌みコリユ、ウイカをも犬飼用となし居れる也

クンドウジヤは鰊魚來集の時を以て海中に遊出し一度遊出しては發育充分なるまで河中に至らず生長したる者は腹部に筋子を包含し最數亦十斤より十二斤位となる此魚と共にモロオなる魚族あり數最貳斤乃至四斤となす土民之れを嬉好して常に魚獲す鰊魚の魚獲には大網重に差網を用ゐ即ち群魚進來の一方より網を卸す而して其方法宜しきを得ざる時は鰊魚網中に充滿して網爲めに揚がらざる事あり其一回の收獲は普通五千

本乃至壹万を下らず之れを一期間に概見するにオホツクオラ及びギジガ附近に於て凡そ壹万千本なりと云ふ當地方總計を窺知するを得ざるも其收獲の多大なる推して知る可きなりコリユ、魚獲にはチリプシカ、チエルスシアと稱する小目網を用ゆカムチヤダルはコリユ、をカナアチユとも云ふコリユ、は五月二十日頃より張止し二三十露里の上流に溯り適處に集合游泳する事二三回にして再び海水の方面に下だるなりコリユ、は鰊魚の如き集合性を有す彼は團を組み隊を爲し場所を選びて以て大に游泳す例之カウランスカ小河に突進すると雖も僅かに四五十露里の北方に横流せるウツホロウスカヤ河は顧みず以て場所の選擇に注意せるを見るに足らずや

總じて此種の魚類は佩犬用として貯藏さるゝものなり去ればにや彼等は漁獲の後直に地穴に投じ桶中に入るゝ等放擲の姿なり蓋し是れ狗犬の欲する所常に半敗半爛に在れば也

六月一日より土人斯業を廢す而して自己等が冬期の食料を得むと欲して前個の漁業に從事す到處に見る彼等の熱心は寔に想像に餘あり

自然を樂める彼等は此間に於て杜鵑雲雀の歌を聞き雁鴨を友とするなり明け行く御代の春日出度き吾等の如く彼等の日出度は實に此の漁獲期なあり乙なす

漁期に於ける魚族來集の狀態は既起の如くにして人到るも大熊來るも些の恐るゝを知らず遡らんとして互に爭ふのみオホツク堪察加沿岸一帶の區域に於ける鮭族は大別して五種類あるが如し而して此等は多く散卵の後に於て死す然るに土民には此等の死魚も亦好營養食物となるなり種別は如何曰く大鮭曰く紅鮭曰く鱒曰くハイコ曰く鮭堪察加半島南部堪察加河に於ける主なる漁業は大鮭にして此は一本十五斤より二十斤位の貫目を有し時としては一布半に遂するの巨量を有てるあり總して此が來集期は春來解氷潤水增加の際に始まる此地の住民は之を獲るにチイルチウと稱する「タモ」を以て造作なくすくひ揚ぐるなり住民一日の勞働に依りて獲る所は七十本なり而して此の漁獲は七月上旬別種の魚族來集を待ちて已むものとす

紅鮭は大鮭の遡らさる前に方りて現はれチヤウイチヤの後二週日にして上流に進む此の期節は五月下旬なるが凡そ一週間となす但知る少數は八月上旬に及び尙は遡るを知るなり而して或る河に於ては春秋二期共に遡ることあり此の紅鮭は大鮭より小量普通一本の貫目八斤とす之を鹽鮭とするには薄肉にして大鮭の厚肉に優ること數等なり鮭鱒に至りては個々別々に集合し或は時として相共に一團をなす其遡る期節は六月二十日より八月下旬頃迄とす鮭は日中に遡り鱒は夜間に遡る此等の量目は鮭にして六斤

より八斤鱒にして三斤半より五斤までを普通となす而して土民等は鱒の來集多き年は鮭の來集の少きを卜想するといふ鮭ハイコ(鮭の一種)は多大の繁殖力を有し來集期限も亦一ケ月以上に彌り土人一日の收獲も亦普通一千本なりとす鮭は恐怖の性を有し常に清水の透明なるを厭ひ降雨潤水の時を以て上流に急進す此の時に方りて土人の收獲は多量なり鮭の量目も亦增加して十斤乃至十二斤となる鮭ハイコに遲れて來集する者をキジウチウ(鮭の一種)とす此は九月下旬まで游泳しゴルキギメイ河に在りては稀に一月上旬にも其來集を見るなり

九月上旬ギジウチウ來集の時に方りゴリツア(秋鮭)海中より歸河すセミガクンドウツア亦友たり土人之を名けて秋漁と稱ふ其魚期冬寒の候尙之を繼續す然り此等は河水氷結の後と雖も温水を選ひて上流に溯るなりゴリツアの一部の如きは性頑にして質强遡に二千フイト(フイトは一尺許)の高き溯水に向つて激流に溯り遂には其體を痛め多くは死に至る

漁業の地理學的範圍を示さば則ちチアウチヤア、セミガ、ミキジアは堪察加河ワレクはオホツク沿岸鍊はオホツク海より西北沿海に當り或は堪察加半島東海岸の一部に集合するを見るペンジンスカヤグーバ沿岸に在りては魚類の來集稀にして土人コリヤク等は

遠く諸方に漁業を爲すなり

是れより此の地方一帶に於ける雜種住民等の使用せる漁具と其方法とを記述せん

堪察加オホック沿岸に於て飮乏せるは漁網なり是を求めんと欲すれば數百里を厭ふを容るさず價格亦頗る貴しオホック郡の或一部に於ては馬毛にて網を製し之を使用す而して之を他地方の求めに任かすと雖も完全を期せずんば販賣せずコリヤク人及カムチヤダルは蕁麻より糸を取りて網を製し之か使用二ヶ年を保たしむ彼等が製網には婦人の勞働非常なり而して之が修繕にも亦同樣の手數を要すと云ふ此の網は普通七サージンより十二サージンにして稀には十五サージンのものあり此れ以外大網ありと雖も其は村民の共有となせり

漁業に主として使用するは蕁麻製の差網にして丈十五サージン幅二サージンのものを通例となす時としては三十サージンの引網を用ゆるもあり此の網には袋ありて主にチヤウイチヤの漁獲の爲に使はる一般に河中に在りては大網は流水急にして不便なり之に反して海中に至りては大網を便利となす去れど魚數群集の氣節に在りては此大網は却て不可なりと云ふより全然使用する能はさるなり例之千八百九十七年六月のごとなりとす日本漁師五十名ウースカムチヤツキ河に來り大網を投下して之を引揚ぐる能はず遂に二方を破つて魚類の逃ぐるに任せ漸くにして引揚げたるも尙は六千尾を獲たりと云ふ盖し一網の收獲は六千尾を以て通例とす

チヤウイチヤ、ゴルイギン村の住民は釣を垂れて鱈を取るを利便とせり此の二ヶ村の沿岸よりオホック海に向つて十五里乃至廿五里の沖合に方りて一の淺瀨あり鱈其瀨に群集す又たベーリング海或はオホック海の或一部に群集するあり其數は莫大にして一見喫驚の外なき狀態なり然りメドニ島の東方に於て千八百九十三年の頃餌なき釣を投して收獲したるなりとあるを見ても其群集の如何に無數なりしかを推すに足るなり土人が斯の如き鱈の群集を知悉したるは半島西海岸へ斯魚漁獲の爲に來る米人に依て紹介されたるに由る米人ヒンソヤンソーは今ヤーウインに住む土人と彼との談話を綜合し之れを記述せしが一千八百六十年ヤーウインとオーゼルナヤの沖合潮淺き處に鱈の群衆を發見す由てフランチンコ外二名と直に會社を組織し斯業に從事す爾來十艘十二艘の船舶を之が爲に使用せり露政府之を聞ひて千八百八十二年無許可漁業禁止の令を發布したるも彼等は是に從はず尙は密獵を繼續せり

魚類は水温を驗して各自適する所に道を取る例之ホレーソ魚は攝氏二度半より十六度までの温度を好みセミガ魚は攝氏十度以下の水中にて散卵せず鱈も亦攝氏八度即ち華

氏四十七度を適温とせるに似たり而して魚類が好適の水温は土地の住民によりて其見
を異にす
前記アーヴインの淺瀬に於ける二十サージンの深所にて獲らるゝ魚類は量に於て甚た
大なれども總して好良ならず蓋し斯の魚に限りて此所より異動せざる爲め歐米人之を
漁らず去て鱈に走る彼等は鱈の漁獲は三十乃至四十サージン深所に限りて爲すの風あ
り而して是れ適當の漁獲法なり
其處には海底殆んど帶狀一露里に及べる群魚を見る是れ鱈なり鱈は總て北方より潮流
に逆ふて來り先づオーセルノーイヤーウインニ河の沖合海上に現出し此處を通過する
他魚族の接近するまでは滯留して去らず其他魚族愈よ接近すれば始めて西南のケラチ
ク潮沖の方向に動き其れより再び西北ポリセレッガの方面に行き九月下旬の頃更に道
を一直線に取て西方に退く於是鱈の漁獲期は終りを告ぐる也凡そ鱈の帶狀集合を見る
に一直線ならざるはなし去れば釣らんと欲する時若し此の帶狀集合の場所を離るゝと
どニサージンに及びでは鱈之を願みざるが故些しも獲る能はず而して此處に於て久し
く實驗せる漁師は此の海底の狀情を知悉せるが此の狀情も亦漁獲に多大の關係あり
海岸近く散在せる鱈には背上貝殼の如きものの附着じて其質劣等其味美ならず而じて此

の魚は則ち前記二十サージンの淺瀬に生けるもの是れなり三十乃至四十サージンの深
所に於て第二の集合より漁獲し得る鱈は丈長くして廿八インチなり是れ大なる部類に
屬す而して之れよりも一段小なるものは投棄して顧みず一度鱈を獲て甲板に引揚くる
や漁師は之れが頭を切り血を流がす是れ肉を白ふして味を良くする爲めなり一般米人
の帆船は二十乃至二十五人の勞働者を使用し其帆船には勞働者の人數丈の小舟を持て
り彼等が漁獲の方法を見るに各自小舟を浮へて之れに乘じ而て四十乃至六十の釣を垂
れて漁獲するを例とす大体の場合皆な爾かりとなすなり斯の魚漁獲の最好適場はヤー
ウイン村及びイックスキー河の沖合にあり此所にては十五人にて廿七日間に於る漁獲
數十八萬尾に及べりと云ふ蓋し是は通例にして敢て特記に値せざるなり此の瀬の流れ
は他の集合地より緩緩にして一人一日の漁獲數は通常六百乃至九百なり但し此は米人
の製造法粗雜ならざるが爲めに之れ以上を漁獲すれば却て一日の漁獲高の製法に力を
致す能はずして腐敗の恐れあれば也彼等は自ら釣り自ら料理し自ら鹽漬となす以て彼
等が如何に斯業に熱心なるかを見よ又以て収利の太大を判するに足らひ
通常製法に際して鱈一尾に對し鹽二斤半を用ゆ而して料理するとき記憶すべきは肝臟
なり彼等は之を取りて肝油の原料となす斯油の製法は其船に蒸氣器を備へ直に其場に

於て製造す肝油一月半の製造高は一万ガルロン(一ガルロンは二升五合二勺)なり收入亦意外の逸にあるもの哉鱈を塩漬とするには骨を去り肉のみとなす而して舌の如きは別に塩漬として美食の徒に尚は珍味の嘆賞を忘れざらしむ既に一尾に對して塩二斤を要する此の製法は千尾に對して一噸を要す去れば十八万尾に對しては實に塩二百噸を要するなり彼等は之を用意せり而して十八万本を製するなり蓋し十八万尾は先つ以て好漁獲と云はざる可からず米人は此の鱈に由りて如何なる利益を見つゝあるか帆船桑港を發してより往復五ヶ月船員の給料及食料を一ケ月二千弗と見積れば五ヶ月にて一万弗を要す而して收獲高の利益分配を見るに一等航海者に千本に對し三十五弗二等航海者に二十七弗普通漁夫には二十五弗の割を以て分配し十八万尾收獲の上に於て諸費と分配額とを合算して總計一万六千弗を支拂ひたらんには十八万尾の鱈は市場に於て四万弗に賣却され加ふるに肝油一ガロンを一弗半とし一万ガルロンを一万五千弗にて賣拂ひ合計して五万五千弗となり之れより前記の一萬六千弗を差引いて結局三萬九千弗を漁業主の收得となす也但し此中には漁具船船体保險の諸費を省けり之は漁業主が其三萬九千弗の内より支拂ふものとなす是等は初年度に於てのみ要するの費用なれば船舶の如き比較的多額の費用を要す

と雖も爾は次年度よりは要せざるものとして其の收得の初年度に於て比較的些少なるを憂ふべきに非ざるを知れるなり要するに此地に於ける斯魚の收獲高は堪察加南部の土人が貂獵に相當す斯魚の漁獲は今日まで米人の事業に委したれども未來は此地土人の生活に非常の影響を及ぼすものなれば自然土人が有益なる事業と自覺し滿腔の氣を込めて斯業に從事するや必定也

是より話頭を一轉せむ而してオホツク沿岸に於ける他の魚族即ち鰊、ウイカ、香魚の漁業談を試みむ

鰊、ウイカ、アイの三種は主として肥料とされ或地に於てのみ犬用の食料となす去れど絶体的之れを食はすとは云はず彼の一千八百九十六年の冬期に於けるベンシンスカヤグーバのコリヤク人が村中の飢饉時には乾干せるアイを食ふて繞に其命を繋き居たりしを二度まで目撃したるとあり總じて土人等平生は此の小にして無味なる魚類を見る度に嘔吐を催すと云ふ卿か資澤の土人と云ふべきなり爾かれば斯種魚類の繁殖は非常にして最早繁殖の餘地なき程なり故に予は斯魚をして有用のものとなすには如何なる方法を取るべきかを考へたり鏥諧となすも可ならずや日本用の肥料となすも亦一策

於是想起す曾て裏海より無數の鰊大擧してオルガ河に溯りしとあり然るに斯魚も亦ヴエールの製法發見まで一州の商業機關に何等の好影響を及ぼすことなかりき加之住民にも亦何等の價を知られすして了はれりき敢へてありと云はゝ當時オルガ河口に在る住民が僅かに鰊より油を取るの方法を覺ゑ居たるなりきヴエール之れを覩て裏海の鰊が食用として非常の利益あるとを示したり於是住民は覺れり人々は安價にして有益の食料品を得たるなり製産場は造られ富の源は開かれたりオルガ河一帶が如何に魚類の饒多なるかは幾百の漁業會社あるを見て知るべし而して有名且つ隆盛なる會社は總て前記鰊魚漁獵に待てるものなり

飜つて堪察加沿岸及ひオホック沿岸に見る宛然オルガ河當年の如からすや土人は夏期の鮭漁を豫期して此の鰊魚を願みす而かも土人は僅少の漁獵に固着して他に供給の利益が如何に莫大なるかを知らさるなり

露國と朝鮮の境界附近にチウメニウールイ河あり斯河に於ける一定時期の鰊魚來集は非常に夥多なり之れを數字にして示さんこと實に容易ならす以て其の無數なるを知るへし斯くの如きはウード河口クフツヤ河口及びアヂツリヤン灣アバチンスクグーバ及びギジガ灣の東海岸をも編入せざる可からすギジガ灣のコサツク兵は吾等に語るらく曾て船を出し計らず斯の魚の群中に乘り上げ艇利かす櫂動かす之れを脫するの辛苦云ふ可からざることありしと以て其の量を推するに足る而かも此の無數の鰊魚は唯りギジガ灣のみにあらず上記の河口然り灣内然り靜洋の北海例之浦鹽附近に横はれるスラワンカ灣アメリカンスカヤ灣其他に於て鰊魚の群集は毎年四月十日の頃に發見されて而して斯魚は三週日此處に在り此の時に於て又サハレン島沿岸に現出し特に該島西海岸の一部及アニワ灣デルベーニ灣に至る漁夫之を稱して春魚と云ふ此の鰊魚はアルバンゲリのものと同形なり其后に於て又七月夏期魚の漁期來るなり此時は前者よりも其形小にして一本五ウエルショークなり然れとも膏膿ゆくして日本漁夫之を特別品と稱せり

之れをアワーチンスキー灣に見る若し春漁期早き年には斯魚多く五月九日頃に聚來し游泳して散卵す然るに此に面白き現象あり則ちゴルツイと稱する魚族の之れを知悉して河を下たり來りて此の散卵を食ふなり是れ此地土人の固く信ずる所豈奇ならすやペトロパウロフスク灣に於ては鰊魚七月中旬に來るカムチヤツカ河畔にては八月下旬一回の大集來を見る蓋し是はチルヒーチエ湖に散卵の爲め進行の途中に在るものなり此地土人は前記の如くにして斯の大漁を願念せず否飼犬用料としてだに漁獵を爲さゝ

るなり說あり彼等の飼犬料としてたに之れを取らざるは豫てパーリッ魚を貯藏しあればなりと[illegible]

此より北方イワシキンスキー、ドランカ及カアラガ附近には鰊魚六月十五日の頃より來り始む此の群集亦河口を壓すると雖も土人更に知らざるもの如し[illegible]

堪察加半島の西海岸には鰊魚概して稀少なり[illegible]

鰊魚はギジガ、ナヤハノ、オール、タウスク及オホツクの諸河に於ては五月廿日より二十三日までに殆んと時を同ふして來るなり去れとアヤン及ウード附近の諸川に於ける總ての魚類の群來期は他の沿岸に比較して甚た遲延す然り一千八百九十五年に於けるアヤンのチウイチヤの初漁は六月十三日頃なりきウードに於て鮭は常年七月一日ならされば來らず而して此の地には其間に於て鰊魚は北沿岸よりも幾日を遲延し五月下旬に來るなり是れ鰊魚は遠く西海岸よりオホツク海の西半に至りて群集し其れより各群各自の方向に別れシヤンタルスキー島の結氷に際會し此處に到る能はざるが故自然遲延するものなり[illegible]

鰊魚の群集は既記の如く無數にして而して今日は四十五年前のオルガ河に於けるが如く何人も其の利益を顧みざるなりサガレン島の漁業者[illegible]の談に依れば一千八百九十六年サガレン島より日本人が自國に輸入せる鰊肥料は二十六萬八千七百九十六プードなりき鰊魚を肥料とするに就いて今少しく之れを說かんに鰊魚は百四十本にて一布あり而して此の一布の鰊魚も肥料として餅となりたらむには僅かに十斤に減せらる去れは一布の肥料を製するには鰊魚五百六十本を要するなり然らば日本に輸入せる二十六萬八千七百九十六布の肥料は之を五百六十倍したる即ち一億五千〇五十二萬五千九百六十尾の鰊魚を漁獲して輸入せるものなり日本人は自國の土地を肥沃にせんと欲して一億五千余の鰊魚を肥料に製して輸入せるものなりと謂て之れを露國に見るに露國の水產局長の報告に依れば露國が外國より輸入する鰊の價格如何と云ふに實に七百萬圓なり請ふ左の統計を見よ[illegible]

[illegible]年[illegible]次[illegible]輸[illegible]入[illegible]

[illegible]千八百七十年 [illegible] 三百三十萬八千三百七十六布度

[illegible]千八百八十年 [illegible] 四百四十二萬二千九百五十六布度

[illegible]千八百九十年 [illegible] 五百四十三萬二千二百五十布度

此の表によれば露國に輸入さるゝ鰊の數量は年一年增加の傾向あり然り今日は多大の增加ある事實を見るなり思へアストラハンの鰊魚は年一年減却せるにあらずや從つて

其の騰貴は實に意外の高値となれるにあらずや而して目下一ヶ年露國は二千七百萬圓の輸入ななしつゝあり露國に於ては一千七百萬圓を流出しつゝあり

ウイカは堪察加半島の東海岸には來らざるも稀に北及ドウランキの邊に六月頃來ることあり之に反して西海岸に在りては實に多大の集合を見る五月下旬より六月中は之れが期節にして其集合地はボリシヤレツカ、カメンスキ、パンニ等なり此時に當りて土人はタモ袋等を以て岸より直に捕獲するなり

セミガ魚も亦西海岸に限りてボリシヤレツカ、オプルコウイナに至る間に群集し或は稀にアワチンスカヤグバの北方に當りて來ることあり而してセミガ魚は常に水温攝氏十度に限りて散卵し其散卵期は五日或は十二日間となす製造に三法あり曰乾魚曰鹽魚曰凍魚

乾魚は鮭鱒ハハリツ等にして土人は先づ之れが頭を刎ね二ツに裂き尾に至りて止め骨を抜き臟腑を棄て松葉木根等を以て料理中之を燻べ料理し了はり尾を括りて乾竿に掛け尚ほ屢ば之れを燻ムるなり蓋し此は蠅の付きて腐敗の恐れあれはなり乾燥は凡そ青天續きて十五日を通例とす

鹽魚は紅鮭大鮭等にして紅鮭は百尾に對し鹽二十斤大鮭は百尾に對し鹽百斤を要す之も其製造は前記の如くにして直に樽に漬け込むものなり

凍魚は土人が最終の漁獲期に於て爲すものなるが其方法は堪察加に於ては砂地を選ひて深さ一アルシン半(アルシンは二尺三寸五歩幅五六アルシンの穴を堀り之に竿を掛け魚を釣るし蓋をなし砂を盛り寒氣を利用して凍らしむオホックに在りては赤土の地を撰ひて深サ二アルシン幅四アルシンなる方形の穴を堀り何等手數を要せず唯投するのみ而して蓋を爲し凍らしむ堪察加とオホックとは方法厘かに違ひ居ると雖も甚しき優劣を見さるものゝ如し

三個の方法に於て記臆すべきは料理に際みての注意なり土人は頭を刎ぬると雖も之を遣棄するに非す此は甘鹽に漬け込みて美食となせるなり又凍魚は些の料理の手を要ぬず漁獲したる時其儘穴中に入るゝものなり

土人が之等を食料となすに當りて十月一日より翌年五月十五日まで即ち八ヶ月の費消高は幾千なるや統計は左の如し

地名　人口　鹽魚　乾魚　凍魚　合計

オホンク郡　一、二八二　二四、三八〇　五一、六四〇　一七三、七〇〇　二三九、七二〇

ペトロパウロフスク郡　六、三〇〇　一〇三、一五二　一七、一六六、四七五　一三四、三〇〇　一、五三三、八八七

此の表に由て見るときは彼等土人中オホツク郡にあるものは年ヶ年に一人二百八十七本ペトロパウロフスク郡にある者は二百二十七本の魚を食ふものとす而して彼等が之れを食ふ状を見るに乾魚は多く煮又は炙りて食ふなり　琉球は堪察加なるゴルイギン河の上流に産し赤、青の二種あり而して青色を最も多しとなす土人之れを採取するも其方法未だ幼稚なるが故に産物として見るに足らず其價格は七十五錢より八圓までとなす

獵業

黒貂（ソボール）

堪察加オホツクの土人は漁業以外亦獵業をも營む彼等が斯業中有利なるは黒貂獵なり黒貂は亜と西伯利に産するものに非らざりき則ち歐露北方に散在したりしが彼地の土人等之れを捕獲すること甚しかりしかば自然東亜北方に來たれる也去れば此地土人の捕獲に從事したるもの日未だ遠からず　土人の黒貂を捕ふるは獸皮となして食料飲料と交易せむが爲なりとす　黒貂は白狐及其他の動物と性質形体食物を同しくして棲所のみを異にせり其繁殖は稍や多し狩獵其の宜しきを得ば前途大に有望なり貂は兎角人を恐るゝの性を有す則ち遠く山嶺に棲むで容易に人をして其姿を知らしめず而して此の地の黒貂は堪察加ウドースキ郡及シャンタールスキ島に散在して其中間なるアホートツク郡には些しも棲ざず此れ蓋し土地其黒貂を棲ましむる能はざるなり

曾て黒貂獵の實況を聞にヅングス（土人の名稱）一個人が壹ヶ年の收獲高は七十枚乃至三百五十枚なりとすミンデンドロスなる者曾て黒貂獵の談話を爲しゝが其談詰は餘りに誇大に過ぎて信を置き難じと雖も其當時ウドースキより壹千枚を出せり

然れども現今の情況を見るに堪察加に於ける住民が壹ヶ年五十枚の收獲を爲したるを聞かず普通二三乃至五枚なり或る老獵者が三十年の實驗以て證ずる處によれば凡そ十六枚なりとヴードースキ郡にては堪察加に於けるより小獵なり土人は二年或は三年を經てシャンタールスキ島に出獵するも捕獲數年を減少の傾向を見る於是乎洲知事は濫獵を恐れて該獸捕獲制限の發布を爲せり其要に曰く

千八百八十二年

第一　黒貂獵期日は十一月一日より三月一日までとす

第二　保獲地を定むること

第三　罠獵を禁ずること

第四　各郡村の獵獸區域を定むること

此は一面貂の繁殖を計ると共に一面土人の徒勞を止むるに在り則ち發布以前に於て土人等は年中之れが濫獵をなすが故に出で爲に勞多くして獲る所極て少かりし洲知事は之を見て一擧兩得の法令を發布したる也貂の獵期は冬期より春期にして春期は該獸の發情期なるが故捕獲に最も容易なるの期節なり露政府が之を禁止したるは其發情期に當り獵獲の容易なるに乘し之を濫獲すれは竟に滅亡を招くの理なるを以て一面夏秋の徒獵を止むると共に此の禁制を爲したる也

今七ヶ年に於ける貂獵の統計を示さむに左の如し

	一八七六年	一八九一年	一八九二年	一八九三年	一八九四年	一八九五年	一八九六年
ウドスキ郡							
ヤツキンスキ郡							
	三三	一九	一、九六三	四一	二、四五六	六八三	三五四
ルトルバースキ郡	二、五〇四	一、八三七				五三	三六
			一、七四八	一、八三八		一、九七五	一、五六二

此れより捕獲方法を示さむ

土人禁制令の發布以來冬期之れが捕獲に向ふ而して彼等の行く時は既に降雪の後なり山野白皚々として宛然銀世界獵夫は此時に當りて網を携ゑ銃を肩にし茸々として從ふ獵犬と共に先づ山嶺に至り該獸の雪跡を拾ふたり此の雪跡に依りて牝牡を判知するは容易ならずと雖も土人は多年の經驗によりて多くの之れを知悉す牡は足跡小にして股間の廣きを見牝は足跡大にして股間の狹きを見る足跡見易き時は黒貂遠からず大雪の後は足跡見難し降雪少々なれば足跡消ゑ降雪久しければ前後混亂して分明せず要するに足跡を發見せば犬を放ちて後を追ふ黒貂若し居たらむには樹上雪中穴中皆之を區別して吠告す獵銃は散彈を用ゆ其粒一定せす遠近の差等により各異れり又穴中に在りては網を張り松葉を燻べて生きながら之を捕獲す然れども黒貂は怜悧の動物なり時として犬もに追はれては樹上より樹上に樹上より雪中に飛び渡り飛び下だり鋭敏なる獵犬も尚は端睨す可からざることあり黒貂の生活狀態を見るに山嶺河岸巖石の間に棲み柔草を褥となし魚肉を食となす鳥肉亦其好む所なり

黒貂獵の困難なる實に意想外にして二日三日を費し尚は一頭も捕獲する能はさること あり獵夫が此場合には大底小屋に宿るも多くは犬に托して歸臥するなり犬は此時主の命を全ふするに汲々として其處を去らず眞に人をして歎賞せしむ

概して彼等が黒貂獵に用ゆる器具は銃器以外多く網を用ゐ掛罠を使ふ網は細糸を以て造り中央袋あり凡そ三個而して網丈は普通十五サージンより三十サージンのものとなす

彼等が飼養せる獵犬は日本の地犬の如く其價は彼等土人間に於て賣買さるゝ價格は一頭五十圓を通常とすウドースキ郡にては百圓乃至百五十圓なりと云ふ

堪察加に於て其繁殖の爲め保護地を制定するに至るれは前記の如くなるが其他はアサチンスコエ、ジウパノフの二個所なり然るに一般保護地附近に於ける住民は時々禁を破りて其狩獵をなす是れは其地が他地方に比して常に收獲高の多きを見て知らるゝ也政府は保護地以外獵地區域を戸口に由りて區別し之れを與へおり於是他村民が其區域を侵して往々其繩張を爭ひ遂には之れが訴訟を起して侵犯者の罰せらるゝこと屢々あり土人中斯獵に熱心なるはコリヤーク人にして數十里の道を遠しとせず其捕獲高も亦た土人に比して頗多し千八百八十四年に五百頭千八百八十八年には九百七十五頭なり

要するに此地に於ける黒貂獵は最も有益の事業にして前途大に見込みあり唯其方法の宜しきを得て濫獵以て全滅せしめず一方に捕へ一方に殖やすの心掛を肝腎とす

狐と木鼠

黒貂に次いで主なる獵業は狐と木鼠なり、先づ左の表を一覽せよ

年次	種類	ペトロパウロフスク	ギジギンスク	オホーツク	ウドースク	アヤン
一八九一年	狐	八三八枚	一、〇四三枚	三二七枚	—枚	—枚
	木鼠	—	四一、五〇〇	四三、六八三	—	—
一八九二年	仝	九八八	一、四七〇	二九七	—	—
	仝	—	五六、四〇〇	三六、九九五	—	—
一八九三年	仝	三七六	一、〇五五	一、三二七	六二八	一五
	仝	—	五七、六二五	六二、三八七	四、三三八	五、[illegible]〇〇
一八九四年	仝	八二七	一、〇三〇	九五四	六二〇	八六
	仝	—	—	四四、四五〇	四、九九二	一三、四〇〇
一八九五年	仝	八二〇	二、〇九四	一、三四一	三一九	三〇
	仝	—	三五、六五八	五二、八六六	九四一	七、九六〇
一八九六年	仝	七〇五	三、九九一	四四一	一五三	一三〇
	仝	—	—	五三、〇一三	三二四	五、〇〇〇
一八九七年	仝	〇二三	一、七八〇	七八三	四三〇	六五
	仝	—	四七、七三五	四八、八四四	二、六四八	七、九一五

此表に據ればギジギンスクは最多なりオホーツク之れに次ぐ而して表中記入なきもアナデールの捕獲高夥しきは冬期商人の估買に出かくる者多きを以て知らる可きなり

狐に種類あり曰く狐(普通赭黄色のもの)曰く玄狐曰く斑狐曰く白狐等なり狐は大概夕暮に出で食を漁さる夜或は晝出づと雖も其は稀れなり此獸は河畔海岸に棲み多く魚を食

ふ其嗅覺に敏なる幾サンシンの雪下に在る魚と知悉して雪中を掘り之を取る如是を以て遠方より獵夫獵犬を嗅覺して逃逋す罠の如き忽ち人工たるを知る人若し手を觸れおりたらんには決して近かす故に獵夫は必らす手袋を穿ちて之れを扱ふなり又獵夫獵犬に足跡を晦さゝむとして左右に跳ね決して一直線に飛び去らず去れど如何なる場合に於ても其後足を以て前跡を消し去らず於是獵夫能く其足跡によりて判知する也該獸の獵期は十月より翌年三月までとなす弓を以てし罠を以てし陷器を以てし銃を以てする等捕獲の方法は種々あり

該獸皮の價格は其の種類に由りて非常に差あり狐は四圓乃至五圓斑狐は八圓乃至十八圓玄狐は五百圓を下らず此の如き良品はアヤン地方に而して産すと云ふ商估は之を五百圓に求め得れば其地に於て直に歐米の毛皮買出商人に千圓以上を以て賣り渡すなり

白狐は堪察加半島西海岸より北方ゴルイギンスク村の間に於て捕獲さる最多の産地はギジギンスクの苔地なり白狐は之れを二種に別つ一を純白色他を淡青色とす純白狐はアナデルスキ附近には多く産すと雖もベーリング海峽に面せるメドウニイ島に於ては年僅かに二三頭の捕獲あるのみ

木鼠の産地は滿洲より西伯利アホツク海北沿岸なり堪察加にはあらず鼠皮の收獲高は多大にして前表明記の如く年次增加し今や獸皮中最高位の部に屬す其類四種各地相異なり價格亦一定せず根黃色灰斑色の者はウイリユイスク、オクレミンスク地方（エニセイ附近）に産し窃黑色の者はウドースキの西方アムール洲に向ひ或は又オホツクに向ひて棲む根黃色縞窃黑色純黑色の者の産地はアルグンスキ、オホツク、チルチンスキなり而かも彼等は轉棲の性を有し食ある間は此地に棲むも食なきに至れば彼地に移るなり其轉棲するや一團を爲して非聚し遠く山野江澤を渉るなり而かも土人は之れを知らず故に十分の捕獲をなすを得す又其の食物は多く野果菌類を好む性質食物遥筋を知るは之れが捕獲乃至保護を講する第一要義なり

土人の獵期は十月上旬よりとす降雪の時に於いて其の足跡を知り又は樹上より樹上に飛ひ渡るを認めて重もに銃を以て獵す彈丸は散彈を以てすること有り要するに木鼠の獵は繁殖多大なるにも由りつらひんが又其方法の容易なるによりて收獲の夥しきものなり茲に記憶す可き一事あり此獸は夏期に於ては毛尖光澤あり頗る美なり去れど實用には適せず故に土人之れを夏期に獵せずして冬期に獵す其の賣買價格は一枚十五錢乃至十八錢なりとす

オロスソマ

オロスソマは貂に似たるに獣にして堪察加及ウドスキ郡に産す狐と共に冬期捕獲す此の收獲は年四十万至五十枚需用地は米國にて婦人の裝飾用に供す

ゴルノスタイ

ゴルノスタイは貂の一種なりアホック堪察加に産す捕獲高は年二三百枚價格は二三十錢なり

兎

兎は到處無數なり然れども土人之れを食はず皮も亦用ひず故に彼等は之れを捕獲せざるなり

猪

猪はオホックの西海岸なるアヴチンスキ、オパリノイ、ヴエリユチンスキ、マメチ等の山中に棲み秋季野に出づ土人は之を獵するに銃器を以てす其の肉の美なるを以て珍重す

鹿

鹿は家畜の外ギジガ、オホック、堪察加に産す其數夥多なり此の獸は菓實野菓水草を食ひ廣野山嶺に群遊す春季は堪察加よりアナヂル河を渡りて北方に至り又オホック及ギジガ附近の苦地に住す千八百九十四年オホックに於て二千五百八十八堪察加に於て五百七十五頭を捕獲せり平均一年の捕獲高は堪察加千頭アホック千五百乃至二千頭肉は普通六ブードあり大なる者に至りては体量二十五ブードなり皮革は土人等之れを裝具となし又は旅行用の裝具ともなすなり

狼

狼は夜半或は日中鹿を逐ふて之れを食とす土人は狼を林の神として頗る畏れ之れか獵獲をなす

熊

ペトロパウロフスク、アホック、ギジギンスク等は熊の産地なり純黒、猪黒、深黒、鈎黒、其他數種あり鈎黒の熊はアホック、アヤンに多く其性獰猛ならず雖も子を伴れて遊歩の時は人を害す

熊獵のは多く穴中に於てし又は山野に於てすペトロパーウルスクに千、オホックに百五十ギジギンスクに百頭は一年の平均收獲なり獵期は十月より翌年四月までとす五月下日より十月一日までは禁獵期に係れるを以て土人も之を獵せず露國政府の最初の布達は之れを獵滅せまとの事なりしに今日は却て此禁制あるに至れり

獺

獺は堪察加のゴルイギナ、コナ、オロフスカヤ、カムチャツカ河、オホツクのカワ河等にて多く捕ふ此獸は体小にして力弱けれども人に飛びかゝることあり去れど性素猛ならず敏に子伺ひせば人に馴るゝなり河氷の深き所に至りて魚を捕ふ土人はワナ或は氷を破りて棒を通す暫時にして人なきを見彼は其の棒を攀ち傳へて氷上に出で呼吸を息む此時土人は之れを逐ふて捕ふるなり千八百九十五年に於ける收獲を見るにアホツクに於て四十一、ギジガ郡に於て十七、ペトロパーウロスク郡に於て三百五十五頭なり黒色の純なるものを最上となし其價格は六圓乃至十二圓也

アザラシ

アザラシは五月下旬より魚群を追ふて來たる土人等之れを捕ふるに銃又はモリを以てす其の皮は機馬、犬等の網となし肉及脂肪は惡臭を厭はず之れを蓄へて食用とす毛は窈黒色にして白班あり千八百九十五年の捕獲高はアホツク郡にて二千百二十二、ペトロパーウルスク郡にて千六百五十七、ウドウスキ郡にて六百十二頭皮の價格は土人間の賣買相場壹圓より三圓までです

モルジユ

モルジユは鯨の一種なり大なるものは十五フート、色は黄褐黒の二種あり六月頃カルガキチガオリユトルスキ或は又カラギンスキ島に來り集り此處に一ケ月游泳す盖し魚群を狙ふなり体量普通八十プード土人は一頭を捕獲するに二十餘人相寄り皮張の小舟を以てす皮量二十プード皮價一百乃至二百五十圓ヒレは凡そ十五圓なり又脂肪三十プードを下だらずといふ米人之れが密獵に來たり土人を雇ふて捕獲す而して千八百七十八年には千五百頭を得たり斯くの如き狀態なればモルヨユは年次減少の傾向あり捕獲方法は鐵砲モリにて鐵砲は耳を狙ふて放すを可とす

鯨

堪察加の東西兩岸カラギンスク、アナデリスク河口、ペンジンスク、ヤムスク、オリユスク灣等に魚族の來集多きを以て白鯨は其の魚族を逐ふて到る此の獸は恐怖性を有す砲聲を聞けば水中に潜みて數里を逃ぐることあり故に土人は之れを捕獲するに銃器を用ゐずモリを使ふ而してモリには浮器を附し之れを目標として死したりと思ふ時を計りて引き上ぐるなり白鯨捕獲の目的は脂肪に在り價格一プードに付き八十圓之れよりグリシを製すといふ此獸の棲所は水温凡そ攝氏八度なり其他總ての鯨はアホツク海に四ケ所即ちシャンタルスク島、オリスコ、タウリースク灣ベ

ンジンスキー灣カムチャツスキー灣又はベーリング海に三ケ所即ちカラギンスキー島及ひベーリング島の西海岸なるバロン灣コルアル灣に六月より八月の間に來集すシャンタルスキ島及ツグリスク島には六月以前に河を指して溯る捕鯨の方法は銃砲の二種なりとす

海鼠

海鼠はアホツク沿岸なるタウイス村アルマン村との間に産す土人之れを取りて支那に輸出す其價格少々に非らず

第二篇　薩哈連島

第一章　概況

北蝦夷の名稱更に印し我か前傑苦辛の跡をして歸せしめ其の天庫の富吾人の手を附くるに由帝國の版圖樣太をして全然露國の領土に歸せしめ以來茲に三十餘年今や露國と干戈相見るの已むを得ざるに至り三十餘年ながらしめし以來茲に三十餘年今や露國前の舊を憶ひ我か戰後の企圖吾人の福田を求むる所箇の舊版圖か眼前咫尺の間に彷彿たるを感せずんはあらず先つ本島最近の現狀を述へん

千八百七十五年本島露國の領有に歸せし以來銳意徒刑者を流置し人口の增殖を講せしも對岸西比利亞開發の急に際し北の流資の平均大に劣り竟に邊島荒僻の感を脫する能はす各自獨立の移民極めて小なく千八百九十七年に至るも其の總數僅かに三万三千二百餘人の統計を見る而已なりし而して其種別を問へば

種別	人口
露西亞人	二九、〇〇七
アイノ人	一、三九九

ギリヤーク人　一、九一二
オロチョン人　七七三
ツングース人　一五七
ヤクート人　一三
計　三、三二六一人

以上露西亞人は徒刑者其の大數を占め居る故男二二、六四一女六三六六なるも其の他は土人の種族なるを以て太しく男女配過の割合を失ひ居らず而してギリヤークは專に北部に住しアイノは南部に住せり

本邦人の通漁地は多くコルサコフスキ郡の東西南沿岸にして昨三十六年鰊の漁收の如きは實に著じき增進を見しなり今其の三十六年六月下旬迄の漁收額を擧れば

東海岸（日人）　九、七三〇石　五九〇
（露人）　七、四七〇〇
アニワ灣（日人）　一三、四〇〇〇
（露人）　六七、四〇〇〇
西海岸（日人）　七二、九〇〇〇

合計　一七、四九〇〇

而して前年即ち三十五年に比して五千石餘の增收を現はしたり加ふるに六月迄は未

た鰊漁終了の期にあらされば前年の同期節に比較して起算する時は裕に五万石以上の增收を加ふるに至りしとするは遐算なきを信ず又鮭鱒漁收額の大數を擧くれは

アニワ灣（日人）　二、六六八　一、〇三〇
（露人）
東海岸（日人）　六、六五〇　五、九〇〇
（露人）
テルペニヤ灣（日人）　九、〇九九　五、一五八
（露人）
西海岸（日人）　一、九〇四　六六
（露人）
合計　三二、四七五

即ち之を前年に比すれば鮭鱒の本場とも稱すべきテルペニヤ灣に於て我か通漁者の漁收は多少の減少を見しも東西海岸とも非常の豊漁にして前年に比し東海岸は四倍西海岸は二倍強の增額を示せり

更に一昨三十五年本島水產の種目數量を擧けむに

鰊	粕	一、一三一、五八七瓩度
鱒		二一六、八一八
鮭		二九、二九六
魚	油	一九、七二五

乾魚	一、六三七
數ノ子	二八一
筋子	二〇四
身欠鰊	一七七
昆布	四五、九五九
鯨脂	四、八四七
鯨油	一六〇
鯨骨	一、〇〇〇
計	一、四五一、六八一

（我百石は露量九百十五布度に換算す）

此内日人の收獲七七三、九六〇布度にして露人の分六七七、七二一布度なり然れとも露人の漁收と稱するものは多く其の漁場を露人の名義下に置ける結果なれば內實は我通漁者の漁收に係るもの大部にあるを知るべし而して我か通漁者明治三十二年以來の漁場數及漁收を擧け是れを比較すれば

漁場　一石高

三十二年	二二二　七七、六〇二
三十三年	一二六　五七、三五七
三十四年	一一七　六八、六六九
三十五年	一〇七　八四、五八五
三十六年	九九　一一三、六三九

三十二年は漁場數增加の絕頂にして隨て其漁收も增加せしが露國の制壓策は此の時に於て苛酷に勵行され三十三年は俄に下りて半數となり爾來順次漁場は減少せしも漁收に於ては漸々增收の傾向あり

茲にコルサコフ領事の調査に係る三十五年に於ける我通漁者の漁業に費せし費目六十萬三千六百五十六圓露國地方廳に納付せし諸稅金八万〇五百七十九留餘をして其漁收額の見積代金總計八十四万六千百三十九圓餘より差引けば純益金十六万千九百四圓餘となる即ち之を我通漁者三十五名に割當つれば一名四千六百廿五圓餘となる然とも是れ官廳の空算に屬し眞想を窺ふに足らず這裡の實相は露人の苛虐なる制壓下に於ける通漁に屬すれば自他各種の冗費極めて多く爲めに一人平均四千六百餘圓の純益平均を見るは殆んとあり得へからさる事ならんか吾人は更に當路の一考を促

さんと欲する也

露國政府か魚族保護に關し太しき注意を加へ來りたるは之を前述の通漁者制壓手段に見ても明なり是れ露國の魚族保護は他日其土壌と共に我れには復すべきものと信ずれば今よりして發者我か北海道の濫漁を再演せざること特に吾徒の切望する處なり故に煩を避けずシミット博士か昨年發表したる紅魚保護意見の抄譯を掲く紅魚は鮭族の上品にして通過性魚類に屬し繁殖力極めて微弱なりと云ふ同博士が現今の濫漁は遂に其滅盡に至ると論せるもの犯憂の過言にあらざる也

シミツト博士薩哈連島紅魚保護意見

我か極東の諸海たる白冷海オホック海及日本海の魚類鯨臙肭臍及其他の産物に富み且つ其産物の數も亦露國諸海中他よりも遙かに多きことは既に露領極東地方へ初て探檢者及旅行家の來りし時代より世に知れ渡れり極東の現在及未來に關し多少精細の著述あり諸河に於ける紅魚群來の壯大なる現象諸海に於ける鰊鱈の無盡藏鯨群及臙肭臍無數群の散在せる諸島等に就きて言及せり此等の記述は他に引用されて其の粗笨の譏を免れさりしこと實に稀れなりとせさるも兎に角已に我文學界の流行物となりて今や我か極東諸海の魚獣に豊富なることを知らさるもの蓋しあらさるべし

晩近我富源の大部は既に減少衰廢の狀を呈せり即ちコマンドルスキー諸島及ひチユニ島の臙肭臍棲息地は米國及日本密獵帆船の活動に依り痛く蹂躙せられ千九百八十年代末より臙肭臍獵は從前の四分一乃至六分一に減退し臙虎は極めて稀有となり殆んと屈指し得るに至れり曾て岸近く見へたりし多數の鯨群は僅少となり我鯨獵家は益々遠く出て、獵するに至れり恐らく紅魚の富も亦減少したるならん若吾人大確信を以て其減少を斷言し能はずとせば之れ往時柯人も正確に漁獲高を記載せさりしと現時も極て概數を除くの外統計なきに因るのみ

産業上の魚類は其の生活の狀態により海棲及通過性魚類に判然分類するを得前者は淡水に全く關係を有せず專ら海中に於て漁獲せられ後者は散卵の爲め河中に入り河口若しくは河中に於て漁獲さる

極東に於ける我最大の富源は即ち通過性魚類にして無數の紅魚族鮭鱒、ネルカ、チヤウイチヤ、キジウチ)及鱒之なり紅魚族散布の主要なる中心点はオホック海にして同海は其外界の情態紅魚族の棲息に恰適するのみならず尚最も著しき水流即ち其西北岸に沿ひたる黒龍江及他の諸巨河を收容する産業の點よりすれば紅魚族中最も重要なる者は黒龍江水域薩哈連島及勘察加諸河に於ける鮭鱒にして此兩種は黒龍江口に於て最も多く漁

獲せられ堪察加諸河及ひ薩哈連島テルペニヤ灣亦之に富む此の種は南方に至るに從ひ漸く稀薄となる是海水溫度の昇騰に依るのみならず又散卵の爲め遡るべき大河の缺如せるによる蝦夷島及日本海の北部に於ては鮭鱒の棲息僅少にして現今に於ては既に殆んど絕滅せり

我紅魚族の富の如何に巨大なるかは千八百九十九年諸方面に於ける紅魚漁獲額を表示する左記數字によりて知るを得べし

堪察加百萬尾	一二五、〇〇〇布度
南部薩哈連島	三二五、〇〇〇
黑龍江下流	五〇〇、〇〇〇
北部薩哈連島二百五十萬尾	三五〇、〇〇〇
蝦夷島	一六〇、〇〇〇
計	一、四六〇、〇〇〇

斯の如く一千八百九十九年オホツク海及日本海に於て最も概算的にして粗漏極まる計算によれば紅魚約百五十萬布度を獲其の數約千萬尾に當る最近年間に於ては前記の如き詳細なる報告を有せされとも紅魚の捕獲は尙增加せり即ち既に一千九百年堪察加に於て紅魚四十五萬布度を獲黑龍江に於ては漁場の數及漁業の規模年を追て擴張せらる此高價なる魚類の全額は性質上甚劣等なる日本式乾燥製漁(容器を用ひずして鹽製するを事に擬せらるは是れ我か極東地方に於て主要なる漁業者は日本人にして我魚類の市場は日本函館港なれは也

斯る製法にては魚類の價甚た賤しく一布度に付き一留七十哥乃至二留なり然るに斯かる賤價なるにも拘はらず千八百九十九年漁獲したる紅魚の價格は必すや二百五十万留乃至三百万留を下ることなけん

翌一千九百年には薩哈連島黑龍江及堪察加より日本へ輸入したる紅魚二百十八萬八千留に及へり而して沿海州地方に於て需用したるもの盖し百萬留を下らさるへし極東に於ける紅魚の漁獲高と全歐州露西亞に於る漁獲高とを比較する亦興味なきにあらさるへしオグリムの計算によれば一千八百九十三年歐州露西亞に於て紅魚二百八十萬布度を獲現今に於ては「スチトツク漁業の哀微により尙減少したるへし)一千八百九十九年極東諸海に於て百四十六萬布度を得現今尙多かるへし前者の半數以上を組成す

斯く既に現今極東に於ける紅魚族は著しき富を表はし少からさる収益を與ふれとも惜哉通漁者及ひ魚類買収者の日本人なるか故に其収益の露國領土内に止まるは極めて小

部分のみ茲に壯快なる現象は一千九百一年堪察加に於ける堪察加貿易殖產會社か大鑵詰製造場を開設したる事是也此製造場當初の規模は甚た大にして秀逸なる鑵詰めを製造したるか聞く所によれば本年此の業を廢したりと云ふ眞に惜むべき次第なり

是に於てか極東に於ける我最も重要なる紅魚の富源は如何なる程度まて鞏固なるや此の富源は長く吾人の爲めに充足するや又利用法は現今行はるゝ如き情態及規模にて適當也やの問題生す

去れと上述の問題を仔細に觀察すれば吾人は悲むべき結論に陷るべし此等富源の如何に饒多なりとは云へ魚類中通過性魚類特に紅魚類の如く容易に滅亡し又希望少き者は非す魚族滅盡の例は吾人の眼前に不遠即ち北米太平洋沿岸に紅魚族の豐富なりし事現今の我國の如くなりしも利用する事數十年にして其の富は絕滅し現今其の漁場は人工蕃殖法によりて維持せらる北部日本蝦夷島に於て前世紀の下半期には現今の堪察加に於けるか如く紅魚族は濃厚なる群を爲し諸河に入れり日本の一著述家(高尾北軒)言く一網を以て能く數萬布度を漁せり石狩川に於ては漁期に方り棹す事能はさりき若夫れ魚群中に櫂を投せば立て倒れさりき然るに最近十年間には先きの魚河は貧瘦し紅魚族は絕滅す日本政府の設立に係る幾多の魚類養殖場あるも尚且つ漁獲額の昇昂を助くる事

能はす

露西亞移住民か初めて現今の浦汐斯德に根據を占めたりし時は魚類の諸河に充滿するを見たり紅魚群來期には魚群を目擊するを得小川の餘り深からさる所には銀色の魚背水面に現はるゝ事ありたり移住民は網又は魚梁を以て小河を遮斷して捕獲したるなるべし故に方今は鮭鱒は黑龍江ニコライスクより浦汐斯德へ供給し浦汐斯德附近は甚少額を漁獲するのみ斯の如き現象は皆濫漁の致す所なりと謂ふべし實に前記三個の場合にも濫漁に因する魚類の減少を招きたるべし然れとも吾人思へらく亂獲は魚族の滅亡を速進したる而已漁獲法は科學の諸法則により最も合理的たりとも其結果は例令若干期遲るゝことあるも亦同一の悲むべき末路に陷るのみと

紅魚の富源絕滅の悲むべき現象の源因及其の避くへからさる不安固の理由は何れに存するや吾人の考ふる所に依れは其の根本的理由は通過性魚族の性質即其の河川に戀々たると其の蕃殖の能力に乏しきとにあり

海は鮭鱒其他紅魚類の根源的棲息地也紅魚族は甚微少なる幼魚にして海に成長し完成期迄棲息す吾人は紅魚族の海中に於て棲息する時間の如何海中の那邊に棲息するか又は何を食して生育するかを知らす今日まで紅魚の一尾たも海中の深處に於て捕へたる

事無し若し紅魚族が淡水に上る傾向を有せず海岸に接近せず又河中に入らさるせば吾人は恐らく今に至るまで其の存在を知らさりしならん而して動物學が斯くも稀有なる魚類を獲新種として之を記述するの機會を得へがりし事或は尚遲がりしならん（後略）動物學者及漁業者の爲に幸にも否らさりし魚族は生殖期に達すると同時に淡水を求め各地方に從ひ多少嚴定せる年内の或る時季に巨群をなして河中に上る此魚群は數十數百露里時として數千露里も河の上流に遡る魚類は諸種の隙礙に勝ち急灘を飛越べ漫瀬を通過し極東諸河に於て間々遭遇する所の浮遊木材より成る巨大の障礙物を通過する也（後略）數週間續く事稀ならさる此の道中に於て紅魚族の或種は全く變形す即ち河口及海中に於て漁獲せらるゝ美麗なる銀色の鱒は畸形となり蒼色に變し雄魚には巨大なる隆肉を生し上顎は鈎狀をなして屈折す且つ獨り全形体に於てのみならず又内部の構造にも變化を生ず即ち海中にある紅魚族の有する軟骨若しくは纖維織よりなる或る骨は全く骨質となり又歯は位置を變じ成長して巨大なる歯を形成し先に脂肪に豊富なりし鮮紅色の筋は蒼白薔薇色に變ず之に類似の變化は比較的弱少なりと雖も鮭就中其雄魚に於ても認むる事を得

河中に入りたる魚類は盡く其目的を達するにあらず多くは瘡傷疲勞及敵の襲撃により途中に於て死滅する也（後略）紅魚の變形し間斷なき進行の爲め衰弱し長時の飢餓（紅魚は海を去つてより絶食し只已れの脂肪にはりて生存す）にはりて疲勞し漸く生を全ふしたる雄魚及雌魚は遂に上流に達し極めて淺き所に於て透明新鮮なる水中の孵卵に適當せる場所を探索す此所に孵卵場起り卵を放つなり最も重要なる事情は散卵の量極めて少なきことにあり歐州産紅魚は三萬弱鰤は數百萬大西洋「ナユルポ」魚は三千萬弱を産するに我極東の紅魚は僅に數千を産するのみ少くも余か薩哈連島に於ける斷定は生殖期にある大鮭は卵三千二百八十五個鱒は尚下りて一千九百三十八個を與へたりき余日本の著書に於ても此の數字の確實なるを發見せり紅魚の海に達するは如何に遼遠なる道を旅行せざるべからざるか又生殖期に達したる魚の如何に大部分が孵卵場に達せず又散卵せずして河中旅行の途中に於て死滅するかに留意せんか全く平常の情態に於て何等外物の妨礙を蒙らさる場合に漸く現狀に於て魚類の生存量を持維すると得るのみなるは言を待ちて知らさるなり（後略）茲に猶二情態の叙述を要す他なし吾人は極東紅魚か生涯幾回散卵するかを確知せす特

に鱒に至りては生涯只一回河中に入り散卵するのみなるかの大疑問あり實に河の上流に於ては專ら隆肉を有するを認めず然るに頭骨及体軀に呈したる變形は著しく一度變形したる鱒の再び普通の者になり得るや否や頗る疑はし[illegible]鮭鱒か生涯一回散卵說の眞に近きは散卵後到る所河中又は間々河岸に沿ひ産卵を終りたる死魚又は飢餓疲勞傷痍の爲め斃死したる魚に遇ふ事ある情態を以て證明さる薩哈連島殖民たる漁師屢々余に確言すらく一度河口に入りたる鱒は復び海中に歸るものにあらずと此現象を觀察したる學者の意見亦斯の如し[illegible]兎に角散卵後紅魚の大部(若くは全部)の疑もなき死滅は紅魚富源の現狀維持に反映せざるを得ず若夫れ比較の爲め太西洋の紅魚を取らんに有ゆる障礙に勝ち散卵場に達し散卵後哀弱し疲勞せる雄雌の魚は亦流に從ひ海中に下るなり而して此の紅魚中若干部分の死滅を免れさるも巨量の死滅ある極東紅魚に於ける如き著しき部分のあらさるは眞なるか如し生存したる紅魚は翌年再び散卵するを得紅魚の生涯に於て數回の散卵繰返され且つ三千の幼魚の家長たるに非すして或は數十萬の幼魚の家長たるべし極東の鮭鱒は二三千の卵を産み且つ散卵すること生涯只一回なるありとは既述の如く而して孵

龍江上流の或處に産せし卵より孵化したる幼魚は安全に數千露里の旅行を終へ海に達するもの蓋し極めて少なし[illegible]余は又海中一定の部分に棲む紅魚の若干量は各河中に入り自然の配劑に依り上流に於て魚の散卵せし量は海に於て發達する成魚の量と切に適應すべしと思考す蓋し極東諸河に於て食肉魚の比較的少なかりしか將た他の良好なる情態によりてか各魚の産する卵量に甚僅少なるもの移動的平衡の維持せらるべきも若人あり生殖時期にある多量の魚を漁獲して秩序の整齊を紊亂せんか之か爲め散卵は漸く減少し其減少は何等の補充をなすことなく漸次海中にある魚の富源にも減少を來たし此減少は迅速に遂に全く貧瘠する也吾人か漁獲の制限及整頓に關し如何なる方法を案出するも亦如何に此の有害なる影響の減却に努むるも極東紅魚の漁獲は常に均しく悲慘なる結果を來すべし制限的方法は唯魚の滅盡を遲緩ならしめ得へきのみにして其滅盡漁獲の有害なる影響を阻礙する唯一の方法あり魚の蕃殖法是也吾人は魚卵及幼魚の減少を補ふに人工孵化により河中に放ちたるものを以てし同一程度に於て魚量を維持する事を得へきのみ此の蕃殖法を採用せさる間は紅魚の漁獲は自然の性質上我魚類の富に對し亂獲的にして亦危險なるべ

し

故に紅魚の富源は如斯希望なきもの也且其富源は獨り河を遮斷して行ふ現在の亂獲品にて一尾を殘さず漁獲する等によるのみならず又所謂假規則及仮ならざる規則を以て官廳の認可したる合法的漁魚法によるも容易に減盡する也

故に極東に於て吾人の目擊する紅魚獲の迅速なる發遂逐年漁場數の增加及魚類の如き斯く重要にして滋養ある産物の富源に對し危險の伏する所は日本漁業者又は魚類貿易者の參加にもわらず又秀逸なる紅魚をして劣惡なる贋僞品たらしむる点にもわらずして多數の露人就中土人の産業及繁殖の維持を妨礙する漁獲法其物に存す

魚類の富は實に偉大なるものにして尙甚長久充足することを辨解するを得へきは論を不待然れとも吾人は斯る推論を以て慰藉し得へきか將た憂慮すへき權利を有するか吾人に無盡の如く見へたる富は實際に於ては數十年間に於て有盡となりし幾多の例を眼前に有せるか五十年代に於てツオルガ鰊及ウオブラ魚の無數群は將來稀薄となり此等魚類の不足を來すへき事を想像するを得へからしか余は現今時機尙遲からさるに望みて遯くへからさる減少を補充する爲め魚類蕃殖法を義務的分子として漁業期間に施行せさるへからさるかの問題を眞面目に論議するを要すと思考す殷鑑遠からす日本にあり

悔悟既に遲きに失し魚類蕃殖法を以てすら先きの魚富を恢復する能はさるにわらすや且今に至るまで諸種雜多の未決問題の詳知を妨害する極東紅魚自然科學上の暗黑點を精級なる科學的研究法に依りて詳明するの急は今日の事にわらすや

我極東河海の紅魚が貧瘠の時を待たす今日は他の我産業上の富即比較的有望にして滅盡の憂少く且泰西に於ける經驗より推せば實際に無盡藏の富を一層手廣く且つ秩序的利用に苦心するを要す余の言ふ所は今日まで紅魚富源の滅盡を著大なる程度に於て防止し且つ現時の好機會に際し紅魚富源を種蒔する産業の勃興につき之れか留意を要すと信ず（コルサコフ領事館飜譯外務省への報告轉載）

第二章　地方區別

露國は本島を沿海州知事の管下に置きアレキサンドルに其の行政廳を設け之を三郡に區分して行政事務の便宜を圖れり

西海岸ナヨシより北端エリサベスに至る北西方面はアレキサンドロープスキー郡となし北端エリサベスより東海岸テルペニエ岬に至る北東方面をルイモフスキー郡と稱せり

西海岸ナヨシよりテルペニエ岬に至る南部一面地方をコルサコフスキー郡と稱せり

アレキサンドルスキ郡

本郡は島の西北方面一帯の地域にして間宮海峡に沿ひニコライフスク一帯の海岸と相對せり而してアレキサンドルスキよりデカストリ灣との間に海底電線を通じ又其間一ケ月二回の定期航海滊船ありて通信交通の機關克く備はれり氣候はアレキサンドルスキに於て七月中平均華氏六十三度一月中平均零下一度半也間宮海峽は例年十一月より結氷し翌年四月下旬乃至五月上旬迄は人馬氷上を渉り大陸との交通極めて便也殊に郵便物等は犬橇を用ふ五月に至り激烈なる出水と共に海峽一面の氷は忽ち壞滅して海面晶々碎々たる偉觀を呈す一面の地勢大陸と咫尺の間にあるを以て十一月より二月に至るの間風力穩和航海極めて安全也

本郡は近時漸く蔬菜の栽培を講究し養鷄北他家禽飼養の術も稍進歩の傾あり故に對岸ニコライスク地方に多く蔬菜の供給をなせり最近數年間は鷄卵の輸出も始まりしと云ふ故に本邦人の出漁者等も時に漸く野菜を得るの便あり

中央一帶の山脈及其支脈谿谷の間樺落葉松樅の類茂生し諸種の用材薪炭除りありアレキサンドロウスキ政廳は漁業林業を一括して之を處理せり之れ其漁業に對し薪炭の用あると魚族の保護所謂魚附林の濫伐を制止するとに注意せる結果なり露政府か其森林保護を以て魚族の保護となし漁業と薪炭を以て相離るべからざるものとし敢て濫りに斧斤を入れさるは我北海道沿海の濫漁に伴へる其の森林の濫伐を貨諾せし當事の爲めに他山の石と見るに足らんかな

本郡の沿海鮭鱒の漁場多し老漁夫の話に其魚道はオコック海の魚群春季に際し順次西北方位に向ひ箇の間宮海峽に入り黒龍江口を始めとして海峽西岸の諸河口を求め上流に遡り散卵すると云ふ

本郡の沿海は西北方面に當るを以て露人監視の煩避くべからず加ふるに水路の遠隔を以てし其漁利の邦人に收められ居るは黒龍江口對岸のタムラオ左右に於ける十余の漁場のみ爾後戰局の結果は露人監視の煩亦た其跡を留めさるに至る期すべければ斯業の諸人宜しく鋭を養ひ之を期待せよ

此の海岸の漁場は概して優等なれば春秋鮭の漁收三萬石に上ると云ふ漁場の情態は一二の寒村土人の栖息せるのみにして冬季多小の狐貂熊等の獵收あり皆土人の職業たり

間宮海峽は黒龍江口泥沙の流出甚たしき爲めニコライスク以北は海水甚淺く大船を通し難し數年前一條の水路を發見せしも幾ばくもなく泥沙滿々として百噸前後の船を通するのみ然れとも黒龍江流氷の期に至れば海峽の大部は泥沙漠々として百噸未滿の吃水淺き船舶も容易に航

走せしむべからず唯だニコライエフ迄は千噸以上の船舶を通ずるを得るも僅かに黒龍江口の北面に至れば潮水清淺露國の徒刑囚往々海峽を徒渉して本土に逃走す其海峽の深からざるを察知するに餘りあり

上述の如く海峽北端の部分は海水甚淺きに加へ濃霧帶に屬するを以て航行更に困難也故に露政府は解氷を待ち探海船を出し其の水路に目標を浮ふるも濃霧の爲め浮標を見る能はず往々數十時間航行を停止するの已むを得さることあり海峽往來の船舶は如斯土里斯灣に於て水先を雇ふを常とす其水先者の水路に暗熟せるにも拘はらず年々船舶の擱沙するもの其の數太た夥し

本郡の沿岸はギリヤク種の棲居多しギリヤクは魚食人種とも謂ふべき種族にして必ず海岸河岸に棲居し漁獵を事とし其遊惰の情倚アイスの上にあり本邦人の漁場にも往々雇入るゝ事ありニコライスク地方にては露人の虐待により太しく狡猾の度を高め稀れには多少の貯財せるものありと云ふ十年以前ギリヤクは各自の性名を附せずアンダ の一稱のみなりしが近時は各自其の名を附し居れり唯キリヤクは魚食人種丈けに接近すれば腥氣甚しく忽ち厭惡の感を起さしむ

本郡は多く黑貂、羆、熊、虎、狐、及麝香、獸等を產す從來土人の獵獲なりしも近時は露人の獵業

を營む者漸く多く隨て其獵獲も增進の傾あれども稍濫獵に流れ獸族の減少を見るに至れり此中麝香獸は藥店の所謂白毛(しろけ)と稱するものにして劣等に屬すれども重要物產の一たる疑ふべからず近時は獨乙人の買占に着手するものありて極めて暴利を貪り居れりと云ふ

タムラオの北東に於て偉大なる石腦油坑發見され居れり或る技師の見込によれば其坑泉の發掘せられ設備宜しきを得るに至らば東洋諸國需用の大半に供給するに足れりと其の坑泉の有望なる推して知るべきなり昨年九月浦鹽駐在帝國貿易事務官の報告中に左の一節あり曰くバクー石腦油協會の調査に石腦油の產地は薩哈連の北端前も狹き部分バイカル灣の東方オホック海に沿ゐるオハ河沿岸地方及南方凡そ三百露里チャーイスキー灣の近傍ユタ河沿岸等に於て發見せられたり千八百八十九年礦山技師ハッエーウイチ氏の調査に依れば產地は同島を橫貫する分水嶺山脈の東斜面に橫はり居り該地には石腦油の外地松香(黑琥珀之類)の產坑あり南方石腦油坑はユタ河の沿岸地方に存在し谿谷より湧出して黑色の光澤を有する湖沼の有樣を呈し其地條は幅若干サージェン延長二露里に渡れり薩哈連石腦油分析の結果は十七度五の溫度にて〇、八九九の比重を示しバクー石腦油と